

博士学位論文

日本語教育文法における「部分否定表現」の研究

名古屋大学大学院国際言語文化研究科
日本語文化専攻

龔 柏榮

令和4年3月

目次

| | |
|-------------------------------|----|
| 第1章 序論 | 1 |
| 1.1 はじめに | 1 |
| 1.2 本研究の目的と考察対象 | 4 |
| 1.3 研究方法と使用コーパス | 6 |
| 1.3.1 研究の方法 | 6 |
| 1.3.2 使用コーパスの概要 | 7 |
| 1.4 本研究の分析に援用する概念 | 9 |
| 1.5 本論文の構成 | 12 |
| 第2章 先行研究からみる本研究の立場と研究姿勢 | 14 |
| 2.1 日本語教育文法の概観 | 14 |
| 2.1.1 日本語教育文法とは何か | 14 |
| 2.1.2 日本語記述文法と日本語教育文法 | 16 |
| 2.1.3 日本語教育文法が目指すもの | 18 |
| 2.1.4 日本語教育文法に関する本研究の立場 | 19 |
| 2.2 部分否定表現に関する研究 | 20 |
| 2.2.1 日本語学の観点からみる部分否定表現の先行研究 | 20 |
| 2.2.2 日本語教育の観点からみる部分否定表現の先行研究 | 24 |
| 2.3 本章のまとめ | 29 |
| 第3章 「ワケデハナイ」 | 31 |
| 3.1 はじめに | 31 |
| 3.2 先行研究と文法解説書からみる「ワケデハナイ」 | 32 |
| 3.2.1 先行研究と文法解説書の記述 | 32 |
| 3.2.2 先行研究と文法解説書の記述における問題点 | 35 |
| 3.3 使用コーパスと考察対象 | 38 |
| 3.4 記述方法 | 38 |
| 3.5 コーパスからみる「ワケデハナイ」の共起しやすい表現 | 39 |
| 3.5.1 不成立の可能性 | 40 |
| 3.5.2 逆接の条件 | 43 |
| 3.5.3 極端(全体・必然・高頻度) | 46 |

| | |
|--|----|
| 3.5.4 打ち消しの強調 | 48 |
| 3.5.5 取り立て | 50 |
| 3.6 本章のまとめ | 52 |
| 第4章 「トハカギリナイ」 | 55 |
| 4.1 はじめに | 55 |
| 4.2 先行研究と文法解説書からみる「トハカギリナイ」 | 56 |
| 4.2.1 先行研究と文法解説書の記述 | 56 |
| 4.2.2 先行研究と文法解説書の記述における問題点 | 60 |
| 4.3 使用コーパスと考察対象 | 62 |
| 4.4 記述方法 | 63 |
| 4.5 コーパスからみる「トハカギリナイ」の共起しやすい表現 | 63 |
| 4.5.1 不成立の可能性 | 65 |
| 4.5.2 逆接の条件 | 67 |
| 4.5.3 取り立て(限定・条件) | 70 |
| 4.5.4 極端(全体・必然・高頻度) | 72 |
| 4.6 本章のまとめ | 74 |
| 第5章 「ノデハナイ」 | 77 |
| 5.1 はじめに | 77 |
| 5.2 先行研究と文法解説書からみる「ノデハナイ」 | 79 |
| 5.2.1 先行研究と文法解説書の記述 | 79 |
| 5.2.2 先行研究と文法解説書の問題点 | 83 |
| 5.3 使用コーパスと考察対象 | 85 |
| 5.4 記述方法 | 87 |
| 5.5 コーパスからみる「ノデハナイ」によって否定される要素 | 88 |
| 5.5.1 必須格 | 89 |
| 5.5.2 必須格以外の格成分 | 90 |
| 5.5.3 複合格助詞を含む成分 | 92 |
| 5.5.4 副詞 | 94 |
| 5.6 本章のまとめ | 96 |
| 第6章 「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」の使用環境をめぐって | 98 |

| | | |
|-----------|--|-----|
| 6.1 | はじめに | 98 |
| 6.2 | 先行研究 | 100 |
| 6.3 | 使用コーパスと考察対象 | 102 |
| 6.3.1 | 「ワケデハナイ」の調査方法 | 103 |
| 6.3.2 | 「トハカギラナイ」の調査方法 | 106 |
| 6.3.3 | 「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」に共通する用法からみる共通点と相違点 | 109 |
| 6.4 | 本研究で用いる記述方法 | 111 |
| 6.5 | 前接語句からみる「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の使用環境 | 111 |
| 6.5.1 | 「ワケデハナイ」が結びつく前接語句の種類 | 112 |
| 6.5.2 | 「トハカギラナイ」が結びつく前接語句の種類 | 114 |
| 6.5.3 | 「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」が結びつく前接語句の比較 | 117 |
| 6.6 | 本章のまとめ | 122 |
| 第7章 | 「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境をめぐって | 126 |
| 7.1 | はじめに | 126 |
| 7.2 | 先行研究 | 127 |
| 7.3 | 使用コーパスと考察対象 | 130 |
| 7.4 | 本章で援用する概念 | 131 |
| 7.5 | コーパスからみる「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境 | 131 |
| 7.5.1 | ジャンル別の調査結果と考察 | 131 |
| 7.5.2 | 出現位置の調査結果と考察 | 134 |
| 7.6 | 「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境について-工藤(1997)に基づく検証 | 136 |
| 7.7 | 本章のまとめ | 140 |
| 第8章 | 結論 | 143 |
| 8.1 | 本研究のまとめ | 143 |
| 8.2 | 今後の課題 | 148 |
| 参考文献 | | 149 |
| 辞書類と文法解説書 | | 152 |
| 使用コーパス | | 153 |

| | |
|-------------|-----|
| 検索ツール | 153 |
| 考察教科書 | 153 |
| 謝辞 | 154 |

本論文の第3章と第7章は、以下の論文に基づき、大幅に加筆・修正したものである。

第3章

2019年12月 「説明の『わけだ』の否定形式『わけではない』が伝えるもの-日本語教育文法の視点からの文法記述の試み-」『台湾日語教育學報』33, pp. 165-191.

第7章

2020年12月 「『ノデハナイ』と『ワケデハナイ』の使用環境をめぐって-日本語教育における類義表現の扱いへの示唆」『日本語／日本語教育研究』11, pp. 67-82.

本研究における表記法・省略記号

- (1) 例文と図表には、各章ごとに通し番号を付す。注は各ページ末に挙げる。注番号は全章を通じての通し番号を付す。
- (2) 例文の後の()内に引用例の出典を示す。『日本語書き言葉均衡コーパス』からの引用例にはサンプル ID、レジスターを記す。『名大会話』からの引用例には『名大会話』と記し、会話 ID を記す。『現日研・職場談話コーパス』からの引用例には『現日研・職場談話コーパス』と記し、会話 ID を記す。誤用の実例の場合、検索ツール名と誤用 ID と学習者 ID を記す。例文の後に出典のないものは筆者による作例である。
- (3) 用例中の考察対象表現には、____のように下線を施す。共起しやすい表現にはのように波線を施す。考察対象表現の解釈に重要だと思われる情報には、のように点線を施す。
- (4) 例文を再掲する際には、例文の最後に(= (初出の際の例文番号))を示す。
- (5) 引用文中の筆者による省略箇所は、(前略)(中略)(後略)で表す。

第1章 序論

1.1 はじめに

「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」のような形式は文の一部のみを否定するため、部分否定を表す表現(以下、部分否定表現)と呼ばれている。これらの部分否定表現はいずれも聞き手の考えを否定するという点で共通している。ここでは、まず、本研究の考察対象とする3つの表現を部分否定として一括りにして記述した泉原(2007)を取り上げ、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」¹の共通点と相違点について概観する。泉原(2007)では以下のような例文を取り上げている。

- (1) 胃を全部、切りとったからといって、再発する可能性はあるんだから、全治した+んじゃない²/わけではない/とは限らない+だろう。

(泉原 2007:1056)

泉原(2007:1057)は「トハカギラナイ」と「ノデハナイ」の使い方に関して「聞き手の考えを直接に否定し、聞き手と対立するような響きをもっている」と述べているのに対して、「ワケデハナイ」の使い方については「事情を説明して、聞き手を説得しようとする態度を示すので、直接的な否定ではなく、間接的で婉曲的な否定になる」と述べている。3つの表現の異同を日本語教育の観点で考えると、泉原(2007)のような抽象的な記述は、学習者にとって意味用法を理解しにくくその習得は難しい。学習者は、具体的な言語情報(共起しやすい表現、文中の位置、媒体など)を把握できていないため、これらの部分否定表現を使用する際に、しばしば誤用が見られる。以下、学習者による誤用例を示す。

¹ 記述の便宜上、考察対象とする3つの部分否定表現は異なる形態であっても、同じ語であると考えられる場合、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」のようにカタカナで表記することとした。例えば、「わけではない」「わけじゃなかった」、「とは限らない」「とは限りませんでした」、「のではない」「んじゃない」などが挙げられる。

² 「ノデハナイ」は「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」とは異なり、呼応関係にある副詞がないため、典型的な部分否定表現とは言えないが、「全～」のような全数量を表す語や「だけ」のような取り立てを表す語が「ノデハナイ」による否定の文に含まれる場合は、「部分否定」の意味を帯びてくる。

(2) [誤用文]

日本人は社会に入ると違う場面で違う人と話す時異う言葉を使うことの重要さが分かるので、友達同士と若者言葉で語ることからといって、正しい日本語を使えないわけではないのではなからうか。

[訂正文]

日本人は社会に入ると、場面や人に応じて言葉を使い分けることの重要さが分かるので、友達同士で若者言葉で話すからといって、正しい日本語を使えないわけではないのではなからうか。

(『オンライン日本語誤用辞典(公開版 Ver. 1.1)』Ld_053_2009)

(3) 先生は研究で難しい課題も解ける人は必ずしも研究に成功があることはない(→成功できるとは限らない)^o(→と答えている)。

(『学習者作文コーパス「なたね」』051_a:16160)

(4) 少年犯罪の多い(→多く)は子供の頃、家庭の不幸とか、学校でいじめられることとか、精神的に刺激を与えられることで少年は社会に敵視する態度を持って、犯罪した(→犯罪に至った)。これは少年一人の責任だけでなく(→少年一人だけが責任を負うのではなく)、両親や社会も一定の(→一定の)責任を負うべきである。

(『学習者作文コーパス「なたね」』128_c: 26808)

これらの誤用例は3つの表現の理解が不十分なことによるものである。これらの十分な理解のためには、3つの表現の概観をまとめた泉原(2007)のような抽象的な意味記述ではなく、それぞれの表現の共起しやすい表現や否定されやすい要素を明らかにし、より具体的な意味記述が必要である。例えば、コーパスを観察すると、例文(2)における「からといって」、例文(3)における「必ずしも」、例文(4)における「だけ」のような表現は「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」と一緒に使用されやすいのではないかと思われる。そのため、本研究では3つの表現を分析するにあたって、共起しやすい表現や否定されやすい要素に着目して分析する。なぜなら、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」とともに使用される頻度が高い共起しやすい表現や否定されやすい要素を明らかにすることで、情報を可視化でき、学習者はそれらの共起しやすい表現や否定されやすい要素とともに各表現を学習することで、実際の運用につながりやすく、誤用を防ぐこと

ができるのではないかと考えるからである。

また、本研究では 3 つの表現のうち、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を類義表現と見なし、それぞれの類義分析を行う。その理由については以下に述べる。まず、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」は同じ形式名詞からなる表現であるため、形式的には類似している。また、先行研究を踏まえると、部分否定を表す表現としてまとめられていることから、意味的には類似していることがわかる。「トハカギラナイ」については、形式名詞からなる表現ではないが、意味的には「ワケデハナイ」と類似している。以下、置き換えが可能である「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」による意味的類似性を確認するために、それぞれの例文を示す。

【「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」】

- (5) 現実問題、いまの日本企業社会では、いくら男女雇用機会均等法ができたからといっても、女性の未来が明るくなったわけではない。

(LBe1_00023:図書館・書籍)

- (6) この標準化のプロセスでは、必ずしも優れている技術が標準になるとは限らない。コスト、接続の容易さなども重要になる。また、どこまでは標準化し、どこからは自由にするという線引きも難しい。

(OY14_27802:特定目的・ブログ)

【「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」】

- (7) これら初期の作品においてヘンデルは、必ずしも筋の進行にふさわしい音楽を付けているわけではない(彼がそれを巧みに作曲したにもかかわらず、残っていないということもありうるが)。

(PB57_00038:出版・書籍)

- (8) 人形や紙芝居を通じて空想力をいさぐくのではなく、身近な自分を苦しめる事実に追われて空想を描くのだから、この空想力には現実感を生み出す力があるように思える。

(LBr3_00014:図書館・書籍)

以上の例文(5)～例文(8)のような、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を相互に言い換えることができるものについて、先行研究や文法解説書における意味記述を見ると、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」はそれぞれ類義関係にあることが伺える。例えば、友松・宮本・和栗(2010)では、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」を「部分否定」という「文型の意味・機能項目」として取り扱っている。工藤(1997)では「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の共通性と相違性を記述し、両表現の意味と機能について比較している。

以上を踏まえて、本研究では3つの表現のうち、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を類義表現として取り扱うこととする。なお、個別に3つの表現の分析を行う際には共起しやすい表現や否定されやすい要素に着目し分析するが、類義関係にある表現を分析する際には、日本語教育のための「選好傾向の記述」の重要性を主張する小西(2011)が指摘する「使用環境」の観点から記述を行う。小西(2011)は学習者の類義表現の理解と産出を促進するためには、実態調査に基づいた傾向を把握し、「使用環境」から選好傾向を記述することが重要であると指摘している。類義関係にある「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の「使用環境」を明らかにすることができれば、意味の違いに過度に依存することなく学習者に違いを教えることができるのではないかと思われる。本研究の目的は正確に運用するための言語情報を記述することであるため、小西(2011)を踏まえて「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境を分析することとする。

1.2 本研究の目的と考察対象

本研究は、日本語教育文法の立場に立ち、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」といった3つの部分否定表現の詳細な分析を行い、学習者が3つの表現を理解・産出する際に使用できる情報を記述することを目的としている。

部分否定表現のうち、考察対象をこの3つの表現にする理由は、文法解説書で部分否定表現として頻繁に取り上げられているためである。以下に、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」に関する記述を太字と網掛けで表示する。

表1 文法解説書における部分否定表現

| 書名(作者・出版年代など) | 文型の意味・機能項目 | 文型 |
|---|--------------------------|--|
| 森田・松木(1989) 『日本語表現文型-用例中心・複合辞 の意味と用法』 | 否定形による当為等・当為 等の否定・不必要 | もので(は)ない わけではない わけにはいかない わけがない はずがない ことはない て(は)ならない てはいけない べきで(は)ない べくもない どころではない とは限らない には及ばない までもない |
| 庵・高梨・中西・山田(2001) 『中上級を教える人のための日本語 文法ハンドブック』 | 部分否定 | ～のではない ～わけではない ～は(し)ない ～{も/さえ}しない 必ずしも～(では)ない (～とは限らない) |
| 泉原(2007) 『日本語類義表現使い分け辞典』 | 部分否定 | のではない わけではない とは限らない |
| 友松・宮本・和栗(2010) 『どんなときどう使う日本語表現文型 辞典』 | 部分否定 | ことは～が とはかぎらない わけではない というものではない ないことはない なくもない ないものでもない |

まず、庵・高梨・中西・山田(2001)、泉原(2007)における「部分否定」に関する文型の意味・機能項目では、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」が部分否定表現として紹介されている。また、友松・宮本・和栗(2010)は部分否定表現として、「トハカギラナイ」と「ワケデハナイ」も挙げられている。一方、森田・松木(1989)は「文型の意味・機能項目」の一つを「否定形による当為等・当為等の否定・不必要」とし、その文型として

「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」も挙げられている。以上を踏まえて本研究では、数ある部分否定表現のうち、部分否定表現として頻繁に取り上げられている項目である「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」を選ぶこととした。それらを代表的な部分否定表現として分析した内容を具体的な言語情報として可視化することができれば、学習者が部分否定表現を習得する際に有用なものになるのではないかと思われる。

1.3 研究方法と使用コーパス

1.3.1 研究の方法

どのような研究分野においても研究手法が重要である。森・庵編(2011)では、日本語教育文法のための研究方法を実際に駆使した、様々なアプローチによる文法研究がケース・スタディとして紹介されている。本研究は日本語教育文法の観点から部分否定表現「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」の分析を行うにあたって、3つの表現の分析を「コーパス調査」の手法により行う。具体的には、コーパスから抽出した例文に基づいた「クロス集計」による考察、『分類語彙表-増補改訂版』に従って前接語句の分類を行う。

「コーパス調査」という研究手法については、「コーパスが持つ大量性は当該言語の代表的な言語使用の実態を強く反映している」(李 2011:3)と指摘されている。この点を踏まえると、本研究で3つの表現の共起しやすい表現、否定されやすい要素、使用環境に着目した記述を行うためには、「コーパス調査」がふさわしい研究手法ではないかと思われる。具体的には、母語話者コーパスと学習者コーパスから、3つの表現についてそれぞれの用例と誤用例を集める。1.1でも述べたように、誤用の原因は従来の先行研究や文法解説書の意味記述が不足しているからだと考えられる。この点を踏まえて、3つの表現の分析を行う。また、コーパスから抽出した例文に基づいて、類義関係にある「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を分析するにあたって、「クロス集計」による考察と『分類語彙表-増補改訂版』に従って前接語句の分類を行う。「クロス集計」とは、集めたデータを2つ以上の分析軸から集計する手法のことである。考察対象のうちの2つの表現を類義表現として取り上げ分析する際に、「クロス集計」を用いることで2つの表現の異同を視覚的にわかりやすく示すのである。さらに、類義関係にある考2つの表現がどのような前接語句と結びつきやすいのかを整理するため、『分類語彙表-増補改訂版』に従って分類することによって、それらの異同を明らかにする。

1.3.2 使用コーパスの概要

本研究は『現代日本語書き言葉均衡コーパス(データバージョン 1.1)』、『名大会話コーパス』、『現日研・職場談話コーパス』で抽出した用例を用いて、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」の記述を行う。データの検索にあたっては、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の場合、コーパス検索アプリケーション「中納言」を使用する。学習者の誤用例を調べる際には、誤用種別のタグが付与された学習者コーパス『なたね』と東京外国語大学が構築する『オンライン日本語誤用辞典(公開版 Ver. 1.1)』を利用する。また、考察対象とする表現がどのような前接語句と結びつきやすいのかを考察するにあたって、国立国語研究所が構築するシソーラス『分類語彙表-増補改訂版』の分類項目を用いて分類する。

本論文において分析にあたる章は全部で5章であり、第3章「ワケデハナイ」の分析、第4章「トハカギラナイ」の分析、第5章「ノデハナイ」の分析、第6章「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の類義分析では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いてデータを抽出する。第7章「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の類義分析においては『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に加えて、『名大会話コーパス』と『現日研・職場談話コーパス』も利用しデータを抽出する。また、各章で学習者コーパス『なたね』と『オンライン日本語誤用辞典(公開版 Ver. 1.1)』を用いて実際の学習者の誤用例を取り上げる。そして、誤用の原因として従来の先行研究や文法解説書の意味記述が不足しているからだと考えられるため、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」を正確に運用するための言語情報を記述する。

第3章、第4章、第5章においてそれぞれの考察対象は「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」であることから、書き言葉での使用に着目し意味の記述を行うため、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いることにする。その理由については以下に述べる。「トハカギラナイ」を話し言葉コーパスで検索したところ、『名大会話コーパス』では2例のみ抽出され、『現日研・職場談話コーパス』では該当例がなかった。「トハカギラナイ」の例文が少ないため、「トハカギラナイ」だけ話し言葉コーパスを用いないとすれば、3つの表現全体の分析としてはアンバランスになる。そのため、3つの表現を個別的分析する際に、書き言葉コーパスの『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のみを利用することとした。

第6章において、「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」を類義表現として取り上げ分析を行うが、話し言葉コーパスから抽出した「トハカギリナイ」の例文は少ないため、第7章とは異なり、第6章においては「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」の使用環境を分析する際、書き言葉コーパスの『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のみを利用することとした。

最後に、第7章においては、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を類義表現として取り上げる。先行研究においては両表現に意味的な異なりがあるとしているが、書き言葉と話し言葉との違いといった部分においては調査の蓄積がない。そのため、媒体の違いによる両表現の使用実態や差異を記述するため、分析には書き言葉と話し言葉を用いることとした。また、両表現の使用環境を明らかにするためには、複数のコーパスを比較する必要がある。そのため、書き言葉コーパスと話し言葉コーパスには、それぞれ『現代日本語書き言葉均衡コーパス』、『名大会話コーパス』、『現日研・職場談話コーパス』を選択した。

各章で扱う考察対象と利用するコーパスを以下にまとめる。

- ・書き言葉コーパス：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
 - 第3章：「ワケデハナイ」
 - 第4章：「トハカギリナイ」
 - 第5章：「ノデハナイ」
 - 第6章：「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」
 - 第7章：「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」
- ・話し言葉コーパス：『名大会話コーパス』と『現日研・職場談話コーパス』
 - 第7章：「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」

また、本研究で使用データとして用いるコーパスやシソーラス(類義語集)は表2にまとめる。

表2 本研究の使用データの一覧

| 使用データ | | |
|-------------|------|------------------------------|
| 母語話者コーパス | 書き言葉 | 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 |
| | 話し言葉 | 『名大会話コーパス』 |
| | | 『現日研・職場談話コーパス』 |
| 学習者コーパス | | 『学習者コーパス「なたね」』 |
| | | 『オンライン日本語誤用辞典(公開版 Ver. 1.1)』 |
| シソーラス(類義語集) | | 『分類語彙表-増補改訂版』 |

1.4 本研究の分析に援用する概念

本節では、本研究における「共起」という用語を定義し、太田(2014)が提起する「運用力につながる文法記述のための分析方法」と小西(2011)が提起する「日本語教育のための『形』『意味』『使用環境』を連動させた選好傾向の記述」について説明する。

まず、「共起」について見る。工藤(1982)では、「共起」と「呼応」について以下のように示している。

「共起」現象は、同じレベルに同居しているということだから、比較的単純に形式化しうる。「呼応」は、単なる同居ではなく、むすびつきであるから、つきつめていけば“意味”的關係である。(中略)「共起」はいわば量的現象、「呼応」は質的關係だが、質的なものが量的現象を生じるとともに、量的現象が質的変化をもたらすとも、一般的に言える。文の中での意味機能が、使用のくりかえしの中で、しだいに単語の意味機能としてやきつけられていくのである。

(工藤 1982:71)

工藤(1982)は「呼応」とは質的な関係であり、ある要素Aの特性は別の要素Bの特性を要求し、1つの文に同時に現れる、ということの意味している。これに対し、「共起」とは量的現象であり、ある要素Aが必ず別の要素Bを要求するということではなく、ある要素Aが文の中で用いられるときに、要素Bとともに用いられることが多い、ということの意味している。しかし、量的に「多い」ということは、要素Aや要素Bの質にも関わってい

る、ということである。³

光信(2005)は「語の共起関係」について「格」、「語」、「表現形式」、「その他」の4つに分けている。また、「語の共起関係」に関しては、以下のように述べている。

ある語が文中で用いられるときに、共に用いられる他の語や句などの要素との関係を共起関係という。語の用法と捉えるときにはその語の共起関係をみるのが有効である。つまり、共起関係が異なれば用法が異なることが多い。

(光信2005:281)

以上を踏まえ、本研究は工藤(1982)が指摘した量的現象による「共起」を考察するために、まず研究手法として大量のデータによる分析が可能になる「コーパス」を使用する。また、ある要素 A とは、本研究が考察対象とする「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」の3つの表現である。そして要素 B とは、3つの表現それぞれと共起する表現である。いかなる要素 B とともに用いられることが多いのかを分析することにより、光信(2005)が指摘した「語の共起関係」に基づく考察対象の表現と共起語との関係を明らかにする。このような共起語との関係の中で、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」による、より具体的な意味が現れるのではないかと考える。また、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」の意味解釈に関わっており、かつ、共起関係に関わるのは「副詞」、「格助詞」、「複合格助詞」、「接続詞」など様々なバリエーションのものであるため、記述の便宜上、「共起語」を使わず、「共起表現」という用語を用いることとする。

続いて、第3章以降の各章では、日本語学習者のための記述を行うために、どのような観点から分析するのかについて説明する。

第3章、第4章、第5章において、実際の運用に使える形での提供を目指し、共起しやすい表現によって分類した3つの表現を個別に分析する。太田(2014:155)では現在の文法記述の不足点の1つとして、「共起表現や文章展開を含め、『使える形で』の提供がない」ことを指摘している。本研究は運用に繋がる可視化情報を「使える形」として明確にするため、第3章と第4章で「ワケデハナイ」や「トハカギラナイ」を記述するにあたって、共起しやすい表現に着目し、分析を行う。また、太田(2014)に倣って、「ワケデハナイ」や「ト

³ 「共起」と「呼応」の説明については、名古屋大学大学院の志波彩子准教授にご助言を頂いた。

「ハカギリナイ」については、話し手が自分の思考過程内の「実在事態から推論される事態」や「一般論と反する事態が存在する可能性」を「実在事態」や「一般論」に持ち出すのは、どのような場合であるかを、それぞれ【実在事態と推論事態の関係】と【一般論と可能性の関係】から考察する。また、「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」がコミュニケーションにおいて用いられる際の実際の機能を「機能」と呼ぶこととする。一方、本研究では「ノデハナイ」を部分否定の表現として見なしているが、「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」のように、呼応関係にある副詞がないことから、「ノデハナイ」は典型的な部分否定表現とは言えないと考えられる。そのため、「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」とは異なる見方で検討する必要がある。そこで、第5章で「ノデハナイ」を記述するにあたって、否定されやすい要素に着目し分析を行う。

第6章と第7章においては、3つの表現のうち、それぞれ「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を類義表現と見なし、分析を行う。その前提となる考え方について、ここでは、小西(2011)が提起する「日本語教育のための『形』『意味』『使用環境』を連動させた選好傾向の記述」について見る。小西(2011:13)では、言語形式の差異を生み出す環境を、「使用環境」と呼び、「使用環境」には、言語内的要素と言語外的要素とがあると指摘している。前者は、連続する言語形式や共起語など、言語そのものに関わるものであり、後者は、当該の言語形式が現れる場面や言語形式の使用者など、言語形式そのものとは異なるものであると定義している。本研究は小西(2011)が指摘した「使用環境」を踏まえて、第6章において「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」の類義表現の分析を行う際には、言語内的要素にあたる前接語句の種類に着目して使用環境を調査し、その選好傾向を明らかにする。その一方、第7章において「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の類義表現の分析を行う際、言語外的要素にあたるジャンルと言語内的要素にあたる出現位置に着目して使用環境を調査し、その選好傾向を明らかにする。本研究は学習者が自分で決めるための情報を提供するために、これらの表現を分析する際に、具体的な出現形を意味する「形」⁴という観点から分析せず、「使用環境」による選好傾向から類義関係にある「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を記述する。

⁴ 小西(2011)が定義した「形」とは、例えば、[食べる]の具体的な出現形である「食べる」「食べた」「食べない」「食べなかった」のような活用のことである。

ここで注意を払う必要がある点としては、選好傾向の記述は従来の文法記述とは異なり、正誤の判定を行うことができないことである。例えば、「ノデハナイ」が選好されやすい環境で「ワケデハナイ」を使ったとしても非文とはならない。しかし、白川(2002:70)の言葉を借りれば、「学習者が知りたいのは、文脈を捨象した抽象的な意味ではなく、むしろ、具体的にどんな場面で使われるのかということであり、具体的な用法の背後にある本質的な意味は、いろいろな用法を習得して行く中で次第に見えてくればよい」のである。それゆえ、使用環境からみた選好傾向の記述が重要であると考えられる。

1.5 本論文の構成

本論文の構成は以下の通りである。

第1章では序論として、本研究の研究背景、目的と考察対象、研究方法、援用する概念、本論文の構成について述べた。

第2章では、日本語教育文法と部分否定表現の研究現状を概観した上で、日本語教育文法の観点から部分否定表現を研究する必要性について述べる。さらに、日本語教育文法が誕生した経緯、日本語記述文法との関係、日本語教育文法が目指すものを紹介した上で、日本語教育文法に関する本研究の立場と研究姿勢を示す。

第3章では、「ワケデハナイ」の分析を行う。まずコーパス調査で「ワケデハナイ」がどのような表現と共起しやすいかを明らかにする。次に、共起しやすい表現をもとに「ワケデハナイ」を分類し、各用法について【実在事態と推論事態の関係】と【機能】との関係を分析していく。

第4章では、「トハカギラナイ」の分析を行う。まずコーパス調査で「トハカギラナイ」がどのような表現と共起しやすいかを明らかにする。次に、共起しやすい表現をもとに「トハカギラナイ」を分類し、各用法について【一般論と可能性の関係】と【機能】との関係を分析していく。

第5章では、「ノデハナイ」の分析を行う。まずコーパス調査で「ノデハナイ」がどのような要素を否定するのかを明らかにする。次に、否定されやすい要素によって「ノデハナイ」を分類し、各用法について分析していく。

第6章は第3章と第4章で考察した「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」を類義表現として取り上げ、コーパスから抽出したデータに基づいて「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の前接語句の種類に着目して使用環境を調査し、その傾向を明らかにする。最後に、

明らかになった「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の使用環境を踏まえ、日本語学習者にとって分かりやすい指導法を提案する。

第7章は第3章と第5章で考察した「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を類義表現として取り上げ、コーパスから抽出したデータに基づいて「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」のジャンルと出現位置に着目して使用環境を調査し、その傾向を明らかにする。最後に、明らかになった「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境を踏まえ、日本語学習者にとって分かりやすい指導法を提案する。

第8章では結論として、本研究で明らかにした内容をまとめ、今後の課題について述べる。

第2章 先行研究からみる本研究の立場と研究姿勢

本章では、日本語教育文法と部分否定表現を概観した上で、日本語教育文法の観点から部分否定表現を研究する必要性を示す。2.1 では、日本語教育文法と日本語記述文法の関連について述べ、さらに、日本語教育文法が目指すものを整理し、本研究の立場と研究姿勢を述べる。2.2 では、本研究が何を目的とするのかを述べるために、日本語学、日本語教育の観点から部分否定表現に関する先行研究を取り上げ、概観する。

2.1 日本語教育文法の概観

2.1.1 日本語教育文法とは何か

まず、現在日本国内で出版されている日本語教育文法の関連書籍から、日本語教育文法の研究成果を概観する。国立国会図書館の所蔵資料の検索システム⁵(2021年3月16日に検索)で検出された「日本語教育文法」を冠した書籍を表1としてまとめる。

表1 「日本語教育文法」の名を冠した書籍の一覧表(年代順)

| | 書名 | 著者 | 出版社 | 出版年代 |
|---|--|------------------------|-----------|---------|
| ① | 外国人に教える日本語の文法:日本語教育文法 Q&A | 関正昭 | 一光社 | 1990.10 |
| ② | コミュニケーションのための日本語教育文法 | 野田尚史 編 | くろしお出版 | 2005.10 |
| ③ | プロフィエンシーから見た日本語教育文法 | 山内博之 著 | ひつじ書房 | 2009.4 |
| ④ | 日本語教育文法のための多様なアプローチ | 森篤嗣・庵功雄 編 | ひつじ書房 | 2011.10 |
| ⑤ | 中国語話者のための日本語教育文法を求めて | 庵功雄・杉村泰・建石始・中俣尚己・劉志偉 編 | 日中言語文化出版社 | 2017.11 |
| ⑥ | 日本語教育文法講義ノート:書き込み式でよくわかる:これ1冊を仕上げて教育現場に出よう 改訂版 | 山下暁美 編著・沢野美由紀 著 | アルク | 2019.12 |

⁵ 国立国会図書館サーチ (NDL Search): <https://iss.ndl.go.jp/>

表 1 にまとめた 6 冊の中で、王(2018)は『コミュニケーションのための日本語教育文法』(野田編 2005b)、『プロフィシエンシーから見た日本語教育文法』(山内 2009)、『日本語教育文法のための多様なアプローチ』(森・庵編 2011)、『中国語話者のための日本語教育文法を求めて』(庵・杉村・建石ほか 2017)の 4 冊を「日本語教育文法」の名を冠した代表的な書籍として評価している。

なお、「日本語教育文法」とはどのようなものなのかについて、小林(2002)、楠本(2007)、庵(2011a)、彭(2011)における「日本語教育文法」の定義を確認すると、「教育を目的とする文法記述」といった点で共通している。しかし、楠本(2007)と彭(2011)では、「日本語教育文法」の全体像が見えない、体系性が欠如しているといった指摘がある。このことから、「日本語教育文法」そのものの内実はかなり多様であるため、どのようなものなのかについては合意に達していないと言える。この点に関して、小林(2013)は森・庵編(2011)と野田編(2012)を比較し、以下のように述べている。

(前略)取り上げた二冊⁶の比較からわかることは、一口に日本語教育文法と言っても、その立ち位置や目指すところは、さまざまだということである。「日本語教育文法」という一つの理論や、共有の定義があるわけではない。「日本語教育」「文法」「コミュニケーション」といったキーワードで表象されることがらについて、それぞれが自らの文法観、文法教育観等に基づいて、発言、発信しているに過ぎないからである。

(小林 2013:13-14)

また、中石(2013)は日本語教育文法では、「日本語学の視点」から「学習者の視点」への移行がスローガンの1つとなっていることを指摘している。庵(2011a)によれば、この「学習者の視点」というのは、文法規則を少なくし、文法記述は使いこなしやすいものにするということである。つまり、不必要なものを過度に記述することが避けられる、ということである。

⁶ ここで取り上げたのは、『日本語教育文法のための多様なアプローチ』(森・庵編 2011)と『日本語教育のためのコミュニケーション研究』(野田編 2012)の 2 冊である。

2.1.2 日本語記述文法と日本語教育文法

王(2018)によると、2003 年度大阪大学で開催された日本語教育学会秋季大会でのシンポジウム「新しい日本語教育文法-コミュニケーションのための文法をめざして-」をきっかけに、「日本語教育のための文法(日本語教育文法)」という考え方で文法研究を行う必要性が認識されるようになり、それ以来、「母語話者の視点」から考える記述文法とは異なり、「学習者の視点」から発想した日本語教育文法について、様々な研究方法が提唱され、多くの研究成果が積み重ねられている。ここでは、日本語教育文法が生まれた背景について述べた謝(2014)、田(2017)に基づき、日本語記述文法と日本語教育文法の関係及び、日本語教育文法研究の流れを概観する。

日本語教育の現場において、「文法」は大きな位置を占め、そのあり方について多くの考察がなされてきた。野田(2010)は「日本語教育のための文法」に関しては日本語学の創成期から発展期にかけては、日本語学で研究されている内容をそのまま日本語教育の現場で使うことができたと述べている。また、「日本語教育のための文法」という用語は現行の日本語教育が盛んになった 1960 年代からすでに存在し、現在に近い形の日本語教育が本格的に日本国内で行われるようになったのもこの時期からである(庵 2012:1)。1970 年代の日本語学創成期から発展期まで、寺村秀夫を中心に「日本語教育のための文法」の研究が盛んに行われた。寺村(1982)にとっては、日本語教育の役に立つためには、「実用文法」を作ることが最も重要な課題であったが、寺村の死後、1990 年代に入り、日本語学と日本語教育の関係が徐々に離れていった(庵 2011a:2)。寺村文法の三本柱とも呼ばれる「日本語の記述的研究」、「対照研究」、「日本語教育のための研究」(野田 2011、庵 2013)のうち、寺村の指導と影響を受けた研究者は、日本語学の学問的成熟などを理由に、「日本語の記述的研究」のみを継承した者が多かったためである(庵 2012、2014)。

日本語学における文法記述と日本語教育で求められる文法記述との乖離を受けて 2000 年代に入る頃から、「日本語教育文法」という用語が使用されるようになった(庵 2011a)。また、こうした状態を打破しようとして、グループ・ジャマシイ(1998)や庵・高梨・中西・山田(2000)など日本語学と日本語教育の乖離を埋めるような『日本語文型辞典』や『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』が刊行され、野田(2001)と白川(2002)がそれぞれ「コミュニケーションのための日本語教育文法的设计図」と「日本語学的文法から独立した日本語教育文法」などを主張している。日本語学の研究者の中で、日本語教育への志向性が強い研究者が、日本語学の知見を日本語教育の現場へ提供する必要

性を強く感じて行動したという意味で、庵(2012)はこの時期を「日本語教育文法第1期」と呼んでいる。一方、野田(2005a)は、この時期に出版された著書に関しては、既存の文法シラバスの枠組みを使用しているため、「日本語学的文法に依存した日本語教育文法」と名付けている。

庵(2012)はこうした「文型辞典」と「ハンドブック」は日本語学と日本語教育の橋渡しとして一定の役割を果たしたが、既存の文法シラバスの枠組みが当然のものとして利用されていることは、日本語教育文法第1期の問題点であると指摘している。そうした問題点の克服を目指し、野田編(2005b)では「コミュニケーションのための日本語教育文法」という主張がなされた。そこで、「日本語学的文法に依存しない日本語教育文法」を提唱する「日本語教育文法第2期」の幕が開いた(庵 2012)。この時期には、日本語学から継承された体系主義と形式主義の悪影響を脱却することが強く望まれている。最も重要な論説として、「日本語学的文法から独立した日本語教育文法」の必要性を説いた白川(2005)がある。また、野田(2005a)によると、日本語学の研究成果を利用するか否かという点が、日本語教育文法第2期が第1期と最も異なる点であるという。

庵(2012)に基づき、日本語教育文法第1期と第2期の流れについて図1にまとめる。

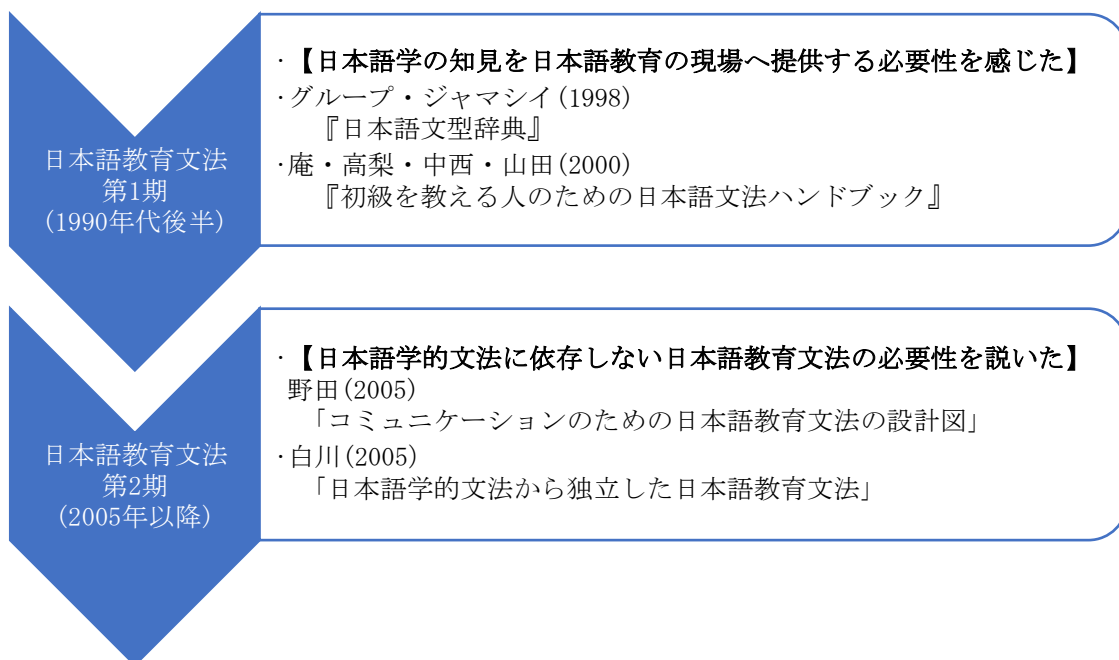


図1 日本語教育文法の流れ

2.1.3 日本語教育文法が目指すもの

庵(2011a:5-8)は、日本語教育文法がどのようなものを目指すのかについて、以下の4点を挙げている。

- ①理解から産出へ
- ②体系の記述からコミュニケーションのための記述へ
- ③学習者のレベルに即した文法シラバスへ
- ④教科書分析など

まず、①「理解から産出へ」について述べる。庵(2011a)は文法規則を理解レベルと産出レベルといった2つのレベルに分け、前者は意味がわかればよいものであり、後者は意味がわかった上で使えるようになる必要があるものとする。日本語記述文法では母語話者が持つ文法能力が前提とされるため、理解と産出との区別が問題にならない。それに対して、教育文法が対象とするのはそうした文法能力を持たない学習者であるため、たとえ理解できたとしても、産出できない、といったことも十分にあり得る。そういう意味で、理解レベルと産出レベルを区別する必要があると述べている。

次に、②「体系の記述からコミュニケーションのための記述へ」について述べる。庵(2011a)では、「体系」や「隙間のない記述」が重視される記述文法は、日本語学の知見を取り入れているとする。そして、記述文法を基にした現行の文法シラバスの問題点を解決する方法の1つとして、4技能にあたる「読む」「書く」「聞く」「話す」それぞれに特化したコミュニケーションのための研究、つまり、体系の記述からコミュニケーションのための記述研究の必要性を指摘している。

次に、③「学習者のレベルに即した文法シラバスへ」について述べる。庵(2011a)は、現行の初級教科書で取り上げられている文法項目は大枠で一致していると述べている。また、「『文法』は初級で終わり」という現行の枠組みの基盤が形成された原因として、1970年代までは日本語教科書に「中級」レベルの総合教科書はほとんどなかったことにあるとしている。さらに、今後「学習者のレベルに即した」新しい文法シラバスを構築するために、学習者のニーズ、コーパスを用いた頻度調査、またはテキストのタイプなどを総合した形で捉える必要があると指摘している。

最後に、④「教科書分析など」について述べる。これは、①～③以外の「その他」として挙げられたものであり、庵(2011a)は、教育文法のあり方を検討する際に、日本語の教科書の傾向を明らかにすることで、それが今後の教科書作成に有益なものになると指摘している。

以上を踏まえ、本研究は特に「理解から産出へ」という点を考慮し、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」を分析する上で、実際の運用につながりやすい言語情報を明らかにし、各表現に対して理解から産出への橋渡しとなる分析を行う。

2.1.4 日本語教育文法に関する本研究の立場

本研究は「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」の記述を個別的行うにあたり、規則を減らしたり、規則を具体的に記述するために、どのような表現が「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」と共起しやすいのか、どのような要素が「ノデハナイ」で否定されやすいのかを明らかにするものである。また、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」をそれぞれ類義表現として分析を行うにあたっては、「使用環境」から選好傾向の記述を試みようとするものでもある。このように、本研究では共起しやすい表現や否定されやすい要素、または「使用環境」から選好傾向を考察することによって、日本語教育に資する形で適切に記述することができるのではないかと考える。つまり、このような方法を採用することによって、規則が複雑になったり、抽象的になったりすることが避けられるということである。

続いて、本研究の立場の位置づけとして日本語教育文法に関する先行研究を挙げる。

2.1.1 で述べたように、庵(2011a, 2011b, 2015a)は「産出のための文法」という観点から、類義表現の記述文法について、「100%を目指さない文法」の必要性を論じている。また、庵(2015a)によると、文法の規則のカバー率において「100%を目指さない文法」という観点を提案した背景については、「100%を目指す」と、規則を増やしたり、規則の抽象度を上げたりして、学習者が使いこなせないものになっているとしている。

以上のことを踏まえて、本研究において「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の文法記述を行うにあたり、共起しやすい表現のみに着目することとした。一方、「ノデハナイ」は典型的な部分否定表現とは言えないため、分析を行う際には、共起しやすい表現ではなく否定されやすい要素に着目し分析することとした。

先行研究では、こうした議論を行うものとして、三好(2011)と久保(2014)が挙げられる。三好(2011)は、動詞の指導方法として、動詞と共起する語のカテゴリー化を促す方法が効果的であることを実験により明らかにしている。また、共起する語の制限に気付かせることで動詞の意味の理解が深まると結論付けている。久保(2014)は、共起関係の傾向から、類義語間の細やかな意味的差異を把握し得ると指摘している。

また、小西(2011)は学習者の類義表現の理解と産出を促進するためには、実態調査に基づいた傾向を把握し、「使用環境」から選好傾向を記述することが重要であると指摘している。こうした議論を行う先行研究としては、小西(2008a)、小西(2008b)、小西(2011)が挙げられる。本研究は小西(2011)を踏まえて、先行研究や文法解説書において3つの表現がどのように記述されているのかを考察した結果、意味的に類似する「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」、形式的、意味的に類似する「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」は類義表現であると位置付けた。具体的には、これらの使用環境として、前接語句の選好傾向及び、ジャンルと出現位置を考察し、分析する。

2.2 部分否定表現に関する研究

2.2.1 日本語学の観点からみる部分否定表現の先行研究

まず、「部分否定」の定義とその共起表現に関する先行研究を確認する。日本語記述文法研究会(編)(2007)は、基本的な否定⁷と「ノデハナイ」「ワケデハナイ」による否定について説明しており、前者を「全部否定」、後者を「部分否定」としている。全部否定と部分否定の解釈と例文を以下に示す。

「全部」「全員」のような全数量を表す語が基本的な否定の文に含まれる場合は、全部否定の解釈になりやすく、「のではない」「わけではない」による否定の文に含まれる場合は、部分否定の解釈になる。

⁷ 日本語記述文法研究会(編)(2007:249)は「基本的な否定」について以下のように述べている。

基本的な否定の文は、予想に反して事態が存在・成立しないときや、存在するか否か、成立するか否かが問題となっていた性質や動作が存在・成立しないときに、用いられやすい。

- ・電気がつかない。(つくという予想に反している)
- ・A「富士山に登ったことは、ありますか？」
B「いいえ、(登ったことは)ありません」

- ・全部わかりませんでした。 (全部否定) ……(1)
- ・全部わかったわけではありません。(部分否定) ……(2)

(1)は「全部」について「わからなかった」という全部否定として解釈されるのが普通であり、(2)は「一部」について「わからなかった」という部分否定として解釈される。(2)が部分否定になるのは、「全部」が否定のフォーカスになり、「全部ではない」といことが表されるからである。

(日本語記述文法研究会(編)2007:253-254)

また、日本語記述文法研究会(編)(2007)は「スコープ」と「フォーカス」という用語を用いて、文の中のどの部分が特に否定されるのかについて以下のように説明している⁸。

基本的な否定の文では、事態の成立が否定される。事態の成立以外の部分を否定のフォーカスにする場合には、「のではない」などが用いられる。

- ・東京に行かなかった。(「東京に行った」という事態の成立を否定)
- ・仕事で東京に行ったのではない。(「仕事で」が否定のフォーカス)

(日本語記述文法研究会(編)2007:237)

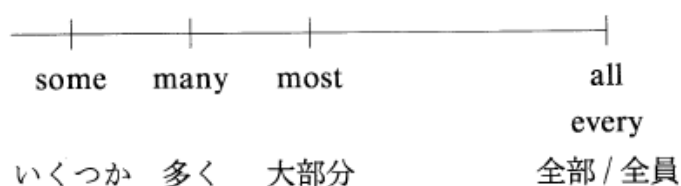
次に、部分否定と共起表現に関する先行研究を見る。前述の日本語記述文法研究会(編)(2007)では「部分否定」を定義するにあたって、全数量を表す「全部」「全員」のような語への言及がある。ここでは、「部分否定」と共起表現との関係を詳細に分析している廣瀬・加賀(1997)を取り上げたい。

⁸ 日本語記述文法研究会(編)(2007:237、238)によると、「否定の働きが及ぶ範囲」を「スコープ」、特に否定される部分を「フォーカス」という。以下の例では、[]で示した部分が「スコープ」を、下線部で示した部分が「フォーカス」を表している。例えば、以下の例文では、「フォーカス」にあたる「仕事で」が否定されるため、「行ったことは行ったけど、仕事ではなく別の用事で行った」と解釈することができる。

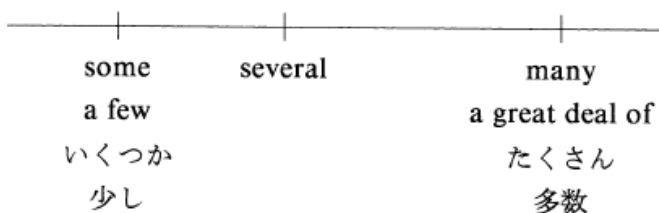
- ・[仕事で行った]のではない。

廣瀬・加賀(1997)は部分否定を許す数量詞と許さない数量詞について考察している。廣瀬・加賀(1997)の分析⁹によれば、「全部」「たくさん」が部分否定の解釈を受けられるのは、それらが数量詞スケールの上位項となるためである。一方、「大部分」「多く」が部分否定の解釈を受けられないのは、それらが数量詞スケールの下位項となるためであると指摘している。廣瀬・加賀(1997)は数量詞スケールを「比率的数量詞」と「基数的数量詞」¹⁰に分けて、それらのスケールを以下のように説明している。

・比率的数量詞スケール



基数的数量詞スケール



(廣瀬・加賀 1997:129-130)

また、数量詞の他に、数詞、頻度副詞や強調副詞などの説明においても部分否定との関連性を分析している。廣瀬・加賀(1997)によれば、部分否定の解釈を許す数量詞と許さない数量詞には、以下のような数量詞がある。

⁹ 廣瀬・加賀(1997)は日英語の数量詞に関して分析を行っているが、本研究では日本語の部分のみ取り上げる。

¹⁰ 廣瀬・加賀(1997:127)は、「比率的数量詞」を「母集合との間で相対的評価を受ける数量詞」、「基数的数量詞」を「母集合からは独立に絶対的評価を受ける数量詞」と定義している。

部分否定可能¹¹:

全部、全員、みんな、すべて、両方、たくさん、大勢、(多くとも+n¹²)、など

部分否定不可能:

大部分、いくつか、少し、少数、多く、少なくとも+n、など

(廣瀬・加賀 1997:102)

また、部分否定の解釈を許す数量詞と許さない数量詞に添えられている例文は以下の(1)と(2)である。廣瀬・加賀(1997:106)によると、「(1)が部分否定の解釈になるのに対して、(2)は数量詞が否定の作用域の外に出る解釈になる」とされている。

- (1) a. 彼はこれらの文献のすべてには目を通していない。
b. 彼は友達を大勢は呼ばなかった。
- (2) a. 簡単な問題なのに数題は解けなかった。
b. 彼は友達のうち数人は呼ばなかった。

(廣瀬・加賀 1997:106)

以上のような「部分否定」の定義とその共起表現を記述する日本語記述文法研究会(編)(2007)や廣瀬・加賀(1997)は本研究の分析にとって有益な手がかりとなる。その手がかりとは、部分否定の分析に関しては、何が否定されやすいのか、部分否定となりやすいのか、ということ考察するために、数量詞などのような表現との共起関係を記述する必要があるということである。このことから、本研究では「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」を個別に記述する際には、共起しやすい表現を分析の視野に入れることで、学習者の各表現の理解に有益な手がかりが提供できると思われる。

なお、これらの先行研究に共通する問題点は3つの表現それぞれの意味記述と使用条件が抽象的に記述されているという点である。日本語教育現場に応用するためには、抽象的な意味の記述にならないよう、学習者の立場から考える配慮と工夫が必要である。そ

¹¹ 廣瀬・加賀(1997)ではそれぞれの数量詞が部分否定の解釈を許すのか否かという点に関して、事実関係をまとめたものとして、「部分否定可能」と「部分否定不可能」のリストが示されている。

¹² 廣瀬・加賀(1997:102)によると、「n(numeral)は任意の数詞を表す。たとえば「5 つ」「2 人」「3 冊」など」である。

ここで、繰り返しになるが、本研究は「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」と共起しやすい表現を明らかにすることにする。ただし、「ノデハナイ」については、典型的な部分否定表現ではないために、共起しやすい表現ではなく否定されやすい要素に着目し分析することとする。

2.2.2 日本語教育の観点からみる部分否定表現の先行研究

この項では、日本語教育の観点から記述された部分否定表現の先行研究を参照しながら、本研究における研究姿勢を示す。ここでは、森田・松木(1989)、庵・高梨・中西・山田(2001)、泉原(2007)、友松・宮本・和栗(2010)のような文法解説書や文型辞典を挙げる。以下の表2は、第1章における表1の再掲である。表2からわかるように、部分否定表現のうち、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」は部分否定表現として頻繁に取り上げられている項目である。以下、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」の箇所には第1章における表1と同様に、太字と網掛けを施す。

表2 文法解説書における「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」

| 書名(作者・出版年代など) | 文型の意味・機能項目 | 文型 |
|---|--------------------------|--|
| 森田・松木(1989) 『日本語表現文型-用例中心・ 複合辞の意味と用法』 | 否定形による当為等・当為等 の否定・不必要 | もので(は)ない わけではない わけにはいかない わけがない はずがない ことはない て(は)ならない てはいけない べきで(は)ない べくもない どころではない とは限らない には及ばない までもない |
| 庵・高梨・中西・山田(2001) 『中上級を教える人のための日 本語文法ハンドブック』 | 部分否定 | ～のではない ～わけではない ～は(し)ない ～{も/さえ}しない 必ずしも～(では)ない(～と は限らない) |
| 泉原(2007) 『日本語類義表現使い分け辞 典』 | 部分否定 | のではない わけではない とは限らない |
| 友松・宮本・和栗(2010) 『どんなときどう使う日本語表 現文型辞典』 | 部分否定 | ことは～が とはかぎらない わけではない というものではない ないことはない なくもない ないものでもない |

森田・松木(1989)は日本語の表現文型(もしくは複合辞)の意味と用法について、用例を中心に検討したものである。各々の表現文型のなか、「否定形による当為等・当為等の否定・不必要」といったカテゴリーでは、本研究の考察対象とする「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」についても記述されている。

庵・高梨・中西・山田(2001)は日本語教師向けの、個々の文法項目を体系的に整理している中上級の文法解説書である。「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」に関しては、文法解説書や文型辞典としては初めて「部分否定」という文法項目で取り扱われている。これらの3つの表現以外には、「～は(し)ない」と「～{も/さえ}しない」がある。

泉原(2007)は前述の庵・高梨・中西・山田(2001)に続き、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」のみを部分否定の表現としてまとめている。「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」などのような部分否定を表す表現は使い分けに違いを見せるものの、いずれも聞き手の考えを否定するという点で共通していると指摘している。また、「ノデハナイ」と「トハカギラナイ」の使い方については「聞き手の考えを直接に否定し、聞き手と対立するような響きをもっている」と述べているのに対して、「ワケデハナイ」の使い方については「事情を説明して、聞き手を説得しようとする態度を示すので、直接的な否定ではなく、間接的で婉曲的な否定になる」とされている。

友松・宮本・和栗(2010)は文型を意味・機能ごとに分類している。また、日本語能力試験を考慮し、5段階によって難易度を示している。「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」については、「部分否定」という意味・機能項目の中で取り扱われている。

なお、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」に関する先行研究や文法解説書の詳細な検討は第3章、第4章、第5章で行うが、結論を先述すると、友松・宮本・和栗(2010)以外では、学習者の理解を深めるための共起しやすい表現への言及はあまりなされておらず、さらに、「共起しやすい表現」を含め「使用環境」のような具体的な情報を捨象した抽象的な「意味」のみで記述されていることがほとんどである。そのため、日本語の内省が効かない学習者にとって、従来の先行研究や、教科書と文法解説書における抽象的な記述から適切な使用や使い分けに繋げることは困難であると考えられる。そこで、日本語教育現場に応用しやすくするためには、記述の面においてさらなる工夫が必要であると考えられる。

例えば、グループ・ジャマシイ(1998)は「トハカギラナイ」の意味を次のように記述し、以下の例文が提示されている。

「…ということがいつも正しいとは言えない」という意味を表す。一般的に正しいと認められることがらについて、例外もあると言うのに使う。

・日本語を教えているのは日本人とはかぎらない。

(『教師と学習者のための日本語文型辞典』グループ・ジャマシイ 1998:357)

中級以降の段階に進む過程にある日本語学習者にとっても、グループ・ジャマシイ(1998)の記述はわかりにくいと思われる。2.2.1で述べたように、日本語記述文法研究会(編)(2007)や廣瀬・加賀(1997)のような、従来の個別的な研究の手法を参照しつつ、共起しやすい表現の視点を取り込むことで、各表現の理解に有益な手がかりを学習者に提供することが可能になると考える。

また、友松・宮本・和栗(2010)では「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」を、工藤(1997)では「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を類義表現として見なしている。

「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の関連性については、友松・宮本・和栗(2010)の記述を参照する。友松・宮本・和栗(2010)では、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」を「部分否定」という「文型の意味・機能項目」として取り扱っている。2つの表現についての記述を以下の表3にまとめ、それぞれの記述が似たような語句で説明されている部分を太字と網掛けで表示する。

表3 友松・宮本・和栗(2010)における「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の記述

| 先行研究 | 意味記述 |
|----------------------------|---|
| 友松・宮本・和栗 (2010:251、418) | <p data-bbox="528 1312 711 1346">「ワケデハナイ」</p> <p data-bbox="528 1357 1070 1391">【全部は～とは言えない/必ず～とは言えない】</p> <p data-bbox="528 1402 1350 1469">「～わけではない」の形で、「～」の事柄を部分的に否定するときに使う言い方。</p> <p data-bbox="528 1480 1023 1514">「～からといって」とともに使うことが多い</p> <p data-bbox="528 1525 735 1559">「トハカギラナイ」</p> <p data-bbox="528 1570 1054 1603">【～ということがいつも本当だとは言えない】</p> <p data-bbox="528 1615 1350 1682">「…ということが必ず、いつも本当であるとは言えない、ときには例外もある」と言いたいときの文型。いつも・全部・だれでも・</p> <p data-bbox="528 1693 1262 1727">必ずしも、などの副詞といっしょに使われることが多い。また、</p> <p data-bbox="528 1738 1166 1771">「～だからといって」などの言葉に導かれることが多い。</p> |

表3からわかるように、友松・宮本・和栗(2010)では、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」を同じ「部分否定表現」として取り扱っており、副詞の「全部」、意味解釈の「～とは言えない」、「～だからといって」と共起することが多いと示されているが、それぞれ類似

した表現で記述されているため、それぞれの意味は不明確なままであると言える。

工藤(1997)は「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の共通性と相違性を記述し、両表現の意味と機能について比較している。「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」には、それぞれ2つのバリエーションがあると指摘しており、前者には<結論の否定>と<程度否定>があり、後者には<説明の否定>と<言葉づかいの否定>があるとまとめている。これらのバリエーションの意味は以下のように定義されている。

・「ワケデハナイ」

<結論の否定>: 現実世界の事態の存在の有無を、推論を介して間接的に否定する

<程度否定>: 事態の存在の有無そのものの量的側面を部分的に否定する

・「ノデハナイ」

<説明の否定>: 先行文の内容の側面に言及する

<言葉づかいの否定>: 言語形式の側面に言及する

また、<結論の否定>用法にあたる「ワケデハナイ」と<説明の否定>用法にあたる「ノデハナイ」については相互に言い換えができる場合が多いが、<程度否定>用法にあたる「ワケデハナイ」と<言葉づかいの否定>用法にあたる「ノデハナイ」については基本的に相互に言い換えが不可能であると述べている。工藤(1997)では「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を相互に言い換えることができる用例として例文(3)と例文(4)を、言い換えることができない用例として例文(5)と例文(6)を取り上げている。

(3) <結論の否定>

「どうした？」と広岡は声をかけた。「君を責めるつもりでここへ呼んだわけじゃないんだ。……」

(工藤 1997:92)

(4) <説明の否定>

「お父さんたら、早起きをするため早起きをするんじゃないのよ。あたしたちに小言をいうため、早起きをするんだわ。」

(工藤 1997:92)

(5) <程度否定>

会話は沈黙がちであった。だが決して気まずいわけではない。

(工藤 1997:84)

(6) <言葉づかいの否定>

「月に帰りなさい、君」と言って僕のガールフレンドは去っていった。いや、去っていったんじゃない。戻っていったのだ。

(工藤 1997:81)

ただし、工藤(1997)が指摘している相互に言い換えが可能、または不可能な「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」については、それらの定義が抽象的であるため、より具体的な言語情報を提示しなければ、実際の運用につながらない可能性がある。

学習者が類義表現を区別して使い分けようとする場合、手掛かりになるのは、母語話者の内省によって導かれた抽象的な記述ではない。そのため、本研究では小西(2011)を参照して、それぞれの使用環境を調査し、前接語句の選好傾向及び、ジャンルと出現位置を明らかにすることを目的とする。さらに、本研究は共起しやすい表現と使用環境の調査を踏まえて、部分否定表現に関する記述を日本語教育現場に応用できる形に再検討する。

以上を踏まえて、第3章から第5章では日本語教育文法における「100%を目指さない文法」といった観点から、表2にまとめた5つの文法解説書において比較的出現頻度の高い「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」に関する共起しやすい表現や否定されやすい要素に特化した記述を行う。また、第6章と第7章では「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を類義表現として取り上げ、「使用環境」からそれぞれの選好傾向を明らかにする。

2.3 本章のまとめ

以上、本章では日本語教育文法と「部分否定表現」に関する先行研究を概観した。2.1では日本語教育文法に関する先行研究をまとめた上で、日本語教育文法に関する本研究の立場を示した。2.2では日本語学の観点と日本語教育の観点に分けて、「部分否定表現」の基本的な解釈や機能、そして共起表現との関連性について、文法解説書でどのように記述されているのかについてまとめた。さらに、2.1と2.2で検討した先行研究を踏まえて、

学習者の理解を深めるために「部分否定表現」と共起表現を併せて示し、さらに、「使用環境」から選好傾向を記述することが重要であるという、2.2 で示した本研究の研究姿勢を示した。

第3章 「ワケデハナイ」

本章では「ワケデハナイ」を分析する。「ワケデハナイ」は、第5章で分析する「ノデハナイ」と同じ形式名詞からなる表現であるため、形式的には類似している。また、先行研究からみると、部分否定を表す表現としてまとめられていることから、これら2つの表現は意味的に類似していることがわかる。

まず、コーパス調査によって、「ワケデハナイ」がどのような表現と共起しやすいかを明らかにする。次に、共起しやすい表現をもとに「ワケデハナイ」を分類し、各用法について【実在事態と推論事態の関係¹³】と【機能】との関係を分析していく。

3.1 はじめに

「ワケデハナイ」に関する従来の研究では、「推論の否定」と「部分否定」という両方の用法を中心に説明が行われてきた。「推論の否定」とは「状況や先行文脈を根拠として、聞き手が推論によって導き出した帰結、聞き手や一般の人々が導き出すと予想される帰結を否定する」(日本語記述文法研究会 2003:213)用法であり、「部分否定」とは「Qを完全に否定するのではない」(庵・高梨・中西・山田 2001:293)用法である。また、日本語教育の現場でよく使われている教科書では、中級段階で導入されており、これらの先行研究の記述と同じように説明されることが多い。次の例文(1)と例文(2)はそれぞれ「推論の否定」と「部分否定」の例として提示されているものである。

- (1) 彼はベジタリアンだが、卵まで食べないわけではないらしい。

(『みんなの日本語中級Ⅱ』本冊 P. 38)

- (2) 若い人がみんな若者言葉を使うというわけではない。

(『できる日本語 中級』本冊 P. 124)

例文(1)は、「ベジタリアンだから、卵も食べない」という推論によって導き出した帰結を否定するため、「推論の否定」の用法にあたるのに対して、例文(2)は、「若い人には若者言葉を使う人はいるが、みんな(全部の若者)が若者言葉を使うのではない」と解釈され

¹³ ここでいう「推論事態」とは、現実世界に存在する事態、いわゆる実在事態から推論される事態のことである。

ることから、「部分否定」の用法にあたる。

また、学習者の使用例には次のような不適切なものが見られる。

(3) [誤用文]

しかしよくステレオタイプは事実よりかわいいので悪いことと思うわけがない。

[訂正文]

しかしステレオタイプは事実よりかわいいことが多いので(必ずしも)悪いこと
と思うわけではない。

(『オンライン日本語誤用辞典(公開版 Ver. 1.1)』Ld_026_2009)

例文(3)は「ワケガナイ」の「誤用」の例であり、ここでは副詞「必ずしも」を使用すべきところで使用できていない。また、「ワケガナイ」だけではなく、「ワケデハナイ」が十分に理解できていないこともこの誤用に影響していると考えられる。そのため、日本語教育において「ワケデハナイ」を指導する場合、学習者に「推論の否定」ないしは「部分否定」という説明を提示するだけでは不十分であると思われる。そして、従来の日本語学の分野において行われてきた文法記述が抽象的であるため、より具体的な言語情報を提示しなければ、実際の運用につながらない可能性がある。そのため、学習者の理解を促進することを目的とし、本章ではコーパスから抽出したデータをもとに、「ワケデハナイ」の共起情報や機能を記述する。

3.2 先行研究と文法解説書からみる「ワケデハナイ」

3.2.1 先行研究と文法解説書の記述

本項では先行研究や日本語教育関連の解説書で「ワケデハナイ」がどのように記述されているかを確認する。従来の先行研究や文法解説書では「ワケデハナイ」の意味について、「推論の否定」と「部分否定」という記述が主である。例えば、寺村(1984)、森田・松木(1989)、グループ・ジャマシイ(1998)、庵・高梨・中西・山田(2001)、日本語記述文法研究会(2003)、友松・宮本・和栗(2010)などがそのような記述をしている。

これらの先行研究や文法解説書で取り上げられている「ワケデハナイ」の例文と意味記述を順に見ていく。まず、先行研究や文法解説書で取り上げられている例文を以下に示す。

【推論の否定】

- (4) 井住千代という女は、果たしてどういう性格の女なのか。そういう疑問に出会うことがあっても、人びとは容易に回答を出そうとはしなかった。いや、彼等に意見がないわけではない。その一つは、あれはやっぱり下町っ子だ、やることははっきりしているという見方であり、もう一つは、気っ風はたしかにいいが、少しきつすぎるのではないかという説である。

(寺村 1984:289)

【推論の否定】

- (5) しかし、物体の振動が空気の波となっても、すべてが音として知覚されるわけではない、一定の限界がある

(森田・松木 1989:209-211)

【①-推論の否定、②-部分否定】

- (6) ①このレストランはいつも客がいっぱいだが、だからといって特別においしいわけではない。
②来月から英会話を習うことにした。全然話せないわけではないのだが、日頃英語をしゃべる機会がないので、いざというとき口から出てこないのだ。

(グループ・ジャマシイ 1998:643)

【①-推論の否定、②-部分否定】

- (7) ①生活が苦しいからといって泥棒をしてもいいというわけではない。
②私は特に映画が好きというわけではないが、月に2、3本は見る。

(庵・高梨・中西・山田 2001:293-294)

【推論の否定】

- (8) 最近、私はスポーツをやってないが、けっして嫌いなわけではない。

(日本語記述文法研究会 2003:214)

【部分否定】

- (9) わたしは学生時代に勉強ばかりしていたわけではない。よく旅行もした。

(友松・宮本・和栗 2010:418)

続いて、先行研究や文法解説書における意味記述を見ていく。まず、寺村(1984)、森田・松木(1989)、グループ・ジャマシイ(1998)、庵・高梨・中西・山田(2001)、日本語記述文法研究会(2003)、友松・宮本・和栗(2010)における意味記述を表1にまとめる。

表1 先行研究と文法解説書における「ワケデハナイ」の意味記述

| 先行研究 | 意味記述 |
|--------------------------|---|
| 寺村(1984:287) | 話し手は、まずPという発言をし、それに対して、自分がPと言ったことから、聞き手は、それなら当然Qだろうと推論するだろう、と考え(想像し)、その推論を否定するプロセス。 |
| 森田・松木(1989:208-211) | ①ある事実から必然的に導き出される結論を想像し、それを否定する。ある事実を知った聞き手がそのように推論するであろうと話し手が想像し、その結論を否定する言い方である。 ②極端な例を挙げて否定し、現実がそれよりも程度の軽い、対応しやすい状況であることを示唆する用法である。 |
| グループ・ジャマシイ(1998:643) | ①現在の状況や直前の発言から当然導き出されることがらを否定するのに用いる。「だからといって」「別に」「特に」などとともに用いられることが多い。 ②「全部・みんな」「全然・まったく」などの語と一緒に用いると、部分否定になる。 |
| 庵・高梨・中西・山田(2001:293-294) | ①第一の用法はQを完全に否定するのではないということを表すものである。この場合、Qは基本的に形容詞を中心とする程度性を持つものに限られる。この用法では「特に、必ずしも」などの副詞がよく使われる。 ②第二の用法は「P→Q」という推論が正しくないということを表すものである。この用法では「Pからといって」がよく使われる。 |
| 日本語記述文法研究会(2003:213) | 状況や先行文脈を根拠として、聞き手が推論によって導き出した帰結、聞き手や一般の人々が導き出すと予想される帰結を否定するときに用いられる。 |
| 友松・宮本・和栗(2010:418) | 【全部は～とは言えない/必ず～とは言えない】 「～わけではない」の形で、「～」の事柄を部分的に否定するときに使う言い方。 「～からといって」とともに使うことが多い。 |

これらの記述を「PとQの関係」、「部分否定への言及」、「共起しやすい表現」という3つの点に注目してまとめ直した結果を、以下の表2に示す。また、「PとQの関係」については、すべての先行研究と文法解説書が「PとQ」を使っているわけではないため、それぞれ「発言・事実・状況や発言・状況や先行文脈」をPと呼び、「推論・結論・ことがら・帰結」

をQと呼ぶことにする。その上で、先行研究と文法解説書の記述において、それらにあたるものをすべてPとQに統一して、表2にまとめる。

表2 先行研究と文法解説書における「ワケデハナイ」の意味記述のまとめ

| | 意味記述 |
|----------|---|
| PとQの関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・寺村(1984) 「P」から「Q」を否定する ・森田・松木(1989) 「P」から「Q」を否定する ・グループ・ジャマシイ(1998) 「P」から「Q」を否定する ・庵・高梨・中西・山田(2001) 「P→Q」という推論が正しくない ・日本語記述文法研究会(2003) 「P」から「Q」を否定する |
| 部分否定への言及 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ・ジャマシイ(1998) 「全部・みんな」「全然・まったく」などの語と一緒に用いると、部分否定になる ・庵・高梨・中西・山田(2001) Qを完全に否定するのではない ・友松・宮本・和栗(2010) 「～わけではない」の形で、「～」の事柄を部分的に否定する |
| 共起しやすい表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ・ジャマシイ(1998) 「だからといって」「別に」「特に」 「全部・みんな」「全然・まったく」 ・庵・高梨・中西・山田(2001) 「特に、必ずしも」「～からといって」 ・友松・宮本・和栗(2010) 「～からといって」 |

3.2.2 先行研究と文法解説書の記述における問題点

表2からわかるように、先行研究と文法解説書はいずれも「推論の否定」と「部分否定」のいずれか1つの用法か、両方の用法が記述されている。以上の点を踏まえて、以下では、「推論の否定」と「部分否定」という意味記述の問題点を指摘する。

これまで見た「推論の否定」と「部分否定」という記述のうち、「推論の否定」は「ワケデハナイ」をある事実から推論される結論を否定する表現としている。「推論の否定」は「実在

事態」から推論された帰結である「推論事態」を、「そうとは言い切れない事柄」の存在によって否定すると説明される。まず、「推論の否定」で説明できる例を例文(10)に示す。

- (10) アメリカの大学病院は、それぞれの部門で完全に独立採算性である。そのため、各科の医師の給料は、原則的にそれぞれの科の儲けによって分配される。スタッフの定員も原則としては主任教授が決めることができる。人が多いほど一人が負担する仕事量は少なくなるが、給料も少なくなる。大学病院であっても外科医ひとりひとりの収入が一般的に多いのは、手術を数多くこなして稼ぐことができるためである。それに比べると、病理医、小児科医、一般内科医の収入は決して多いとは言えなかった。日本では、大学病院や公立病院の給料は、年齢、勤務年数、地位などによって決まり、一般的に他科の医師より長時間勤務する外科医であっても、給料に差があるわけではない。

(LBs4_00046:図書館・書籍)

例文(10)における実在事態、推論事態、そうとは言い切れない事柄がそれぞれ何を指しているのか以下に示す。

- (11) アメリカでは手術を数多くこなす外科医は収入が多い
→日本でも、外科医は同じように収入が多い
➡日本の大学病院の給料は、年齢等で決まるので、外科医でも他科の医師と給料に差はない

しかし、例文(12)と例文(13)のような、「推論の否定」と「部分否定」の両方で説明できる例文も少なくない。この用法では、「ワケデハナイ」を用いることによって、現実世界の状況を根拠として想定される推論事態の一部である、「まったく」「一切」「全然」のような打ち消しを強調する表現を否定している。

- (12) 夜の海に浮かぶ船の中は怖いほど静かだった。かと言って、まったく音がしないわけではない。どこか遠くで、鉄のきしむ音やエンジンの呼吸する音や部屋の前を通り過ぎる誰かの足音がするのだが、(後略)。

(LBp9_00032:図書館・書籍)

- (13) 最近、少々不眠症気味なのです。全然眠れないわけではないのですが、寝ようとしても、すぐには眠れません。ぐっすり眠れる方法ありませんか？

(0C09_01651:特定目的・知恵袋)

まず、2つの例文について「推論の否定」という観点から考察する。例文(12)は、「怖いほど静か」という現実から、「まったく音がしない」ということが推論され、その一部である「まったく」が「ワケデハナイ」によって否定されている。また、例文(13)は、「少々不眠症気味」という現実から、「全然眠れない」ということが推論され、その一部である「全然」が「ワケデハナイ」によって否定されている。そのように考えれば、「推論の否定」にあたるわけだが、否定されているのは、その一部である「まったく」と「全然」だけである。つまり、「部分否定」でもあるということになる。

本研究では、このような例文を含めて、「ワケデハナイ」の分析を行う。また、推論事態の一部にあたる「まったく」「一切」「全然」のような打ち消しを強調する表現が否定されることから、それら「ワケデハナイ」の否定の解釈を明確にする表現を共起しやすい表現として記述する。

なお、先行研究や文法解説書で取り上げられている例文(4)～例文(9)は、「すべて・でも・全然・特に・からといって・けっして」のような表現を含んでいる。しかし、表2でまとめたように、共起しやすい表現への言及があるのはグループ・ジャマシイ(1998)、庵・高梨・中西・山田(2001:293-294)、友松・宮本・和栗(2010)のみである。これらの研究の多くが共起しやすい表現を含む例文を挙げて意味を記述しているが、共起しやすい表現については例を挙げるに留まっている。そのため、どのような表現が「ワケデハナイ」と共起しやすいのかを検討する。

3.3 使用コーパスと考察対象

本研究では『現代日本語書き言葉均衡コーパス(データバージョン 1.1)』の全データを対象にして、コーパス検索アプリケーション「中納言」を用いて検索を行った。調査手順として、まずキーワードを語彙素読み「ワケ」と指定した上で、長単位として検索した結果、71297 例が抽出された。続いて、書き言葉と話し言葉の特徴を考慮し、調査に用いるキーワードは「デハ」「ジャ」とした。それぞれ「ワケデハナイ」は10315 例、「ワケジャナイ」は2523 例、計12838 例を抽出した。また、この12838 例をExcelのRAND関数でランダムに並べ替えることによって、考察対象とする300 例を抽出した。

続いて、「ワケデハナイ」について、文末に現れる場合と文中に現れる場合に分けて説明する。「ワケデハナイ」が文末に現れる場合には、「わけでは/じゃない(です)。「わけでは/じゃありません(でした)。「わけでは/じゃなかった(です)。」などがある。そして、文中に現れる場合には、「わけでは/じゃないので…」「わけでは/じゃなく…」などがある。文末に現れる場合が例文(14)、文中に現れる場合が例文(15)のようなものである。本研究では、このような例を考察対象とする。

- (14) 妹にしろ、ボクのなにげない言葉で、泣きだしちゃったり、別に泣かそうとして言ってるわけではない。むしろ、彼だけが突出しているといえるかもしれない。水揚げが年々落ちてきている現実のなかでは、なかなか個人の努力ではカバーしきれないのだが、それでも谷中さんはそれにたちむかっている。

(PB13_00245:出版・書籍)

- (15) 子育ての必要に迫られて、私はいつも感度のよい受信機たように徹してきた。俊哉の発するものをキャッチするためには、こちらの周波数をより高く細やかにしておく必要があった。ただそうしたからといって、彼のすべてを理解できるわけではなく、いまだにわからないことも多い。

(PB19_00513:出版・書籍)

3.4 記述方法

本章では「ワケデハナイ」の共起しやすい表現に着目した分析を行うが、その記述方法については、太田(2005、2014)に倣い【**实在事態と推論事態の関係**】と【**機能**】に分けて、「ワケデハナイ」を記述する。

3.5 コーパスからみる「ワケデハナイ」の共起しやすい表現

本節では、共起しやすい表現をもとに「ワケデハナイ」の意味を分類し、分析を行う。序論で本研究の立場を述べた通り、各表現の記述にあたって、共起しやすい表現が文中にある文のみを考察対象とする。例えば、例文(16)のような文中に共起しやすい表現がないものについては考察対象から外し、「共起なし」としてまとめる。

(16) 俺は、マッチョになりたいわけではない、ゴルフをやっても疲れない程度の体になりたいんだ。

(LBr7_00041:図書館・書籍)

そして、上述の方法で抽出した 300 例を共起しやすい表現をもとに分類した結果、①<不成立の可能性>、②<逆接の条件>、③<極端(全体・必然・高頻度)>、④<打ち消しの強調>、⑤<取り立て>の 5 つの種類に分けられる。以下、各類の用例数を表 3 に示す。

表 3 分析した例文の内訳

| 共起する成分 | 共起しやすい表現 | 用例数(%) |
|---------------|-----------------------------|------------------------|
| 不成立の可能性 | 必ずしも | 25(8.3%) ¹⁴ |
| 逆接の条件 | だからといって、とは言っても、であつても(+必ずしも) | 42(14%) |
| 極端(全体・必然・高頻度) | すべて、完全に、必ず、いつも、常に | 59(19.7%) |
| 打ち消しの強調 | まったく、一切、全然 | 39(13%) |
| 取り立て | 特に、別に | 30(10%) |
| その他 | | 63(21%) |
| 共起なし | | 42(14%) |
| 合計 | | 300(100%) |

表 3 からわかるように、共起しやすい表現を伴う用例数は 300 例中の 195 例、全体の 65%に達している。つまり、「ワケデハナイ」の記述にあたって、抽出した例文のうち、65%をカバーする記述になりえる。

¹⁴ <不成立の可能性>に分類される用例の中には、<逆接の条件>で使われているものは含まれていない。

また、本章の考察対象としては分析しないが、「その他」と分類したものに何が含まれているのかについて、以下に例文を示す。

- (17) もちろんクルー体制での取材で調査報道ができないわけではなく、イギリスの BBC やアメリカの CBS は良質の番組を幾つも作ってきたし、日本にも NHK スペシャルの例がある。

(PB30_00018: 出版・書籍)

- (18) 彼女にもそれほど大した用件があるわけではなく、着替えを持って来てほしいとか、何かおやつを差し入れてちょうだいとか、それ以外には、彼女が毎日こうやってかける市外電話に必要な十円玉一すなわち小遣い銭の無心ぐらいのことであった。

(LBg9_00220: 図書館・書籍)

続いて、3.5.1～3.5.5 では、表 3 にまとめた 5 つの共起しやすい表現ごとにさらに検討する。

3.5.1 不成立の可能性

【共起しやすい表現】 必ずしも

【実在事態と推論事態の関係】

推論事態に反する何らかの実在事態が存在する

【機能】 話し手が推論事態についてそれが絶対だと言えないことを示唆することで、想定される推論を否定する

<不成立の可能性>は、話し手が「必ずしも……ワケデハナイ」を用いることで、推論事態に対し疑問を呈しながら、それが絶対だと言えないことを示唆することで、想定される推論を否定する、ということを表す。以下、<不成立の可能性>の例を例文(19)～例文(21)に示す。

- (19) 安いから必ずしも悪いというわけではなく、目的に応じて使い分ければよいのではないだろうか。その違いを明確にして売っているところが信頼できる店と言える。

(PB22_00265:出版・書籍)

- (20) わが国の社会保障法は、必ずしも民法や商法のように統一的な法体系を形成しているわけではない。社会保障法という用語が法律用語として登場してきたのは第二次世界大戦後のことであり、六法全書においてその名称が登場したのも昭和四十年代のことである。

(LBq3_00053:図書館・書籍)

- (21) 一方でアメリカ型のプライベート・バンキングは、スイス型とはずいぶん異なっています。アメリカ型といった場合、アメリカの金融産業のなかにプライベート・バンクという独立した業態が必ずしも存在するわけではなく、インベストメント・バンクや商業銀行などの一部が、その業務の一部門として展開しているのが通常のケースです(ただし、一部の地域金融機関や信託会社でスイス型に近いプライベート・バンキング業務を行っているところもあるようです)。

(LBm3_00171:図書館・書籍)

例文(19)では、現実世界では「値段が安い」ことには、「値段が安いから、悪い」と一般的に認識されると話し手が推論している。しかし、話し手が「必ずしも」を用いることで、このような推論事態に対して、現実にはそうではない状況もあることを示唆している。つまり、現実世界では推論事態に反する、「安いものは高いものに劣ることを認めた上で、多少質が悪くても、安いものと高いものを目的に応じて使い分ければよい」といった実在事態が存在するため、「値段が安いから、悪い」という推論事態は絶対だと言えないということを、話し手は示唆しているのである。

例文(20)では、現実世界では「民法や商法のような法律は統一的な法体系を形成している」ことには、「社会保障法も統一的な法体系を形成している」と一般的に認識されると話し手が推論している。しかし、話し手が「必ずしも」を用いることで、このような推論事態に対して、現実にはそうではない状況もあることを示唆している。つまり、現実世界では推論事態に反する、「社会保障法は民法や商法と比較すると、比較的新しい」といった実在事態が存在するため、「社会保障法も民法や商法のように統一的な法体系を形成し

ている」という推論事態は絶対だと言えないということを、話し手は示唆しているのである。

例文(21)では、現実世界では「スイス型はプライベート・バンクという独立した業態が存在する」ことには、「アメリカ型もプライベート・バンクという独立した業態が存在する」と一般的に認識されると話し手が推論している。しかし、話し手が「必ずしも」を用いることで、このような推論事態に対して、現実にはそうではない状況もあることを示唆している。つまり、現実世界では推論事態に反する、「アメリカ型はインベストメント・バンクや商業銀行などの一部が、その業務の一部門として展開しているのが通常のケース」といった実在事態が存在するため、「アメリカ型はスイス型のような、プライベート・バンクという独立した業態が存在する」という推論事態は絶対だと言えないということを、話し手は示唆しているのである。

続いて、例文(19)～例文(21)における現実、推論事態、推論事態に反する実在事態、推論事態が絶対だと言えない事柄、を以下の(22)～(24)で再確認する。

(22) 値段が安い

→値段が安いから、悪い

⇔高いものに劣ることを認めた上で、多少質が悪くても、安いから悪いと思われるものと高いものを目的に応じて使い分ければよい

➡「安いものが絶対悪い」とは言えない

(23) 民法や商法のような法律は統一的な法体系を形成している

→社会保障法も統一的な法体系を形成している

⇔社会保障法は民法や商法と比較すると、比較的新しい

➡「社会保障法も民法や商法のように絶対統一的な法体系を形成している」とは言えない

(24) スイス型はプライベート・バンクという独立した業態が存在する

→アメリカ型もプライベート・バンクという独立した業態が存在する

⇔アメリカ型はインベストメント・バンクや商業銀行などの一部が、その業務の一部門として展開しているのが通常のケース

➡「アメリカ型はスイス型のような、プライベート・バンクという独立した業態が絶対存在する」とは言えない

以上のことをまとめると、〈不成立の可能性〉とは、以下に示す用法である。「必ずしも+…ワケデハナイ」を用いることで、話し手が推論事態に対して疑問を呈しながら、現実世界にはそうでもない状況もあることを取り上げる際に、推論事態が絶対だとは言えないことを示唆する。

3.5.2 逆接の条件

【共起しやすい表現】 だからといって、とは言っても、であっても(+必ずしも)

【実在事態と推論事態の関係】 現実世界で推論事態が存在しない

【機能】 話し手が推論事態に対してそうとは言い切れないことを示唆することで、想定される推論を否定する

〈逆接の条件〉は、〈不成立の可能性〉と同じく、話し手が「必ずしも+…ワケデハナイ」を用いることで、推論事態に対し疑問を呈するという特徴がある。両者の違いは、〈逆接の条件〉は、逆接条件であるか否かで区別される、という点である。つまり、〈逆接の条件〉は「だからといって」「とは言っても」「であっても」のような逆接の条件を表す表現に「必ずしも」が付加されることによって、推論事態に対してそうとは言い切れないことを示唆することで、想定される推論を否定するものである。

推論事態と共起しやすい表現の関係を詳しく考察すると、「前件+だからといって/とは言っても/であっても、後件+ワケデハナイ」という構造が見られることから、推論事態が「前件」と「後件」が合わさったものであることがわかる。考察に入る前に、まず以下の作例を通して、「前件と後件が合わさった推論事態」について説明する。

(25) 日本に留学したからといって、日本語がペラペラになるわけではない。

推論事態: 日本に留学したら、日本語がペラペラになる

→前件: 日本に留学する

→後件: 日本語がペラペラになる

例文(25)で、話し手が推論事態としているのは、「日本に留学したら、日本語がペラペラになる」ということである。「だからといって」「とは言っても」「であっても」という逆接の条件を表す文は、前件(=日本に留学する)が、後件(=日本語がペラペラになる)成立の十分条件ではない。

以下、さらに<逆接の条件>の例を例文(26)～例文(28)に示す。

(26) アメリカの大学病院は、それぞれの部門で完全に独立採算性である。そのため、各科の医師の給料は、原則的にそれぞれの科の儲けによって分配される。スタッフの定員も原則としては主任教授が決めることができる。人が多いほど一人が負担する仕事量は少なくなるが、給料も少なくなる。大学病院であっても外科医ひとりひとりの収入が一般的に多いのは、手術を数多くこなして稼ぐことができるためである。それに比べると、病理医、小児科医、一般内科医の収入は決して多いとは言えなかった。日本では、大学病院や公立病院の給料は、年齢、勤務年数、地位などによって決まり、一般的に他科の医師より長時間勤務する外科医であっても、給料に差があるわけではない。

(=(10))

(27) 斜頸は、くびすじにある筋肉がかたくなっているものですが、だからといってすぐ治療が必要なわけではありません。自然の経過でなおってしまうものがほとんどです。

(LBi5_00012:図書館・書籍)

(28) ところが日本の場合は民族と国民とがほぼ一つになっており、この意味でたいへん気楽な社会だといえる。他国にみられるような民族的な軋轢はこの国にはない。日本的な合意というものが、他の国の人々から奇異な目をもってみられているようだが、そのような暗黙の合意が成り立つというのも、この国が同質社会であるゆえだ。しかし、同質の社会というものは、だからといって、必ずしも手放して気楽な社会というわけではない。同質社会には同質社会なりの圧力があるのだ。

(OT03_00004:特定目的・教科書)

例文(26)では、現実世界では「アメリカでは手術を数多くこなす外科医は収入が多い」ことには、「日本でも、外科医は同じように収入が多い」と一般的に認識されると話し手が推論している。しかし、話し手が「であっても」を用いることで、このような推論事態に対して、そうとは言い切れないことを示唆する。つまり、現実世界ではこの推論事態に反する、「日本の大学病院の給料は、年齢等で決まるので、外科医でも給料に差はない」といった現状が存在するため、「勤務時間が長い外科医は給料がそれほど高くない」ということを、話し手は示唆しているのである。

例文(27)では、現実世界では「斜頸はくびすじにある筋肉がかたくなっている」ことには、「斜頸はすぐ治療が必要である」と一般的に認識されると話し手が推論している。しかし、話し手が「からといって」を用いることで、このような推論事態に対して、そうとは言い切れないことを示唆する。つまり、現実世界ではこの推論事態に反する、「自然の経過でなおってしまうものがほとんどである」といった現状が存在するため、「斜頸はすぐ治療が必要ではない」ということを、話し手は示唆しているのである。

例文(28)では、現実世界では「日本は民族と国民とがほぼ一つになっている」ことには、「日本は手放しで気楽な社会である」と一般的に認識されると話し手が推論している。しかし、話し手が「からといって」を用いることで、このような推論事態に対して、そうとは言い切れないことを示唆する。つまり、現実世界ではこの推論事態に反する、「暗黙の合意で成り立っている同質社会にはそれなりの圧力がある」といった現状が存在するため、「日本は手放しで気楽な社会ではない」ということを、話し手は示唆しているのである。

続いて、例文(26)～例文(28)における現実、推論事態、推論事態に反する実在事態、そうとは言い切れない事柄を提示することによって示唆される主張、を以下の(29)～(31)で再確認する。

(29) アメリカでは手術を数多くこなす外科医は収入が多い

→日本でも、外科医は同じように収入が多い

⇔日本の大学病院の給料は、年齢等で決まるので、外科医でも給料に差はない

➡勤務時間が長い外科医は給料がそれほど高くない

(30) 斜頸はくびすじにある筋肉がかたくなっている

→斜頸はすぐ治療が必要である

⇔自然の経過でなおってしまうものがほとんどである

⇒斜頸はすぐに治療が必要ではない

(31) 日本の場合は民族と国民とがほぼ一つになっている

→日本は手放しで気楽な社会である

⇔暗黙の合意で成り立っている同質社会にはそれなりの圧力がある

⇒日本は手放しで気楽な社会ではない

以上のことをまとめると、〈逆接の条件〉とは、以下に示す用法である。「(必ずしも)+…ワケデハナイ」を用いることで、話し手が推論事態に対して疑問を呈し、さらに、「だからといって」「とは言っても」「であっても」のような逆接の条件を表す表現に「必ずしも」が付加されることによって、推論事態に対してそうとは言い切れないことを示唆する。

3.5.3 極端(全体・必然・高頻度)

【共起しやすい表現】すべて、完全に、必ず、いつも、常に

【実在事態と推論事態の関係】現実世界で推論事態が存在しない

【機能】話し手が現実では対立的関係にある2つの実在事態が存在することを示唆することで、想定される推論を否定する

〈極端(全体・必然・高頻度)〉では、全体を意味する「すべて」、「完全に」、必然を意味する「必ず」、高頻度を意味する「いつも」、「常に」といった語のみを話し手は否定している。以下、〈極端(全体・必然・高頻度)〉の例を例文(32)～例文(34)に示す。

(32) 中薬とは、完全に無毒というわけではなく、用い方によって有毒になるものも含む。体力を補い、疾病を防ぎ、治療に役立つものである。

(PB34_00021:出版・書籍)

(33) ただ、どのメーカーも耐久テストは行っているので、買った端末が必ず壊れるというわけではありません。メーカー、機種によって多少は壊れやすさはあると思いますが、買った端末がたまたま不良品に近かったと思うのが普通だと思います。

(OC02_04103:Yahoo!知恵袋)

(34) 適当な親権者がいない不良児は感化院に入れて、国が親代わりをしようというのは、確かに必然性があった。彼らは感化院に入れなければ犯罪児となる可能性が高かったであろう。罪を犯した十四歳未満の子を感化院ではなく監獄に入れば、さらに悪事を習って社会に戻ることになるろう。全児童の中で不良児というのが圧倒的に少ない存在で、そこへ多額の税金をつぎ込むのは如何なものか、という意見があったことは前に紹介したが、国家が介入しないで誰がそれをしたであろう。篤志の人がいつも現れるわけではない。感化院は確かに保護事業という名に値する存在であった。

(PB13_00620:出版・書籍)

例文(32)では、「中薬とは完全に無毒というものである」というのが推論事態である。しかし、推論事態は現実世界で成立しない。なぜならば、使い方によって有毒になるものも含むためである。よって、話し手は「ワケデハナイ」を用いることにより、現実では「中薬とは完全に無毒というものである」という対立する関係にある2つの実在事態が存在することを示唆する。なお、話し手が推論事態の一部にあたる「完全に」のみを否定することになるため、現実では「基本的には無毒だが、使い方によっては有毒になるものがある」と「使い方を問わず、無毒なものがある」といった2つの対立する関係にある実在事態が同時に成立している。

例文(33)では、「買った端末が必ず壊れる」というのが推論事態である。しかし、推論事態は現実世界で成立しない。なぜならば、どのメーカーも耐久テストは行っているためである。よって、話し手は「ワケデハナイ」を用いることにより、現実では「買った端末が必ず壊れる」という対立する関係にある2つの実在事態が存在することを示唆する。なお、話し手が推論事態の一部にあたる「必ず」のみを否定することになるため、現実では「買った端末が壊れていた」と「どのメーカーも耐久テストを行っていて、メーカー、機種によって壊れやすいものもあるが、基本的には壊れない」といった2つの対立する関係にある実在事態が同時に成立している。

例文(34)では、「篤志の人がいつも現れる」というのが推論事態である。しかし、推論事態は現実世界で成立しない。なぜならば、篤志の人が現れるのがいつもではないからこそ、国家が親代わりになって感化院を設立しようとしたためである。よって、話し手は「篤志の人がいつも現れる」という対立する関係にある2つの実在事態が存在することを

示唆する。なお、話し手が推論事態の一部にあたる「いつも」のみを否定することになるため、現実では「篤志の人が親代わりに親権者がいない不良児を育てる」と「国が親代わりになって適当な親権者がいない不良児を感化院に入れる」といった 2 つの対立する関係にある実在事態が同時に成立している。

続いて、例文(32)～例文(34)における推論事態、現実世界における対立する関係にある 2 つの実在事態を以下の(35)～(37)で再確認する。

(35) 中薬とは完全に無毒というものである

➡基本的には無毒だが、使い方によっては有毒になるものがある

➡使い方を問わず、無毒なものがある

(36) 買った端末が必ず壊れる

➡買った端末が壊れていた

➡どのメーカーも耐久テストを行っていて、メーカー、機種によって壊れやすいものもあるが、基本的には壊れない

(37) 篤志の人がいつも現れる

➡篤志の人が親代わりに親権者がいない不良児を育てる

➡国が親代わりになって適当な親権者がいない不良児を感化院に入れる

以上のことをまとめると、〈極端(全体・必然・高頻度)〉とは、以下に示す用法である。全体を意味する語「すべて」、「完全に」、必然を意味する語「必ず」、高頻度を意味する語「いつでも」、「常に」のような極端なことを表す表現を否定することによって、話し手が現実では対立的関係にある 2 つの実在事態の存在を示唆することで、想定される推論事態を否定する

3.5.4 打ち消しの強調

【共起しやすい表現】まったく、全然

【実在事態と推論事態の関係】現実世界で推論事態が存在しない

【機能】話し手が現実世界の状況を根拠として、推論事態は存在しないことを示唆することで、想定される推論を否定する

〈打ち消しの強調〉は、「ワケデハナイ」を用いることによって、「まったく」「全然」のような打ち消しを強調する表現を否定している。また、現実世界の状況を根拠として、話し手は推論事態が存在しないことを示唆することで、想定される推論を否定する。以下、〈打ち消しの強調〉の例を例文(38)と例文(39)に示す。

(38) 夜の海に浮かぶ船の中は怖いほど静かだった。かと言って、まったく音がしないわけではない。どこか遠くで、鉄のきしむ音やエンジンの呼吸する音や部屋の前を通り過ぎる誰かの足音がするのだが、(後略)。

(=(12))

(39) 最近、少々不眠症気味なのです。全然眠れないわけではないのですが、寝ようとしても、すぐには眠れません。ぐっすり眠れる方法ありませんか？

(=(13))

例文(38)では、推論事態にあたる「まったく音がしない」ことが現実世界では起きていない。つまり、話し手は推論事態に対し「ワケデハナイ」を用いて「まったく」を否定することにより、「僅かでありながら、音がする」ということを示唆しているのである。しかし、推論事態と実在事態が一致しないため、話し手はこのような示唆をより明確なものにするために、「鉄のきしむ音やエンジンの呼吸する音や部屋の前を通り過ぎる誰かの足音がする」といった状況を取り上げていると考えられる。

例文(39)では、推論事態にあたる「全然眠れない」ことが現実世界では起きていない。つまり、話し手は推論事態に対し「ワケデハナイ」を用いて「全然」を否定することにより、「少しは眠れる」ということを示唆しているのである。しかし、推論事態と実在事態が一致しないため、話し手はこのような示唆をより明確なものにするために、「すぐには眠れないが、少しは眠れる」といった状況を取り上げていると考えられる。

続いて、例文(38)と例文(39)における現実、推論事態、推論事態に反する実在事態を以下の(40)と(41)で再確認する。

(40) 船の中は怖いほど静か

→まったく音がしない

⇨鉄のきしむ音やエンジンの呼吸する音や部屋の前を通り過ぎる誰かの足音がする

(41) 少々不眠症気味

→全然眠れない

⇨すぐに眠れないが、少しは眠れる

以上のことをまとめると、〈打ち消しの強調〉とは、以下に示す用法である。「まったく」「全然」のような打ち消しを強調する表現を、話し手が「ワケデハナイ」を用いることによって否定している。また、現実世界の状況を根拠として、推論事態は存在しないことを示唆することで、想定される推論を否定する。

3.5.5 取り立て

【共起しやすい表現】特に、別に

【実在事態と推論事態の関係】

推論事態に反する何らかの実在事態が存在する

【機能】話し手が推論事態は実在事態から区別されるような状態にないことや、特に取り立てていうことはないことを示唆することで、想定される推論を否定する

〈取り立て〉は、話し手が「特に」、「別に」を用いることで、推論事態は明確に実在事態から区別されるような状態にないことや、特に取り立てていうことはないことを示唆することで、想定される推論を否定するものである。以下、〈取り立て〉の例を例文(42)～例文(44)に示す。

(42) 普通の町の楽器店だと取り扱っているところは少ないと思いますが、特に購入が難しいわけではありません。日本人でチェンバロ製作をされている方もいらっしゃるいます。

(0C01_02533:特定目的・知恵袋)

(43) 大人になってから太った人は、脂肪細胞の数は特に多いわけではないので、脂肪細胞のサイズを元に戻せばよい。中年太りでは、きちんと食事や運動に気を付ければ、脂肪細胞に詰まっている中性脂肪の燃焼が進み、膨らんだ脂肪細胞のサイズがだんだんしぼんでいく。

(PB24_00111:出版・書籍)

(44) 敗走する秀吉軍が、姫路の城に入った時には、三万の軍は、十分の一の三千に減っていた。そのため、秀吉は、姫路の城に入ったからといって安心しているわけにはいかなかった。一方、柴田勝家と佐久間盛政の軍は、次第に勢力を増して、今や、五万の大軍になっている。毛利は、秀吉とは別に、仲がいいわけではない。秀吉に、高松城を攻め落とされ、城主が切腹した恨みを持っている。もし、正面から、柴田勝家の軍、五万が押し寄せ、背後から毛利の軍に、攻め込まれたら、姫路城三千の羽柴軍は、ひとたまりもないだろう。

(LBt9_00009:図書館・書籍)

例文(42)では、現実世界では「普通の町の楽器店だとチェンバロを取り扱っているところは少ない」ことには、「チェンバロの購入が難しい」と一般的に認識されると話し手が推論している。しかし、話し手が「ワケデハナイ」を用いて「特に」を否定することにより、「チェンバロの購入が他の楽器に比べて特別に難しい」のではないことを示唆している。その否定の根拠として、話し手は「日本でチェンバロ製作をされている方もいるので、購入が難しくはない」といった実在事態を持ち出している。

例文(43)では、現実世界では「太っている人の多くは脂肪細胞の数が多い」ことには、「大人になってから太った人も脂肪細胞の数が多い」と一般的に認識されると話し手が推論している。しかし、話し手が「ワケデハナイ」を用いて「特に」を否定することにより、「大人になってから太った人は他の人に比べて脂肪細胞の数が特別に多い」のではないことを示唆している。その否定の根拠として、話し手は「きちんと食事や運動に気を付ければ、脂肪細胞に詰まっている中性脂肪の燃焼が進み、膨らんだ脂肪細胞のサイズがだんだんしぼんでいく」といった実在事態を持ち出している。

例文(44)では、現実世界では「毛利輝元は『豊臣五大老』の1人として知られている」ことには、「毛利と秀吉二人は仲がいい」と一般的に認識されると話し手が推論している。しかし、話し手が「ワケデハナイ」を用いて「別に」を否定することにより、「毛利と秀吉二

人は他の人に比べて特別に仲がいい」のではないことを示唆している。その否定の根拠として、話し手は「毛利が秀吉に高松城を攻め落とされ、城主が切腹した恨みを持っている」といった実在事態を持ち出している。

続いて、例文(42)～例文(44)における現実、推論事態、推論事態に反する実在事態を以下の(45)～(47)で再確認する。

- (45) 普通の町の楽器店だとチェンバロを取り扱っているところは少ない
→チェンバロの購入が難しい
⇔日本でチェンバロ製作をされている方もいるので、購入が難しくはない
- (46) 太っている人の多くは脂肪細胞の数が多い
→大人になってから太った人も脂肪細胞の数が多い
⇔きちんと食事や運動に気を付ければ、脂肪細胞に詰まっている中性脂肪の燃焼が進み、膨らんだ脂肪細胞のサイズがだんだんしぼんでいく
- (47) 毛利輝元は『豊臣五大老』の1人として知られている
→毛利と秀吉二人は仲がいい
⇔毛利が秀吉に高松城を攻め落とされ、城主が切腹した恨みを持っている

以上のことをまとめると、〈取り立て〉とは、以下に示す用法である。話し手は「特に」、「別に」のような取り立ての副詞を「ワケデハナイ」によって否定している。また、推論事態は明確に実在事態から区別されるような状態にないことや、特に取り立てていうことではないことを示唆することで、想定される推論を否定する。

3.6 本章のまとめ

「ワケデハナイ」が「推論の否定」と「部分否定」という観点から意味記述がなされてきたことは大変重要な指摘であるが、日本語を外国語として学ぶ学習者にとって、抽象的な意味記述から適切な使用や使い分けに繋げることは容易ではない。そのため、本章では、共起しやすい表現を伴う例文のみを考察対象とし、コーパスから抽出した例文に基づいて、「ワケデハナイ」の各用法において共起しやすい表現について記述を行った。

記述にあたっては、【実在事態と推論事態の関係】と【機能】といった見方で「ワケデハナイ」を考察した。その結果、3.5.1～3.5.5で考察したように、「ワケデハナイ」には5

つの共起しやすい表現があり、それぞれ【実在事態と推論事態の関係】と【機能】において異なる特徴があることが明らかとなった。以下に本章で明らかになったことをまとめる。

不成立の可能性

【共起しやすい表現】必ずしも

【実在事態と推論事態の関係】

推論事態に反する何らかの実在事態が存在する

【機能】話し手が推論事態についてそれが絶対だと言えないことを示唆することで、想定される推論を否定する

逆接の条件

【共起しやすい表現】だからといって、とは言っても、であっても(+必ずしも)

【実在事態と推論事態の関係】現実世界で推論事態が存在しない

【機能】話し手が推論事態に対してそうとは言い切れないことを示唆することで、想定される推論を否定する

極端(全体・必然・高頻度)

【共起しやすい表現】すべて、完全に、必ず、いつも、常に

【実在事態と推論事態の関係】現実世界で推論事態が存在しない

【機能】話し手が現実では対立的関係にある2つの実在事態が存在することを示唆することで、想定される推論を否定する

打ち消しの強調

【共起しやすい表現】まったく、全然

【実在事態と推論事態の関係】現実世界で推論事態が存在しない

【機能】話し手が現実世界の状況を根拠として、推論事態は存在しないことを示唆することで、想定される推論を否定する

取り立て

【共起しやすい表現】特に、別に

【実在事態と推論事態の関係】

推論事態に反する何らかの実在事態が存在する

【機能】話し手が推論事態は実在事態から区別されるような状態にないことや、特に取り立てていうことはないことを示唆することで、想定される推論を否定する

また、これら5つの「ワケデハナイ」と共起しやすい表現をまとめると、図1のようになる。

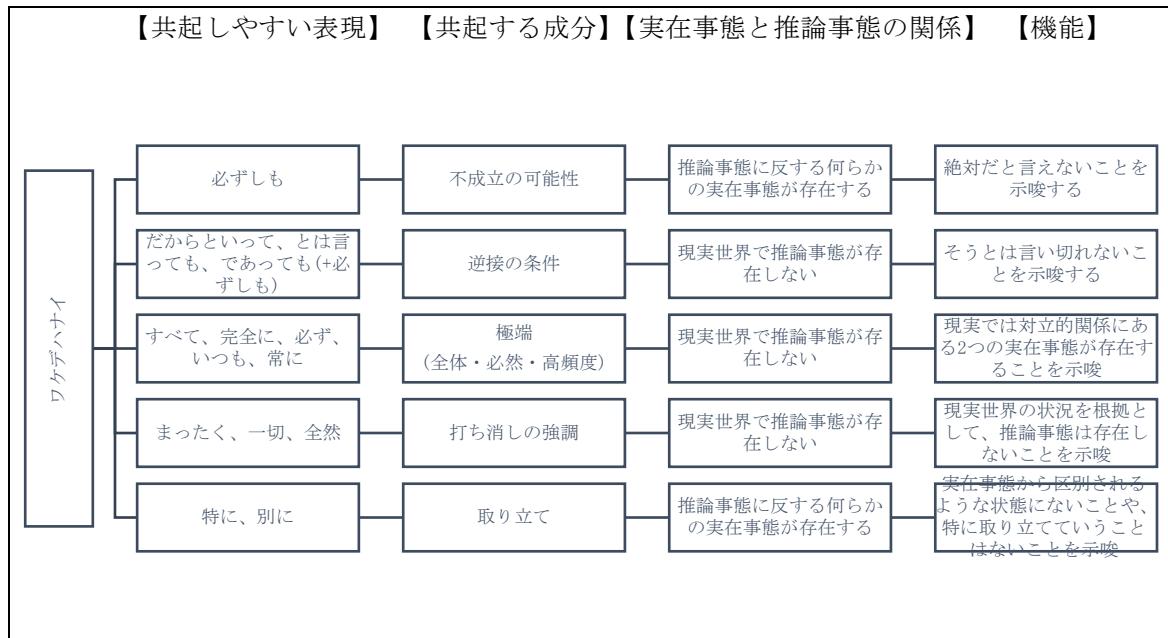


図1 「ワケデハナイ」の共起しやすい表現による分類図

図1は「ワケデハナイ」がいかなる表現と共起しやすいのかを明示しており、学習者が部分否定を表す表現である「ワケデハナイ」を理解する際の手がかりになるだろう。また、先行研究や文法概説書の説明と合わせて、具体的な情報を含むこの図を提示することが、教育現場により役立つ文法説明となると考える。

第4章 「トハカギリナイ」

本章では「トハカギリナイ」の分析を行う。「トハカギリナイ」は、第3章と第5章で分析を行う「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」のような形式名詞からなる表現ではないが、意味的には「ワケデハナイ」と類似している。

まず、コーパス調査によって、「トハカギリナイ」がどのような表現と共起しやすいかを明らかにする。次に、共起しやすい表現をもとに「トハカギリナイ」を分類し、各用法について【一般論と可能性の関係】と【機能】との関係を分析していく。

4.1 はじめに

「トハカギリナイ」の意味に関して従来の先行研究や教科書と文法解説書では、「いつも正しいとは言えない」や「例外もある」という記述で説明されてきた。「トハカギリナイ」の意味を記述している先行研究は、森田・松木(1989)、日本語記述文法研究会編(2003)、田中(2010)などが挙げられる。これらの先行研究では、「トハカギリナイ」の意味を次のように記述している。提示されている例文とともに、(1)、(2)、(3)に示す。

- (1) “…とは断定できない” “…とは決まっていない” といった当然の否定の意味を表し、それと反対の動作・作用が生じる可能性をにおわせている。

貴族のニュースは、良いニュースばかりとは限りません。

(森田・松木 1989:221-222)

- (2) 必ずしも一般法則が成立しない場合があるという意味での可能性を述べる。

この時間帯だと、並んでも、座れるとは限らない。

(日本語記述文法研究会編 2003:156)

- (3) 前段に述べられた内容全体を否定する文末形式で、部分否定によって実態の可能性を示唆する。

お金持ちの人が必ずしも幸せだとは限らない。

(田中 2010:318-319)

では、教科書と文法解説書における「トハカギリナイ」の意味記述はどのようなものだろうか。教科書と文法解説書では、「トハカギリナイ」を導入する際、上記で取り上げた先行研究と同様の記述がされることが多く、次のように提示されている。

- (4) 断定を避け、部分的に否定する。

どの学習者にも日本語の発音がやさしいとは限らない。

(『みんなの日本語中級Ⅱ 本冊』2012:187)

- (5) 「…ということがいつも正しいとは言えない」という意味を表す。一般的に正しいと認められることがらについて、例外もあると言うのに使う。

日本語を教えているのは日本人とはかぎらない。

(『教師と学習者のための日本語文型辞典』グループ・ジャマシイ 1998:357)

しかし、記述だけではなく、より具体的な言語情報も提示しなければ、実際の運用につながらない可能性がある。そのため、学習者の理解を促進することを目的とし、本章ではコーパスから抽出したデータをもとに、「トハカギリナイ」の共起情報や機能を記述する。

4.2 先行研究と文法解説書からみる「トハカギリナイ」

4.2.1 先行研究と文法解説書の記述

「トハカギリナイ」の意味について記述された先行研究や文法解説書には、森田・松木(1989)、グループ・ジャマシイ(1998)、庵・高梨・中西・山田(2001)、日本語記述文法研究会(編)(2003)、泉原(2007)、田中(2010)、友松・宮本・和栗(2010)がある。

これらの先行研究や文法解説書で取り上げられている「トハカギリナイ」の例文と意味記述を順に見ていく。まず、先行研究や文法解説書で取り上げられている例文を以下に示す。

- (6) 「あなたは彼女を信じているようですが、彼女が必ずしも約束を守るとは限らないと考えたことはありませんか。」

(森田・松木 1989:221)

- (7) 有名な作家の小説ならどれでもおもしろいとはかぎらない。
(グループ・ジャマシイ 1998:357)
- (8) 好きな相手と結婚しても、幸せになるとは限らない。
(庵・高梨・中西・山田 2001:214)
- (9) この時間帯だと、並んでも、座れるとは限らない。
(= (2))
- (10) 胃を全部、切りとったからといって、再発する可能性はあるんだから、全治したとは限らないだろう。
(泉原 2007:1056)
- (11) お金持ちの人が必ずしも幸せだとは限らない。
(= (3))
- (12) 話題の映画だからといって、かならずしもおもしろいとはかぎらない。
(友松・宮本・和栗 2010:357)

続いて、先行研究や文法解説書における意味記述を見ていく。まず、森田・松木(1989)、グループ・ジャマシイ(1998)、庵・高梨・中西・山田(2001)、日本語記述文法研究会(編)(2003)、泉原(2007)、田中(2010)、友松・宮本・和栗(2010)における意味記述を表1にまとめる。

表1 先行研究と文法解説書における「トハカギラナイ」の意味記述

| 先行研究 | 意味記述 |
|-----------------------|---|
| 森田・松木(1989:221) | 活用語の終止形や体言等を受けて、「…とは断定できない」「…とは決まっていない」といった当然の否定の意味を表し、それと反対の動作・作用が生じる可能性をにおわせている。 |
| グループ・ジャマシイ(1998:357) | 「…ということがいつも正しいとは言えない」という意味を表す。一般的に正しいと認められることがらについて、例外もあると言うのに使う。 |
| 庵・高梨・中西・山田(2001:214) | おおむね成り立つと考えられることがらや一般的に成り立つと考えられていることがらについて、あえてそれが成り立たない可能性があることを述べる表現。 |
| 日本語記述文法研究会編(2003:156) | 必ずしも一般法則が成立しない場合があるという意味での可能性を述べる表現。 |
| 泉原(2007:1057) | X=一般論 Xの一部分を否定して、実現可能な例外とする。 |
| 田中(2010:318-320) | 前段に述べられた内容全体を否定する文末形式が、部分否定によって事態の可能性を示唆する。 「からといって」は「とは限らない」「とはいえない」「ことにはならない」「(という)わけではない」としばしば共起するが、「とも限らない」は不自然になる。 |
| 友松・宮本・和栗(2010:357) | 【～ということがいつも本当だとは言えない】 「…ということが必ず、いつも本当であるとは言えない、ときには例外もある」と言いたいときの文型。いつも・全部・だれでも・必ずしも、などの副詞といっしょに使われることが多い。また、「～だからといって」などの言葉に導かれることが多い。 |

まず、先行研究と文法解説書の記述を「可能性を表す表現」、「いつも正しいとは言えない、例外もある」、「共起しやすい表現」という3つの点に注目してまとめ直す¹⁵。その結果を以下の表2に示す。

¹⁵ 4.2.2で「可能性を表す表現」と「いつも正しいとは言えない、例外もある」といった記述について検討する

表2 先行研究と文法解説書における「トハカギリナイ」の意味記述のまとめ

| | 意味記述 |
|-----------------------|--|
| 可能性を表す表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・森田・松木(1989) 可能性をにおわせている ・庵・高梨・中西・山田(2001) 可能性があることを述べる ・日本語記述文法研究会編(2003) 可能性を述べる ・田中(2010) 事態の可能性を示唆する |
| いつも正しいとは言えない 例外もある | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ・ジャマシイ(1998) 「…ということがいつも正しいとは言えない」 「例外もある」 ・泉原(2007) 「実現可能な例外」 ・友松・宮本・和栗(2010) 「…ということが必ず、いつも本当であるとは言えない」 「ときには例外もある」 |
| 共起しやすい表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・田中(2010) 「からといって」 ・友松・宮本・和栗(2010) 「いつも」「全部」「だれでも」「必ずしも」「～だからといって」 |

表1と表2からわかるように、それぞれの先行研究と文法解説書に、「いつも正しいとは言えない」と「例外がある」といった用法に関しては、7つの先行研究と文法解説書のうち、3つの先行研究と文法解説書(グループ・ジャマシイ 1998、泉原 2007、友松・宮本・和栗 2010)が取り上げている。一方、「いつも正しいとは言えない」と「例外がある」以外の記述を用いて「トハカギリナイ」を説明する先行研究と文法解説書が4つもある。また、「トハカギリナイ」は「可能性」を述べる表現として記述されることが多いこともわかる。それについては、7つの先行研究と文法解説書のうち、森田・松木(1989)、庵・高梨・中西・山田(2001)、日本語記述文法研究会編(2003)、田中(2010)、といった4つの先行研究と文法解説書で取り上げている。最後に、共起しやすい表現に言及しているのは、田中(2010)と友松・宮本・和栗(2010)である。

4.2.2 先行研究と文法解説書の記述における問題点

この項では、「いつも正しいとは言えない」と「例外がある」という記述では説明しきれない点があることを問題点として指摘する。また、「可能性」という記述であれば、適切に説明ができることを示した上で、「トハカギラナイ」を可能性表現として捉える理由について述べる。

まず、「いつも正しいとは言えない」や「例外がある」という記述で説明できる例を例文(13)に示す。

(13) 胃を全部、切りとったからといって、再発する可能性はあるんだから、全治したとは限らないだろう。

(=(10))

例文(13)を、「いつも正しいとは言えない」や「例外がある」という記述で説明すれば、「胃を全部切りとったとしても、いつも全治するとは言えない」や「全治しないという例外もある」ということになる。一方、「可能性」という記述で説明すると、一般的に胃を全部切りとったら、再発することがなく全治したことになると認識されるが、「トハカギラナイ」を用いることで、一般論と反する「胃を全部切りとったとしても、全治しないこともある」という可能性を示している。

以下、一般論と可能性¹⁶がそれぞれ何を指しているのかを(14)に示す。

(14) 一般論:胃を全部切りとったら、全治したことになる。

可能性:胃を全部切りとったとしても、全治しないこともある

しかしながら、例文(15)のような、「いつも正しいとは言えない」や「例外がある」という記述で説明できない例文も少なくない。

¹⁶ 「一般論」は「一般的に正しいと認められる事柄」、「可能性」は「一般論と反する事態が生じる可能性」を指す。本章は記述の便宜上、「一般論と反する事柄が生じる可能性」を「可能性」と呼ぶことにする。

(15) 女官と命婦が全く同一のものを指すとは限らないが、本行事における命婦とは自身が五位以上を帯する内命婦であり、男官に対する女官であると考えられるので、補任帳の様式は同様であろう。

(PB32_00092:出版・書籍)

例文(15)は、「いつも正しいとは言えない」や「例外がある」という記述では説明しきれない。その理由としては、例文(15)は「女官と命婦が全く同じものを指さない」と「本行事における命婦に限って言えば、命婦は女官である」、といった二通りの解釈が生まれるためである。一方、例文(15)を「可能性」という記述で説明すると、一般的に女官と命婦が同一のものを指すと認識されるが、「トハカギリナイ」を用いることで、一般論と反する「女官と命婦が全く同一のものを指さないこともある」という可能性を示している。また、例文(15)における「全く」などのような全体を意味する語を用いることによって二通りに解釈できるということに関しては、更なる検討をする必要がある。

以下、一般論と可能性がそれぞれ何を指しているのかを(16)に示す。

(16) 一般論:女官と命婦が同一のものを指す

可能性:女官と命婦が全く同一のものを指さないこともある

以上の考察を踏まえて、「トハカギリナイ」は「可能性」という記述によって適切に説明ができると考えられることから、本章では「トハカギリナイ」を可能性表現として捉え、分析することとする。

なお、先行研究や文法解説書で取り上げられている例文(6)～例文(12)については、いずれも「必ずしも・でも・だからといって」のような表現を含む例文を取り上げている。しかし、表1でまとめたように、共起しやすい表現への言及があるのは田中(2010)と友松・宮本・和栗(2010)のみである。これらの研究の多くが共起しやすい表現を含む例文を挙げて意味を記述しているが、共起しやすい表現については例を挙げるに留まっている。そのため、どのような表現が「トハカギリナイ」と共起しやすいのかを検討する

4.3 使用コーパスと考察対象

本研究では『現代日本語書き言葉均衡コーパス(データバージョン 1.1)』の全データを対象にして、コーパス検索アプリケーション「中納言」を用いて検索を行った。検索に際しては、キーワードを語彙素読み「カギル」と指定した上で、長単位として検索した結果、9115 例が抽出された。また、以下の例文(17)～例文(19)のような「ガカギラレル」や「ニカギラナイ」を含む例文 7368 例は考察対象外とし、それらを目視によって取り除いた。さらに、残りの 1747 例を RAND 関数でランダムに並べ替えることによって、考察対象とする 300 例を抽出した。以下に、本研究で考察対象外とする例文の一部を示す。

- (17) K-1 などの総合格闘技界は、出場する選手が限られており、特に日本選手には目玉がないのが現状です。

(0Y15_10011:Yahoo!ブログ)

- (18) 冬休み、に限らず夏休みでも春休みでも、長期の休みに入ると、学校へのすべての進入経路は自動的に封鎖される。さらに校舎自体が何者の侵入も許さない金城鉄壁の要塞へと姿を変える。

(PB59_00412:出版・書籍)

- (19) 中央から派遣された国司の方は、その敵を唐か新羅と考えているが、敢えてそのことを住民に糾そうとはしていない。何故なら、国司にとっても、この地から大量の兵士を送り出して、戦死させてしまった後ろめたさがある。下手にそのことに触れれば、住民の怒りを触発して、殴り殺されないとも限らない。だから、国司は、あまり深く詮索しないし、中央政庁へも、あいまいな報告しかしていない。

(PB29_00521:出版・書籍)

例文(17)と例文(18)における「…が限られている」「…に限らない」は「トハカギラナイ」とは形式的、意味的に異なることから、除外することとした。また、本研究は「は」と「も」の違いによる「トハカギラナイ」と「トモカギラナイ」の使い分けに関する検討には深く立ち入らないため、例文(19)のような「トモカギラナイ」を伴う例文を考察対象から外すこととした。

続いて、「トハカギリナイ」について、文末に現れる場合と文中に現れる場合に分けて説明する。「トハカギリナイ」が文末に現れる場合には、「とは限らない(です)」「とは限らなかった(です)」「とは限りません(でした)」などがある。そして、文中に現れる場合には、「とは限らず…」「とは限らないので…」などがある。文末に現れる場合が例文(20)、文中に現れる場合が例文(21)のようなものである。本研究では、このような例を考察対象とする。

- (20) さらに、人と人との交流は気軽に日常的にされることも多く、行政が交流のための新たな施設を整えたからといって、必ずしも有効に利用されるとは限らない。

(0W4X_00356:特定目的・白書)

- (21) NPO って何ですか？すごく簡単に教えて下さい。それから、NPO と名のつく団体は、みんな信用できるものなんですか？(中略) ちなみに、最近は暴力団体の隠れ蓑になっていたりすることがありますので、全部が全部、信用出来る団体とは限りませんのでご注意ください…。

(0C08_00237:Yahoo!知恵袋)

4.4 記述方法

本章では「トハカギリナイ」の共起しやすい表現に着目した分析を行うが、その記述方法については、太田(2005、2014)に倣い【一般論と可能性の関係】と【機能】に分けて、「トハカギリナイ」を記述する。

4.5 コーパスからみる「トハカギリナイ」の共起しやすい表現

本節では共起しやすい表現をもとに「トハカギリナイ」の意味を分類し、分析を行う。序論で本研究の立場を述べた通り、各表現の記述にあたって、共起しやすい表現が文中にある文のみを考察対象とする。例えば、例文(22)のような「トハカギリナイ」と共起する表現がないものについては考察対象から外し、「共起なし」としてまとめる。

(22) 生徒は本音を話すとは限らない。生活記録に本音を書くとは限らない。

(PB13_00443:出版・書籍)

そして、上述の方法で抽出した 300 例を共起しやすい表現をもとに分類した結果、①<不成立の可能性>、②<逆接の条件>、③<取り立て(限定・条件)>、④<極端(全体・必然・高頻度)>の 4 つの種類に分けられる。以下、各類の用例数を表 3 に示す。

表 3 分析した例文の内訳

| 共起する成分 | 共起しやすい表現 | 用例数(%) |
|---------------|---------------------------------|------------------------|
| 不成立の可能性 | 必ずしも | 63 (21%) ¹⁷ |
| 逆接の条件 | だからといって、とは言っても、であっても (+必ずしも) | 33 (11%) |
| 取り立て(限定・条件) | さえ、だけ、ばかり、ば、～場合 | 50 (16.7%) |
| 極端(全体・必然・高頻度) | すべて、完全に、必ず、常に、永遠に、 いつでも | 65 (21.7%) |
| その他 | | 37 (12.3%) |
| 共起なし | | 52 (17.3%) |
| 合計 | | 300 (100%) |

表 3 からわかるように、共起しやすい表現を伴う用例数は 300 例中の 211 例、全体の 70.3%に達している。つまり、「トハカギリナイ」の記述にあたって、抽出した例文のうち、70.3%をカバーする記述になりえる。

また、本章の考察対象としては分析しないが、「その他」と分類したものに何が含まれているのかについて、以下に例文を示す。

(23) このミキサー時間の計画については経験が必要で、皆様の作業状況も異なりますので一発で成功するとは限りません。作業ごとに室温と湿度のデータを取ることをおすすめします。

(LBq5_00057: 図書館・書籍)

¹⁷ <不成立の可能性>に分類される用例の中には、<逆接の条件>で使われているものは含まれていない。

- (24) 振替伝票は、一つの取引で1枚を書きます。一つの取引を借方、貸方に仕訳して、それぞれに記入する形式になっています。ただし、借方、貸方それぞれ一つの勘定科目とは限りません。二つ以上の科目が登場することもあります。

(PB13_00534: 出版・書籍)

続いて、4.5.1~4.5.4では、表2にまとめた4つの共起しやすい表現ごとにさらに検討する。

4.5.1 不成立の可能性

【共起しやすい表現】 必ずしも

【一般論と可能性の関係】

一般論と反する事態が存在する可能性がある

【機能】 話し手が一般論と反する事態が存在する可能性もあることを示唆する

まず、〈不成立の可能性〉について見ていく。この用法では話し手が「必ずしも+…トハカギラナイ」を用いることによって、一般論と反する事態が存在する可能性もあることを示唆する。以下、〈不成立の可能性〉の例を例文(25)~例文(27)に示す。

- (25) 第4に、利益額は必ずしも部門の経営努力を反映するとはかぎらないということがあげられる。突然の好景気・不況、急激な通貨価値の変動、一時的な流行とその終息といった外的要因が利益額を左右する。

(PB23_00615: 出版・書籍)

- (26) 彼らの得た結論は、複雑な巢構造をもつ種で必ずしも社会性があるとは限らないということであった。つまり社会性の進化と巢構造の進化は、基本的には別物とする考え方である。

(PB24_00299: 出版・書籍)

- (27) 看板のデカイ会社は必ずしもエライ人が部下の動きを掌握してるとは限らないし。行動や最終決定権を握ってる「ひとつ上の人」を指定するのが正解な時がほとんどさ。

(0Y14_31734: 特定目的・ブログ)

例文(25)では、「利益額は部門の経営努力を反映する」というのが一般論である。このような一般論、いわゆる内的要因に対して、「突然の好景気・不況」「急激な通貨価値の変動」「一時的な流行とその終息」といった外的要因が利益額に影響を与えることもあるというように、話し手は一般論と反する事態が存在する可能性もあることを示唆している。

例文(26)では、「複雑な巣構造を持つ種であるとすれば、それは社会性がある」というのが一般論である。このような一般論に対して、社会性の進化と巣構造の進化は基本的には別物とする考え方もあるというように、話し手は一般論と反する事態が存在する可能性もあることを示唆している。

例文(27)では、「エライ人が部下の動きを掌握している」というのが一般論である。このような一般論に対して、実際には「ひとつ上の人」は行動や最終決定権を握っていることが多いというように、話し手は一般論と反する事態が存在する可能性もあることを示唆している。

続いて、例文(25)～例文(27)における「一般論」と「一般論と反する事態が存在する可能性」を以下の(28)～(30)で再確認する。

(28) 利益額は部門の経営努力を反映する

➡突然の好景気・不況、急激な通貨価値の変動、一時的な流行とその終息と
といった外的要因が利益額に影響を与える可能性もある

(29) 複雑な巣構造をもつ種で社会性がある

➡社会性の進化と巣構造の進化は基本的には別物である可能性もある

(30) エライ人が部下の動きを掌握している

➡「ひとつ上の人」が部下の行動や最終決定権を握っている可能性もある

以上の点をまとめると、〈不成立の可能性〉は、話し手が一般論と反する事態が存在する可能性を認め、現実には一般論が成立しない可能性もあることを示唆するために、「トハカギリナイ」を用いて発言するわけである。つまり、話し手は「利益額が経営努力を反映することもある」、「複雑な巣構造をもつ種は社会性があることもある」、「エライ人が部下の動きを掌握することもある」といった一般論を認めてはいるが、これらの一般論と反する事態が存在する可能性を示唆するために、「必ずしも+…トハカギリナイ」を用いるわけである。よって、現実にはそれに反する状況が存在する可能性として、「利益額を左

右する外的要因もある」、「社会性の進化と巣構造の進化は、基本的には別物」、「行動や最終決定権を握っている『ひとつ上の人』もいる」といった事態を持ち出すことになる。

4.5.2 逆接の条件

【共起しやすい表現】 だからといって、とは言っても、であっても(+必ずしも)

【一般論と可能性の関係】

一般論と反する事態が存在する可能性がある

【機能】 話し手が一般論に対してそうとは言い切れないことを示唆する

<逆接の条件>は、「トハカギリナイ」を用いることによって、話し手が一般論に対し疑問を呈しつつ、一般論と反する事態が存在する可能性を示唆しているという点においては、先に述べた<不成立の可能性>と同じである。しかし、特に<逆接の条件>では、「だからといって」「とは言っても」「であっても」のような逆接の条件を表す表現とともに「トハカギリナイ」を用いることによって、話し手が一般論の成立を認めてはいるが、一般論に対してそうとは言い切れないことを示唆している。

一般論と共起しやすい表現の関係を詳しく考察すると、「前件+だからといって/とは言っても/であっても、後件+トハカギリナイ」という構造が見られることから、一般論は「前件」と「後件」が合わさったものであることがわかる。考察に入る前に、まず以下の作例を通して、「前件と後件が合わさった一般論」について説明する。

(31) 日本人と結婚したからといって、必ずしも日本語がうまくなるとは限らない。

一般論: 日本人と結婚したら、日本語がうまくなる

→前件: 日本人と結婚する

→後件: 日本語がうまくなる

例文(31)を見ると、話し手は一般論である「日本人と結婚したら、日本語がうまくなる」という可能性を認めているが、「だからといって」「とは言っても」「であっても」のような逆接の条件を表す表現を用いることで、前件にあたる「日本人と結婚すること」だけで、後件にあたる「日本語がうまくなること」は十分条件ではないことを表している。

さらに、ここでは、同じ<逆接の条件>でありながら、第3章で分析した「ワケデハナイ」と本章で分析する「トハカギラナイ」との違いに関して、もう少し検討していきたい。まず、両表現の最も異なる点として、「ワケデハナイ」は「実在事態から推論される事態を否定する」のに対し、「トハカギラナイ」は「一般論と反する事態が存在する可能性を示唆する」ことである。例えば、例文(31)に両表現の相違点を当てはめてみると、以下のようになる。

(32) 「ワケデハナイ」

「日本人と結婚する」という実在事態から、「日本語がうまくなる」という事態が推論されるが、このような推論事態に対してそうとは言い切れないことを示唆することで、想定される推論を否定する。

「トハカギラナイ」

「日本人と結婚したら、日本語がうまくなる」と一般的に認識されるが、一般論と反する事態である「日本人と結婚しても、日本語がうまくなならない」可能性もあることを示唆する

続いて、以下の例文(33)～例文(35)の<逆接の条件>について分析を行う。

(33) 感染しているかと思ったらホームページでチェック。目に見える被害がないからといって、感染していないとはかぎらない。パソコンが不調になるなど怪しいと思ったらホームページでウィルスチェックできるサービスを利用しよう。

(PM25_00223:出版・雑誌)

(34) いや、消印が世田谷だったからと言って、住まいがそことは限らない。住所や勤務先が特定されないように、わざと自宅に遠い場所で投函した可能性もある。

(LBm9_00186:図書館・書籍)

(35) 小学校二年生では、視聴時間が危険時間を超えていても必ずしも問題を生ずるとは限らない。しかし、手に負えない子は必ずこの中に含まれる。

(PB53_00529:出版・書籍)

例文(33)では、「目に見える被害がないから、パソコンがウイルスに感染していない」というのが一般論である。しかし、すでにパソコンにウイルスが感染している可能性もある。そのため、話し手は一般論と反する事態が存在する可能性を根拠に、このような一般論に対してそうとは言い切れないことを示唆している。

例文(34)では、「郵便物に押されている消印が世田谷区だったから、住まいもそこにある」というのが一般論である。しかし、わざと自宅から遠い場所で投函した可能性もある。そのため、話し手は一般論と反する事態が存在する可能性を根拠に、このような一般論に対してそうとは言い切れないことを示唆している。

例文(35)では、「小学校二年生は視聴時間が危険時間を超えると、問題が生ずる」というのが一般論である。しかし、視聴時間が危険時間を超えていても、問題が生じない可能性もある。そのため、話し手は一般論と反する事態が存在する可能性を根拠に、このような一般論に対してそうとは言い切れないことを示唆している。

続いて、例文(33)～例文(35)における「一般論」と「一般論と反する事態が存在する可能性があることを否認しないこと」を以下の(36)～(38)で再確認する。

- (36) 目に見える被害がない=感染していない
 - ➡目に見えない被害が内部で起こっている可能性もある
- (37) 消印が世田谷=住まいも世田谷
 - ➡わざと自宅から遠い場所で投函した可能性もある
- (38) 視聴時間が危険時間を超えている=問題が生ずる
 - ➡視聴時間が危険時間を超えても、問題が生じない可能性もある

以上の点をまとめると、〈逆接の条件〉は「必ずしも+…トハカギリナイ」を用いることで、話し手が一般論については認めた上で、現実にはそれに反する状況が存在する可能性を指摘しているということは、先述の〈不成立の可能性〉と同様である。しかし、特に〈不成立の可能性〉は「必ずしも+…トハカギリナイ」を用いることで「一般論と反する事態が存在する可能性」について示唆するのに留まるのに対し、〈逆接の条件〉は一般論に対し「逆接の条件を表す表現+(必ずしも)…トハカギリナイ」を用いることで、「そうは言い切れない」ことを示唆している。なお、「だからといって」のような「聞き手の中に成立している可能性がある」と話し手が仮定している因果関係の知識を否定する(馬場 2016:9-10)表現

を用いることによって、話し手の考えや主張をより強く訴えることができると考えられる。

4.5.3 取り立て(限定・条件)

【共起しやすい表現】 さえ、だけ、ばかり、ば、～場合

【一般論と可能性の関係】

一般論と反する事態が存在する可能性がある

【機能】 話し手が一般論に対してそれと異なる自分の主張を持ち出す

〈取り立て(限定・条件)〉は、話し手が「さえ」「だけ」「ばかり」「ば」「場合」によって限定される一般論を取り立て、それらの一般論を踏まえた上で、自分の主張を表明することを表す。ここでは、まず共起しやすい表現が「トハカギリナイ」とどのように関係しているのかを述べる。「さえ」「だけ」「ばかり」「ば」「場合」のような限定や条件を表す表現は、「トハカギリナイ」と共起することによって、一般論以外の事柄を想起させる働きをしている。つまり、ここでは、一般論のようにならない可能性があることに言及するために、「トハカギリナイ」を用いる必要性が生まれるのだと考えられる。以下、〈取り立て(限定・条件)〉の例を例文(39)～例文(41)に示す。

(39) よい児童生徒が集まる学校がよい学校であって、公立の場合、よい学校により教師が集まっているとは限りません。 教師の人事はたいてい教委主導のローテーション人事で、教師が希望して異動できるわけではない。また、校長に完全に人事権があるわけでもない。教委が各学校をなるべく平準化するように、玉石混交の教師たちをばら撒くのです。

(PB53_00170:出版・書籍)

(40) 歯に着色する物は食べ物だけとは限りません。 むしろ食べ物の色素よりも圧倒的に口腔乾燥による物が多いと考えて下さい。

(0C09_10551:特定目的・知恵袋)

(41) パソコンの電源を入れてもまもなくウイルス攻撃が頻繁にアタックしてきます。ひどい時はワードもできないです。今のところ幸いノートンがブロックして****が進入をしようとしています。遮断という表示がでてそこでo kをおした

り次に表示しないのにチェックをつけて ok をおして回避している状態です。なにかアタックをさせない方法はありませんか。お願いします。それは、すでに感染してるのじゃない？ 貴方のデータを盗んで送信しようとしてるのかも知れません。 ウイルスは、何も外からばかりとは限りませんよ。

(0C02_00492:特定目的・知恵袋)

例文(39)では、「よい学校にはより教師が集まっている」というのが一般論である。話し手はこの一般論を認めた上で、「よい学校にはよい教師が集まっていない可能性がある」ことを主張している。まず、話し手は前件において「…場合」という前提条件を用いることで、後件において、何かが確実に起こることを聞き手に予想させる。しかし、実際には公立は私立とは異なり、教員人事を主導するのは教育委員会である、別の要因によって、現実には一般論が成立しない可能性もあることに言及するために、「トハカギリナイ」を用いる必要性が生まれるのだと考えられる。

例文(40)では、「食べ物の色素によって歯に着色される」というのが一般論である。話し手はこの一般論を認めた上で、「歯に着色する原因として口腔乾燥というものがある」ことを主張している。まず、話し手は前件において「…だけ」という前提条件を用いることで、後件において、何かが確実に起こることを聞き手に予想させる。しかし、実際には「歯に着色するものは口腔乾燥による物もあるし、それに、より歯に着色しやすい」など、別の要因によって、現実には一般論が成立しない可能性もあることに言及するために、「トハカギリナイ」を用いる必要性が生まれるのだと考えられる。

例文(41)では、「ウイルスは外から攻撃してくる」というのが一般論である。話し手はこの一般論を認めた上で、「すでにウイルスに感染しており、プログラムの内部から攻撃をされている」ことを主張している。まず、話し手は前件において「…ばかり」という前提条件を用いることで、後件において、何かが確実に起こることを聞き手に予想させる。しかし、実際には現実には一般論が成立しない可能性もあることに言及するために、「トハカギリナイ」を用いる必要性が生まれるのだと考えられる。

続いて、例文(39)～例文(41)における「一般論」と「話し手の主張」を以下の(42)～(44)で再確認する。

- (42) よい学校にはよい教師が集まっている
 ➡公立は私立とは異なり、よい学校にはよい教師が集まっていない
- (43) 歯に着色する原因は食べ物の色素である
 ➡歯に着色する物は食べ物の色素だけではなく、口腔乾燥による物もある
- (44) ウイルスは外から攻撃してくる
 ➡外から攻撃してくるウイルスだけではなく、すでに感染したパソコンの内部から攻撃してくるウイルスもある

以上の点をまとめると、〈取り立て(限定・条件)〉では、話し手が一般論を認めてはいるが、それと異なる自分の主張をより確かなものにするため、「…さえ/だけ/ばかり/ば/〜場合…トハカギリナイ」を用いるわけである。

最後に、〈取り立て(限定・条件)〉と、〈不成立の可能性〉や〈逆接の条件〉との違いに関して、さらに検討する。〈取り立て(限定・条件)〉は、話し手は一般論を認めた上で、「さえ」「だけ」「ばかり」「ば」「場合」のような限定や条件を表す表現を用いることで、一般論以外の事柄を想起させている。一方で、〈不成立の可能性〉と〈逆接の条件〉では共通する共起しやすい表現として「必ずしも」があるが、〈逆接の条件〉は「前件+だからといって/とは言っても/であっても、(必ずしも)後件+トハカギリナイ」を用いることで、一般論についてそうは言い切れないことを示唆するのに対して、〈不成立の可能性〉は「必ずしも…トハカギリナイ」を用いることで、「一般論と反する事態が存在する可能性」を示唆するに留まる。

4.5.4 極端(全体・必然・高頻度)

| |
|---|
| <p>【共起しやすい表現】すべて、完全に、必ず、常に、永遠に、いつでも</p> <p>【一般論と可能性の関係】一般論の一部が正しくない</p> <p>【機能】話し手が一般論の一部の不適切さを示唆する</p> |
|---|

〈極端(全体・必然・高頻度)〉では、全体を意味する「すべて」、「完全に」、必然を意味する「必ず」、高頻度を意味する「常に」、「永遠に」、「いつでも」といった語のみを話し手は否定している。つまり、一般論の一部のみを否定しているということである。このような表現と共起する文は、解釈に曖昧性がある。以下、〈極端(全体・必然・高頻度)〉の

例を例文(45)～例文(47)に示す。

(45) 女官と命婦が全く同一のものを指すとは限らないが、本行事における命婦とは自身が五位以上を帯する内命婦であり、男官に対する女官であると考えられるので、補任帳の様式は同様であろう。

(=(15))

(46) 人は常に変わります。ゆっくり、でも確かに。貴方の好きな事もこの先ずっと好きとは限りません。嫌いなものを好きになってた・・・そういうことも私にはあります。

(0C09_10155: 特定目的・知恵袋)

(47) しかし、この独占状態は永遠に続くとは限らない。営業条件が有利なうちに、経営ノウハウを蓄積し、力をつけることだ。

(PB26_00090: 出版・書籍)

例文(45)では、「女官と命婦が全く同一のものを指す」というのが一般論である。しかし、一般論は成立しないのが普通である。なぜならば、女官も命婦も位階を有するが、それぞれ示すものは違うためである。よって、話し手は「女官と命婦が全く同一のものを指す」という一般論の不適切さを「トハカギリナイ」を用いることで示唆している。なお、話し手が一般論の一部、つまり文中における「全く」のみを否定することになるため、一般論の成立の可能性が完全に否定されていない。つまり、現実では「女官と命婦が全く同一のものを指さないこともある」ということは、「女官と命婦が全く別のものを指す」と「女官と命婦が一部は同じである」のような曖昧性がある解釈が可能になる。

例文(46)では、「貴方の好きな事もこの先ずっと好き」というのが一般論である。しかし、一般論は成立しないのが普通である。なぜならば、「人は常に変わる」ためである。よって、話し手は「貴方の好きな事もこの先ずっと好き」という一般論の不適切さを「トハカギリナイ」を用いることで示唆している。なお、話し手が一般論の一部、つまり文中における「ずっと」のみを否定することになるため、一般論の成立の可能性が完全に否定されていない。つまり、現実では「貴方の好きな事もこの先ずっとは好きではないこともある」ということは、「この先好きではなくなる」と「この先も好きでいられる」のような曖昧性がある解釈が可能になる。

例文(47)では、「独占状態は永遠に続くといい」というのが一般論である。しかし、一般論は成立しないのが普通である。なぜならば、「独占状態はいつか終わるときが来る」ためである。よって、話し手は「独占状態は永遠に続く」という一般論の不適切さを「トハカギラナイ」を用いることで示唆している。なお、話し手が一般論の一部、つまり文中における「永遠に」のみを否定することになるため、一般論の成立の可能性が完全に否定されていない。つまり、現実では「この独占状態は永遠には続かないこともある」ということは、「この独占状態は永遠には続かない」と「この独占状態は続くが、永遠ではない」のような曖昧性がある解釈が可能になる。

続いて、例文(45)～例文(47)における「一般論」、「話し手の主張を裏付ける根拠」、「曖昧性がある解釈」を以下の(48)～(50)で再確認する。

- (48) 女官と命婦が全く同一のものを指す
 - ➡女官も命婦も位階を有するが、本質的には違う
 - ⇔全く同一のものを指すこともあるが、指さないこともある
- (49) 貴方の好きな事もこの先ずっと好き
 - ➡人は常に変わる
 - ⇔ずっと気持ちが変わらないこともあるが、気持ちに変化することもある
- (50) 独占状態は永遠に続く
 - ➡独占状態はいつか終わるときが来る
 - ⇔永遠に続くこともあるが、続かないこともある

以上の点をまとめると、〈極端(全体・必然・高頻度)〉は、話し手は全体を意味する語「すべて」、「完全に」、必然を意味する語「必ず」、高頻度を意味する語「常に」、「永遠に」、「いつでも」のような極端を表す表現を否定することによって、一般論の不適切さを示唆している。

4.6 本章のまとめ

先行研究において、「トハカギラナイ」は「いつも正しいとは言えない」と「例外もある」、また「可能性を述べる」、といった観点から意味記述がなされてきたことは大変重要な指摘であるが、学習者にとって抽象的な意味記述から適切な使用や使い分けに繋げること

は困難である。そのため、本章では、共起しやすい表現を伴う例文のみを考察対象とし、コーパスから抽出した例文に基づいて、「トハカギリナイ」の各用法において共起しやすい表現について記述を行った。

記述にあたっては、【一般論と可能性の関係】と【機能】といった見方で「トハカギリナイ」を考察した。その結果、4.5.1～4.5.4で示した通り、「トハカギリナイ」には4つの共起しやすい表現があり、それぞれ【一般論と可能性の関係】と【機能】において異なる特徴があることが明らかとなった。以下に本章で明らかになったことをまとめる。

不成立の可能性

【共起しやすい表現】 必ずしも

【一般論と可能性の関係】

一般論と反する事態が存在する可能性がある

【機能】 話し手が一般論と反する事態が存在する可能性もあることを示唆する

逆接の条件

【共起しやすい表現】 だからといって、とは言っても、であっても(+必ずしも)

【一般論と可能性の関係】

一般論と反する事態が存在する可能性がある

【機能】 話し手が一般論に対してそうとは言い切れないことを示唆する

取り立て(限定・条件)

【共起しやすい表現】 さえ、だけ、ばかり、ば、～場合

【一般論と可能性の関係】

一般論と反する事態が存在する可能性がある

【機能】 話し手が一般論に対してそれと異なる自分の主張を持ち出す

極端(全体・必然・高頻度)

【共起しやすい表現】 すべて、完全に、必ず、常に、永遠に、いつでも

【一般論と可能性の関係】 一般論の一部が正しくない

【機能】 話し手が一般論の一部の不適切さを示唆する

また、これら4つの「トハカギリナイ」と共起しやすい表現をまとめると、図1のようになる。

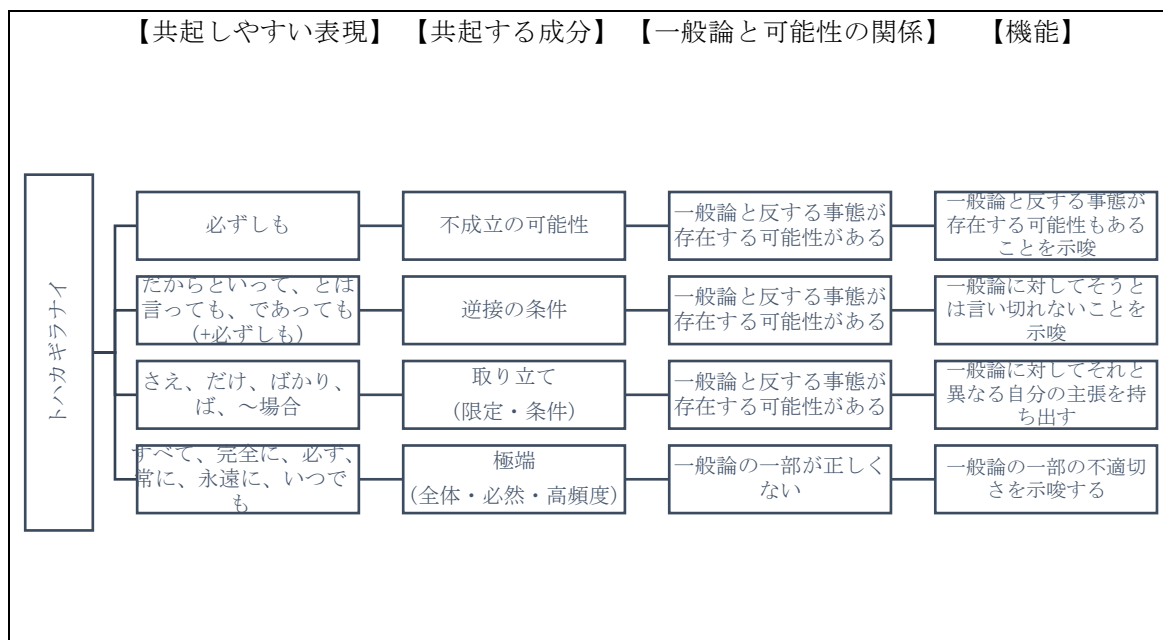


図1 「トハカギリナイ」の共起しやすい表現による分類図

図1は「トハカギリナイ」がいかなる表現と共起しやすいのかを明示しており、学習者が部分否定を表す表現である「トハカギリナイ」を理解する際の手がかりになるだろう。また、先行研究や文法概説書の説明と合わせて、具体的な情報を含むこの図を提示することが、教育現場により役立つ文法説明となると考える。

第5章 「ノデハナイ」

本章では「ノデハナイ」の分析を行う。本研究では「ノデハナイ」を部分否定の表現として見なしているが、他の2つの考察対象とする「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」のように、呼応関係にある副詞がないため、「ノデハナイ」は典型的な部分否定表現とは言えないと考えられる。

まず、コーパス調査によって、「ノデハナイ」がどのような要素を否定するのかを明らかにする。次に、「ノデハナイ」によって否定される要素を分類し、各要素について分析していく。

5.1 はじめに

従来、「ノデハナイ」に関する先行研究や文法解説書では、「どの部分が否定の焦点になっているかによって、全部否定や部分否定といった意味が変わってくる」、「不適切な判断を訂正する」という記述がなされてきた。先行研究や文法解説書での「ノデハナイ」の意味記述は、寺村(1979)、久野(1983)、田野村(2002)、工藤(1996、1997)、庵・高梨・中西・山田(2001)、泉原(2007)、田中(2010)などが挙げられる。例えば、久野(1983)と工藤(1997)では、「ノデハナイ」の意味を次のように記述している。提示されている例文とともに、(1)と(2)に示す。

- (1) 否定辞「ナイ」の否定の範囲は、それが附加されている動詞・形容詞・「名詞/形容動詞+ダ」に限られる。その範囲の外にある要素を否定したいときには、ノデハナイを使用する。

A. 君は終戦の年に生まれたのか。

B. いや、終戦の年に生まれたのではない。(*終戦の年に生まれなかった)

(久野 1983:127、128)

- (2) 基本的に、話し手の立場からの不適切な判断の訂正の機能を果たす。

A. 「貴女ですか、犬をおもらいになったのは」

B. 「もらったのではありません。2か月ほどお預かりいたしました。」

(工藤 1996:3-5)

(1)については、久野(1983:128)によると、「(B)文全体に「ノ」を附加して名詞化し、それにコピュラ「ダ」を附加して、そのコピュラに否定辞を加えた形式である。日本語のコピュラは独立性が全くなく、先行する要素と結合して、初めて独立形式を形成する、従って、「X デハナイ」の「ナイ」は、「X」をそのスコープ下に入れる」とされている。(2)については、工藤(1996:4)で「先行発話(犬をおもらいになった)を直接うけて、その言語表現の適切性を否定する」と説明されている。

また、文法解説書では上記で取り上げた先行研究と似たような記述がされている。こうした意味記述を行っている先行研究として、庵・高梨・中西・山田(2001)と泉原(2007)が挙げられる。例えば、庵・高梨・中西・山田(2001)では、「ノデハナイ」の意味を次のように記述している。提示されている例文とともに、(3)に示す。

- (3) 文全体が正しくないというのではなく、文の一部が正しくないことを示すときに使われる。「～のではない」の文で否定の対象となる部分(焦点)は普通は補語であるが、文が必須補語だけから構成されている場合には述語になることもある。

私はこのカメラを新宿で買ったのではない。

(庵・高梨・中西・山田 2001:302-303)

(3)については、庵・高梨・中西・山田(2001:303)によると、「私がこのカメラを買った」ということは正しいが、その場所は「新宿」ではないということを表すために使われる」とされている。

以上の(1)～(3)を見ると、同じ「ノデハナイ」に対して、「スコープの外にある要素を否定する」、「不適切な判断を訂正する」、または「文の一部が正しくないことを示す」といった記述がされており、先行研究や文法解説書によって意味記述が異なることが確認できる。

以上を踏まえて、本章では学習者の理解が促進されることを目的とし、コーパスから抽出したデータに基づいて、部分否定を表す「ノデハナイ」について、日本語学と日本語教育の橋渡しとして一定の役割を果たした庵・高梨・中西・山田(2001)を手掛かりにし、どの部分が否定の焦点になりやすいかを記述する。

5.2 先行研究と文法解説書からみる「ノデハナイ」

5.2.1 先行研究と文法解説書の記述

先行研究と文法解説書における「ノデハナイ」の例文と意味記述を順に見ていく。まず、寺村(1979)、久野(1983)、田野村(2002)、工藤(1996、1997)、庵・高梨・中西・山田(2001)、泉原(2007)、田中(2010)で取り上げられている例文を以下に示す。

- (4) キノウは電話シナクテスママセン
忘レテイタノデハナイノデスガ……(⇨ワスレテイタノデス)
(寺村 1979:58)
- (5) 君は終戦の年に生まれたのか。
いや、終戦の年に生まれたのではない。(※終戦の年に生まれなかった)
(久野 1983:128)
- (6) ①家を買ったんですか？
いいえ、家を買ったんじゃないありません。土地を買ったんです。
②家を買ったんですか？
いいえ、買ったんじゃないありません。売ったんです。
(田野村 2002:83)
- (7) ①彼の心にも中年の分別がある。ゆるしてくれ、と俊子の前に頭を下げた時、蒼ぶくれた頬に涙が流れた。ふと、俊子の心が傾いた。許したのではない。すさんだ生活の中で、張りつめていた意地が、ポキリと折れたのだ。
②「貴女ですか、犬をおもらいになったのは」
「もらったではありません。2か月ほどお預かりいたしました。」
(工藤 1996:3-5)
- (8) ①「ああ、明日は駄目だわ。逃げているんじゃないのよ。今夜の予定を明日に回していたの。明後日なら大丈夫。7時に帰るわ」
②「みつかったのか」
「みつかったんじゃない。みつけたんだ。ウィーン音楽大学に留学している十何人かの学生たちがね。……」
(工藤 1997:79、81)

(9) 私はこのカメラを新宿で買ったのではない。

(庵・高梨・中西・山田 2001:303)

(10) すべての患者が何でも食べる+んじゃない+ので、あらかじめ好き嫌いを調べておくようにね。

(泉原 2007:1056)

(11) スラッガーは本塁打によって強さを増すのではない。おそらく三振の数を抱えた思いが、自らを磨くのだろう。

(田中 2010:428)

続いて、先行研究や文法解説書における意味記述を見ていく。まず、寺村(1979)、久野(1983)、田野村(2002)、工藤(1996、1997)、庵・高梨・中西・山田(2001)、泉原(2007)、田中(2010)における意味記述を表1にまとめる。

表1 先行研究と文法解説書における「ノデハナイ」の意味記述

| 先行研究 | 意味記述 |
|--------------------------|---|
| 寺村(1979:58) | ～ノデハナイは、ある事実 A を、説明・解説である B と結びつける考え自体を否定する表現である。ムードの否定である。 |
| 久野(1983:127) | 否定辞「ナイ」の否定のスコープは、それが附加されている動詞・形容詞・「名詞/形容動詞+ダ」に限られる。そのスコープの外にある要素を否定したいときには、ノデハナイである。 |
| 田野村(2002:82、83) | あることがら α を受け、それは β ということではない、その背後にある事情は β ということではないと述べたり、問題となっている実情は β ということではないと述べたりするのに用いられる。 「 β のではない」という発言には、それに続いて(場合によっては、それに先立って)、不適当な β に代わるべき β' が「 β' のだ」の形で示されることが多い。 |
| 工藤(1996:5、18) | 基本的に、話し手の立場からの不適切な判断の訂正の機能を果たす。 ①先行文 P に対して、Q ノデハナイと言う場合 ②先行文 P に対して、P ノデハナイと言う場合 先行文(P)をうけて、その説明(背景的事実説明・帰結説明)としての Q の不適切性、あるいは P という言語表現自体の不適切性を示す意味と機能をもっている。 |
| 工藤(1997:98) | ノデハナイは、「ディスコース世界」における先行文との関係を問題とする。「説明の否定」では、先行文の内容に対する説明の正しさ(適切さ)を否定し、「言葉づかひの否定(メタ言語的否定)」では、先行文における言語形式の選択の適切さが否定される。ディスコース世界の問題であれば、否定されたものに代わるべきものが提示されるかたちで、訂正的機能を果たす。 |
| 庵・高梨・中西・山田(2001:302-303) | 文全体が正しくないというのではなく、文の一部が正しくないということを示すときに使われる。「～のではない」の文で否定の対象となる部分(焦点)は普通は補語であるが、文が必須補語だけから構成されている場合には述語になることもある。 |
| 泉原(2007:1057) | A+X+のではない X=話し手が引用した他者の言葉や考え A を否定するが、X は肯定する X を否定すると、全部否定を表す X を部分否定する「必ずしも」とは呼応しない 文中にも使うことができる X の状況を表すのに人称制限はない |
| 田中(2010:427、428) | 「のではない」の修正、言い替えの用法は、主として言い切りの文末形式としてあらわれる。前文が中止の形になっても、言い替えや主張の選択を表すことには変わりはない。 |

これらの記述を「P と Q の関係」、「Q の不相当性や不適切性」、「否定される要素」という3つの点に注目してまとめ直した結果を、以下の表2に示す。3つの点以外の重要な指摘は、「その他」としてまとめた。また、「P と Q の関係」については、すべての先行研究と文法解説書が「P と Q」を使っているわけではないため、それぞれ「ある事実・あることがら・先行文」を P と呼び、「説明や解説・背後にある事情・説明(背景的事事情説明・帰結説明)」を Q と呼ぶことにする。その上で、先行研究と文法解説書の記述において、それらにあたるものをすべて P と Q に統一して、表2にまとめる。

表2 先行研究と文法解説書における「ノデハナイ」の意味記述のまとめ

| | 意味記述 |
|------------------|--|
| P と Q の関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・寺村(1979) 「P」を「Q」と結びつける考え自体を否定する ・田野村(2002) 「P」を受け、それは「Q」ということではない ・工藤(1996) 「P」をうけて、「Q」の不適切性を示す |
| Q の不相当性や不適切性 | <ul style="list-style-type: none"> ・田野村(2002) 「不適当な B」 ・工藤(1996, 1997) 「説明(背景的事事情説明・帰結説明)としての Q の不適切性」 「Q という言語表現自体の不適切性」 ・庵・高梨・中西・山田、田中(2001) 「文の一部が正しくないということを示す」 |
| 否定される要素 | <ul style="list-style-type: none"> ・久野(1983) 動詞・形容詞・「名詞/形容動詞+ダ」 ・庵・高梨・中西・山田、田中(2001) 普通は補語であるが、文が必須補語だけから構成されている場合には述語になることもある |
| その他 (部分否定、呼応) | <ul style="list-style-type: none"> ・庵・高梨・中西・山田、田中(2001) 全部否定ではなく、部分否定に使われる ・泉原(2007) 「A を否定するが、X は肯定する」 「X を否定すると、全部否定を表す」 「X を部分否定する「必ずしも」とは呼応しない」 |

5.2.2 先行研究と文法解説書の問題点

以下では、「先行文¹⁸の不在」、「『ノデハナイ』によって否定される要素」、といった2つの観点から先行研究と文法解説書における意味記述の問題点を指摘する。

5.2.2.1 先行文の存在について

これまで見た先行研究や文法解説書における意味記述から、「ノデハナイ」は先行文に対して、不適切な判断への訂正的機能を果たすものとして捉えられる。確かに、先行研究で取り上げられる例文はそのような用法の存在を裏付けるように見える。

- (12) ……ノアはユルバン氏に向かってしきりに手を振っております。 ああ、いいえ、呼んでいるのではないのです。 来るなどいっているのであります。

(工藤 1997:79)

例文(12)における先行文 P、不適切な判断 Q、適切な説明 R(以下、それぞれ P、Q、R がそれぞれ何を指しているのかについて、以下に示す。

- (13) P: ノアはユルバン氏に向かってしきりに手を振っております

Q: ノアはユルバン氏を呼んでいる

R: ノアはユルバン氏に来るなどいっている

例文(12)は「ノアはユルバン氏に向かってしきりに手を振っている」という先行文 P に対して、不適切な判断 Q(=「ノアはユルバン氏を呼んでいる」)を訂正する、適切な説明 R(=「ノアはユルバン氏に来るなどいっている」)が示されている。

また、例文(14)と例文(15)のような、先行文 P が言語化されていない例文も少なくない。

¹⁸ ここでいう「先行文」については工藤(1997、1998)が指摘したものであるが、先行研究によってこの「先行文」にあたるものに対する呼び方も異なる。例えば、寺村(1979)は「ある事実」、田野村(2002)は「あることがら」として取り上げている。本研究は記述の便宜上、P にあたる「先行文」、「ある事実」、「あることがら」、また、言語化されていないものをすべて「先行文」と呼ぶこととする。

(14) 制服のスカートはなぜ短くしてはいけないのですか？

まずは校則。何故校則が出来たのか…そこまで短くされるとみっともないから。長くされてもみっともないから。個性を許すと後々大変だから。社会に出てから個性は出すべき。学生は学ぶために来るのであって恋人を作るために学校へ来るのではない。とは言ってもさ、少しは校則も時代に乗って欲しいよね……。

(OC12_00035:特定目的・知恵袋)

(15) 人形や紙芝居を通じて空想力をいまくのではなく、身近な自分を苦しめる事実を追われて空想を描くのだから、この空想力には現実感を生み出す力があるように思える。

(LBr3_00014:図書館・書籍)

例文(14)は先行文が明示されていないが、「制服のスカートが短い」という先行談話が「背後の事情」として存在し、「スカートを短くする→異性にアプローチする」というような推論が共有されているからこそ、この文が成立しているのだと思われる。例文(15)も同じく、先行文が明示されていないケースである。例文(15)では「空想力には現実感を生み出すような力がある」ということに対して、それは「人形や紙芝居を通じて空想力をいまく」ことによるものではなく、「身近な自分を苦しめる事実を追われて空想を描く」ことによるものだと説明しているのだと思われる。

以上を踏まえて、例文(14)と例文(15)における言語化されていない先行文 P、不適切な判断 Q と適切な説明の R がそれぞれ何を指しているのかについて、以下に示す。

(16) P:制服のスカートが短い

Q:恋人を作るために学校へ来る

R:学ぶために学校へ来る

(17) P:空想力には現実感を生み出すような力がある

Q:人形や紙芝居を通じて空想力をいまく

R:身近な自分を苦しめる事実を追われて空想を描く

以上のことから見ると、例文(12)のような、先行文が文中に明らかにされているものもあれば、例文(14)と例文(15)のような、先行文が明示的でなくても、先行談話に先行

文にあたる語句が現れているものもある。よって、「ノデハナイ」の記述を行うにあたっては、文中に言語化されていない「先行文」を検討する必要があると思われる。

5.2.2.2 「ノデハナイ」によって否定される要素について

第3章「ワケデハナイ」と第4章「トハカギラナイ」の考察では、両表現は副詞の「必ずしも」との共起が特徴的であることを述べた。しかし、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」と同じように、「ノデハナイ」は部分否定の表現と見なされるものの、呼応関係にある副詞がないことから、「ノデハナイ」は典型的な部分否定表現とは言えないと考えられる。実際にコーパスを検索すると、「ノデハナイ」は典型的な部分否定表現ではないが、「副詞」は否定される要素として現れる。また、「副詞」に限らず、文のある要素が否定されていることもある。よって、「ノデハナイ」については、「呼応関係にある副詞」に着目するのではなく、「否定される要素」に着目して分析することとする。

従来の先行研究や文法解説書では「ノデハナイ」について重要な指摘がなされているが、それらは「ノデハナイ」が使用される文脈を捨象した中で記述されてきたと考えられる。日本語学習者にとって、「ノデハナイ」がどのように用いられるのかという情報は、理解・産出のための手がかりとして欠かせないものであると言える。そのため、本章ではどのような要素が「ワケデハナイ」によって否定されやすいのかについて、〈副詞〉を含めて、〈必須格〉、〈必須格以外の格成分〉、〈複合格助詞を含む成分〉に注目して「ノデハナイ」の分析を行う。

5.3 使用コーパスと考察対象

分析対象の抽出は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス(データバージョン 1.1)』の全データを対象にして、コーパス検索アプリケーション「中納言」を用いて検索を行った。検索に際しては、書き言葉と話し言葉の特徴を考慮し、「デハ」「ジャ」の両方を調査に用いるキーワードとした上で、長単位として検索した結果、34283例が抽出された。

そして、抽出された例の中から、「部分否定」を表す「ノデハナイ」と形式的、意味的に異なるものを除外して、考察対象とした。除外したものは、以下の例文(18)のような「…のではないかと+思う/…んじゃないかと+思う」と例文(19)のようなクエスチョンマーク「？」が附加する「…のではない？/…んじゃない？」である。

- (18) 陸上だけでなく他のスポーツでもいけるんじゃないかと思います。野球やサッカーなど球技は無理だけど、フットサルや卓球、バドミントンなど室内でできるスポーツは出来ると思います。

(0Y11_08804:特定目的・ブログ)

- (19) 「オルフェウス伝説に似た話って、あちこちにあるんじゃない?伊邪那岐命も、妻を取り戻したものの振り返ったばかりに、美しい妻がウジ虫まみれになってしまうんでしょ?あと一歩というところなのに、失敗してしまう」 安部渡は私の声を制して言う。

(PB39_00481:出版・書籍)

このような例文は考察対象外とし、目視で26235例を取り除いた。除外した26235例はすべて疑問表現の形式を有するものである。さらに、残りの8048例をRAND関数でランダムに並べ替えることによって、考察対象とする300例を抽出した。

続いて、「ノデハナイ」について、文末に現れる場合と文中に現れる場合に分けて説明する。文末に現れる場合には、「のでは/んじゃない(です)。」「のでは/んじゃないありません(でした)。」「のでは/じゃなかった(です)。」などがある。そして、文中に現れる場合には、「のでは/じゃなく、…」「のでは/んじゃないと思います」などがある。例えば、文末に現れる場合が例文(20)、文中に現れる場合が例文(21)のようなものである。

- (20) 「まアー、ご自分の言いたいことばかりおっしゃって!! 私そんな心算で言ったんじゃないわ。私…言いたいけど、どうせあなたの御機嫌を悪くするんだから、もう言いません。この前のはごめんなさい。あなたのお気持ちよくわかってますから私を見捨てないで!!」

(PB29_00414:出版・書籍)

- (21) 「パソコンなんてクソ食らえ!」と叫ぶ人たちの頭には、そうした「道具に支配されてしまった」組織や社会への不信感と絶望感が満ち満ちている。しかしそれは、パソコンが悪いのではなく、パソコンに使われている人間が悪いのである。

(LBn8_00004:図書館・書籍)

5.4 記述方法

第3章「ワケデハナイ」と第4章「トハカギラナイ」の記述を行った際には、「副詞」、「数詞・数量詞」、「接続詞」のような表現との共起に着目し分析した。それに対して、本章では典型的な部分否定表現ではない「ノデハナイ」を分析するため、「ノデハナイ」を用いることで何が否定されるかを記述する。

5.2.2.2 で述べたように、先行研究では「ノデハナイ」により否定される要素に関しては言及されるに留まっているため、その全体像は明らかにされていない。そのため、本章では部分否定を表す「ノデハナイ」の記述を行うため、庵・高梨・中西・山田（2001:303）が指摘した「否定の対象となる部分(焦点)は普通は補語である」ことを踏まえて、「ノデハナイ」によって否定される要素として〈必須格〉、〈必須格以外の格成分〉、〈複合格助詞を含む成分〉を考察する。また、副詞が否定されている例文があるため、副詞とそれに準ずるものを〈副詞〉として考察する。〈副詞〉に含まれるのは、「ただ」「単に」のような一部にあたるもの、「全部」「まったく」のような全体を意味するものである。以下、否定される要素が〈必須格〉、〈必須格以外の格成分〉、〈複合格助詞を含む成分〉、〈副詞〉である。それぞれの例文を以下に示す。

〈必須格〉

(22) 「パソコンなんてクソ食らえ！」と叫ぶ人たちの頭には、そうした「道具に支配されてしまった」組織や社会への不信感と絶望感が満ち満ちている。しかしそれは、パソコンが悪いのではなく、パソコンに使われている人間が悪いのである。

(LBn8_00004:図書館・書籍)

〈必須格以外の格成分〉

(23) 「躰」って親が子供に対して必死になる気持ちも分かるけど、子供達の立場からして恐怖や暴力と感じるものは「虐待」になると思います。痛みで社会のルールを教え込むのではなくて どうしてダメなのか分かるまで時間が掛かってもいいからその子の目線やペースに合わせて導く事が躰だと思えます。

(OC10_03120:特定目的・知恵袋)

〈複合格助詞を含む成分〉

(24) 人形や紙芝居を通じて空想力をいただくのではなく、身近な自分を苦しめる事実
に追われて空想を描くことから、この空想力には現実感を生み出す力があるよ
うに思える。

(=(15))

〈副詞〉

(25) 今や核兵器の廃絶は究極の目標から現実の日程となりつつあることを認識し、
核抑止力に依存する政策から脱却を図るべきであります。このことを単に米ソ
両国に任せるのではなく、我が国が積極的、主体的に努力すべきであります。

(OM37_00001:特定目的・国会会議録)

5.5 コーパスからみる「ノデハナイ」によって否定される要素

部分否定の「ノデハナイ」で否定される要素と各類の用例数を表 3 に示す。5.3 で述べた
ように、本節はコーパスから抽出したデータを RAND 関数でランダムに並べ替えた 300 例
を考察対象とする。

表 3 分析した例文の内訳

| 否定される成分 | 否定される要素 | 用例数 |
|--------------|------------------------|------------|
| 〈必須格〉 | ～が、～を、～に | 46 (15.3%) |
| 〈必須格以外の格成分〉 | ～で、～から、～へ | 67 (22.3%) |
| 〈複合格助詞を含む成分〉 | ～を通じて、～に応じて、～ために、～のせいで | 41 (13.7%) |
| 〈副詞〉 | のみ、単に、全部、まったく | 72 (24%) |
| その他 | | 74 (24.7%) |
| 合計 | | 300 (100%) |

表 3 からわかるように、「その他」に分類する 74 例を除いて、「ノデハナイ」で否定され
やすい要素を含む用例数は 300 例中の 226 例、全体の 75.3%に達している。つまり、「部
分否定」を表す「ノデハナイ」の記述にあたって、抽出した例文のうち、75.3%をカバーす
る記述になりえる。「その他」としたのは、次の(26)のような例文が含まれる。

(26) 「人間の考えうる最も面白い室内遊戯」としてのマージャンが廃れたのではない¹⁹。日本の社会的環境によるものである。その証拠に、香港、台湾をはじめ東南アジアでは決して凋落傾向ではない。むしろ隆盛になっている。幾人かのヨーロッパのライターは、東洋の魅惑的な室内ゲームとしてマージャンを紹介している。

(LBh7_00052: 図書館・書籍)

以上を踏まえて、「部分否定」を表す「ノデハナイ」の例文を検討した結果、否定される要素として、①<必須格>、②<必須格以外の格成分>、③<複合格助詞を含む成分>、④<副詞>、の4つの種類に分けられる。

続いて、5.5.1~5.5.4では、表3にまとめた4つの否定されやすい要素について、個々の要素ごとにさらに検討する。

5.5.1 必須格

まず、否定の焦点が<必須格>になっている「ノデハナイ」について見ていく。ここで分類される格助詞には「が」、「を」、「に」がある。以下、<必須格>の例を例文(27)と例文(28)に示す。

(27) 「パソコンなんてクソ食らえ！」と叫ぶ人たちの頭には、そうした「道具に支配されてしまった」組織や社会への不信感と絶望感が満ち満ちている。しかしそれは、パソコンが悪いのではなく、パソコンに使われている人間が悪いのである。

(LBn8_00004: 図書館・書籍)

(28) What is school like??ってどうゆう意味ですか??

文章は、What is your school like?でしたでしょうか?この like は好き嫌いを聞いているのではなく、様子を聞いています。だから、学校の雰囲気や自分が感じている事を^{ママ}をお話すればよいのです。あなたのふるさとってどんなとこ

¹⁹ 例文(26)の「ノデハナイ」は「人間の考えうる最も面白い室内競技」としてのマージャン」というガ格を否定しているのではなく、「日本の社会的環境によるものである」という文から、「日本でマージャンが廃れた理由」を否定していることがわかる。本研究ではこのような例をその他とした。以上のことから、言語表現だけに注目した(機械的)分類はできず、詳しく見ていく必要がある。

る？あなたのボーイフレンドってどんな人？等等なのです

(0C12_01491:特定目的・知恵袋)

例文(27)では、「道具に支配されてしまっている」という話題が先行文になっている。話し手はQにあたる「パソコンが悪い」のうち、「何らかのものが悪い」という部分を認めている。しかし、「ノデハナイ」があることで「パソコンが」が否定されている。そのため、部分否定の意味が生まれる。つまり、話し手はQの一部を不適當だと認めた上で、適切な説明Rとして「パソコンに使われている人間が悪い」を提示し、「パソコンが悪い」を訂正している。

例文(28)では、「like は好き嫌いを聞いている」という話題が先行文になっている。話し手はQにあたる「好き嫌いを聞いている」のうち、「何らかのことを聞いている」という部分を認めている。しかし、「ノデハナイ」があることで「好き嫌いを」が否定されている。そのため、部分否定の意味が生まれる。つまり、話し手はQの一部を不適當だと認めた上で、適切な説明Rとして「様子を聞いている」を提示し、「好き嫌いを聞いている」を訂正している。

例文(27)と例文(28)における先行文P、不適切な判断Q、適切な説明Rを以下の(29)と(30)で再確認する。

(29) P:道具に支配されてしまっている

Q:パソコンが悪い

R:パソコンに使われている人間が悪い

(30) P:like は好き嫌いを聞いている

Q:好き嫌いを聞いている

R:様子を聞いている

5.5.2 必須格以外の格成分

続いて、否定の焦点が<必須格以外の格成分>になっている「ノデハナイ」について見ていく。ここで分類される格助詞には「で」、「から」、「へ」がある。以下、<必須格以外の格成分>の例を例文(31)と例文(32)に示す。

(31) 「躰」って親が子供に対して必死になる気持ちも分かるけど、子供達の立場からして恐怖や暴力と感じるものは「虐待」になると思います。痛みで社会のルールを教え込むのではなくて どうしてダメなのか分かるまで時間が掛かってもいいからその子の目線やペースに合わせて導く事が躰だと思います。

(0C10_03120:特定目的・知恵袋)

(32) 電子レンジは、マイクロ波を食品に当てることによって加熱します。マイクロ波は陶器やプラスチック、紙などの物質は通り抜けてしましますが、食品、特に水分には吸収されやすい性質を持っています。この吸収されたマイクロ波は熱に変わります。つまり、電子レンジの加熱のしかたというのは、ガスコンロなどのように外側から内側へと熱を加えていくのではなく、いきなり食品内部の水分をあたためているのです。アイスクリームはほとんどが水分。短時間の軽い加熱によって、アイスクリームが溶けることなく全体が均一にやわらかくなるのも道理というわけです。

(0B5X_00079:特定目的・ベストセラー)

例文(31)では、「しつけは厳しくするものだ」という話題が先行文になっている。話し手はQにあたる「痛みで社会のルールを教え込む」のうち、「社会のルールを教え込む」という部分を認めている。しかし、「ノデハナイ」があることで「痛みで」が否定されている。そのため、部分否定の意味が生まれる。つまり、話し手はQの一部を不適當だと認めた上で、適切な説明 R として「その子の目線やペースに合わせて導く」を提示し、「痛みで教え込む」を訂正している。

例文(32)では、「電子レンジの加熱のしかた」という話題が先行文になっている。話し手はQにあたる「外側から内側へと熱を加えていく」のうち、「熱を加えていく」という部分を認めている。しかし、「ノデハナイ」があることで「外側から内側へ」が否定されている。そのため、部分否定の意味が生まれる。つまり、話し手はQの一部を不適當だと認めた上で、適切な説明 R として「いきなり食品内部の水分をあたためている」を提示し、「外側から内側へと熱を加えていく」を訂正している。

例文(31)～例文(32)における先行文 P、不適切な判断 Q、適切な説明 R を以下の(33)と(34)で再確認する。

- (33) P: しつけは厳しくするものだ
 Q: 痛みで社会のルールを教え込む
 R: その子の目線やペースに合わせて導く
- (34) P: 電子レンジの加熱のしかた
 Q: 外側から内側へと熱を加えていく
 R: いきなり食品内部の水分をあたためている

5.5.3 複合格助詞を含む成分

続いて、否定の焦点が<複合格助詞を含む成分>になっている「ノデハナイ」について見ていく。ここで分類される複合格助詞は「を通じて」、「に応じて」、「ために」、「のせいで」がある。以下、<複合格助詞を含む成分>の例を例文(35)～例文(38)に示す。

- (35) 人形や紙芝居を通じて空想力をいただくのではなく、身近な自分を苦しめる事実
に追われて空想を描くのだから、この空想力には現実感を生み出す力があるよ
 うに思える。

(=(15))

- (36) アメリカの企業の場合、企業を動かすのは特定の任務を負った個人とその秘書
 および助手であるが、日本では課が主体である。仕事は課に対して与えられ、
 全員一致協力してその任務を果たす。課内での仕事の分担はアメリカの企業ほ
 ど明確にされていない。肩書きに応じて仕事を分担するのではなく、むしろ個
人の能力に応じて分担される。だから課の仕事の出来ばえに関して責任をもつ
 課長は、有能な部下に重要な仕事をまわす。

(OB1X_00196:特定目的・ベストセラー)

- (37) 制服のスカートはなぜ短くしてはいけないのですか？
 まずは校則。何故校則が出来たのか…そこまで短くされるとみっともないから。
 長くされてもみっともないから。個性を許すと後々大変だから。社会に出てか
 ら個性は出すべき。学生は学ぶために来るのであって恋人を作るために学校へ
来るのではない。とは言ってもさ、少しは校則も時代に乗って欲しいよね……。

(=(14))

(38) 知恵袋で真面目に回答したのに削除されてました。何が悪かったのか分かりません。いっぱい回答しているので何が削除されたか見たいのですが見方が分かりません。教えて下さい。

残念ながら、削除されたら見ることはできません。でも、おそらく回答のせいで削除されたのではないと思いますよ。質問が悪くて、質問ごと削除された道連れかもしれませんし…。あるいは、質問者さんがBAをつけられないまま、時間切れで自動的に削除になってしまったのかもしれませんが。気になさらず、これからも真面目に回答なさってください。

(0C14_10317:特定目的・知恵袋)

例文(35)では、「空想力には現実感を生み出す力がある」という話題が先行文になっている。話し手はQにあたる「人形や紙芝居を通じて空想力をいただく」のうち、「空想力をいただく」という部分を認めている。しかし、「ノデハナイ」があることで「人形や紙芝居を通じて」が否定されている。そのため、部分否定の意味が生まれる。つまり、話し手はQの一部を不適當だと認めた上で、適切な説明Rとして「身近な自分を苦しめる事実を追われて空想を描く」を提示し、「人形や紙芝居を通じて空想力をいただく」を訂正している。

例文(36)では、「日本では課内での仕事の分担は明確にされていない」という話題が先行文になっている。話し手はQにあたる「肩書きに応じて仕事を分担する」のうち、「仕事を分担する」という部分を認めている。しかし、「ノデハナイ」があることで「肩書きに応じて」が否定されている。そのため、部分否定の意味が生まれる。つまり、話し手はQの一部を不適當だと認めた上で、適切な説明Rとして「個人の能力に応じて分担される」を提示し、「肩書きに応じて仕事を分担する」を訂正している。

例文(37)では、「制服のスカートが短い」という話題が先行文になっている。話し手はQにあたる「恋人を作るために学校へ来る」のうち、「学校へ来る」という部分を認めている。しかし、「ノデハナイ」があることで「恋人を作るために」が否定されている。そのため、部分否定の意味が生まれる。つまり、話し手はQの一部を不適當だと認めた上で、適切な説明Rとして「学ぶために学校へ来る」を提示し、「恋人を作るために学校へ来る」を訂正している。

例文(38)では、「質問が悪かったら削除される」という話題が先行文になっている。話し手はQにあたる「回答のせいで削除された」のうち、「削除された」という部分を認めてい

る。しかし、「ノデハナイ」があることで「回答のせいで」が否定されている。そのため、部分否定の意味が生まれる。つまり、話し手は Q の一部を不適當だと認めた上で、適切な説明 R として「質問が悪くて、質問ごと削除された」を提示し、「回答のせいで削除された」を訂正している。

例文(35)～例文(38)における先行文 P、不適切な判断 Q、適切な説明 R を以下の(39)～(42)で再確認する。

- (39) P: 空想力には現実感を生み出す力がある
Q: 人形や紙芝居を通じて空想力をいただく
R: 身近な自分を苦しめる事実を追われて空想を描く
- (40) P: 日本では課内での仕事の分担は明確にされていない
Q: 肩書きに応じて仕事を分担する
R: 個人の能力に応じて分担される
- (41) P: 制服のスカートが短い
Q: 恋人を作るために学校へ来る
R: 学ぶために学校へ来る
- (42) P: 質問が悪かったら削除される
Q: 回答のせいで削除された
R: 質問が悪くて、質問ごと削除された

5.5.4 副詞

最後に、〈副詞〉について見ていく。話し手が先行文 P に対して、Q の一部にあたる「ただ」、「単に」のような副詞、または「全部」、「まったく」のような全体を意味する副詞のみを「ノデハナイ」で否定することによって、訂正的機能を果たしている。また、「Q+ノデハナイ」の後、適切な説明として R が提示されるという特徴がある。以下、〈副詞〉の例を例文(43)～例文(45)に示す。

- (43) 今や核兵器の廃絶は究極の目標から現実の日程となりつつあることを認識し、核抑止力に依存する政策から脱却を図るべきであります。このことを単に米ソ両国に任せるのではなく、我が国が積極的、主体的に努力すべきであります。

(OM37_00001:特定目的・国会会議録)

- (44) 生活習慣病は治すのが難しいです。なぜでしょうか。それは皆さんが「生活習慣を変える」ことが大変だからです。自分が当たり前だと思っていた習慣を一つでも変えることは物凄く大変なことです。ですから今の十二項目を全部変えようとするのではなく、先ず一つ変えてみてください。

(OP29_00003:特定目的・広報誌)

- (45) 原生生物の多くは単細胞性の生物であり、細胞分裂により増殖をするものも多い。しかし、すべてが真核生物であり、基本的には細胞間の接合と減数分裂により、遺伝子の組換えを行う仕組みをもっている。単細胞の原生生物の多くは、同じ大きさの細胞間で接合する同型接合であるが、多細胞で大型の原生生物、特に藻類では大きさや形が分化した細胞が接合する異型接合するものもある。同型接合の場合でも、まったく対等の細胞間で接合が起こるのではなく、+、-型などの接合型間で接合が起こり、このような場合でも遺伝学的に見ると遺伝子組換えが行われるので、形態的には雄雌に分化していなくても有性生殖とよばれている。

(LBs4_00039:図書館・書籍)

例文(43)では、「今や核兵器の廃絶は究極の目標から現実の日程となりつつあることを認識し、核抑止力に依存する政策から脱却を図る」という話題が先行文になっている。話し手はQにあたる「単に米ソ両国に任せる」のうち、「米ソ両国に任せる」という部分を認めている。しかし、「ノデハナイ」があることで「単に」が否定されている。そのため、部分否定の意味が生まれる。つまり、話し手はQの一部を不適当だと認めた上で、適切な説明Rとして「日本も積極的、主体的に努力する」を提示し、「単に」を訂正している。

例文(44)では、「病気を治すためには生活習慣を変えなければならない」という話題が先行文になっている。話し手はQにあたる「全部変えようとする」のうち、「変えようとする」という部分を認めている。しかし、「ノデハナイ」があることで「全部」が否定されている。そのため、部分否定の意味が生まれる。つまり、話し手はQの一部を不適当だと認めた上で、適切な説明Rとして「先ず一つ変えてみてください」を提示し、「全部」を訂正している。

例文(45)では、「同型接合の場合には、対等の細胞間で接合が起こる」という話題が先行文になっている。話し手はQにあたる「まったく対等の細胞間で接合が起こる」のうち、「接合が起こる」という部分を認めている。しかし、「ノデハナイ」があることで「まったく」が否定されている。そのため、部分否定の意味が生まれる。つまり、話し手はQの一部を不適当だと認めた上で、適切な説明Rとして「+、-型などの接合型間で接合が起こる」を提示し、「まったく対等の細胞間で接合が起こる」を訂正している。

例文(43)～例文(45)における先行文P、不適切な判断Q、適切な説明Rを以下の(46)～(48)で再確認する。

- (46) P:今や核兵器の廃絶は究極の目標から現実の日程となりつつあることを認識し、核抑止力に依存する政策から脱却を図る
Q:単に米ソ両国に任せる
R:我が国が積極的、主体的に努力する
- (47) P:病気を治すためには生活習慣を変えなければならない
Q:全部変えようとする
R:先ず一つ変えてみてください
- (48) P:同型接合の場合には、対等の細胞間で接合が起こる
Q:まったく対等の細胞間で接合が起こる
R:+、-型などの接合型間で接合が起こる

5.6 本章のまとめ

本章は久野(1983)と庵・高梨・中西・山田(2001)が指摘した「ノデハナイ」によって否定される要素の存在に着目し、コーパスから抽出した例文に基づいてどのような要素が「ノデハナイ」によって否定されやすいのかによって「ノデハナイ」を分類した。例文を検討した結果、5.5.1～5.5.4で示した通り、部分否定を表す「ノデハナイ」の7割以上の例文が、〈必須格〉、〈必須格以外の格成分〉、〈複合格助詞を含む成分〉、〈副詞〉を否定する。

また、これら4つの「ノデハナイ」によって否定されやすい要素をまとめると、図1のようになる。

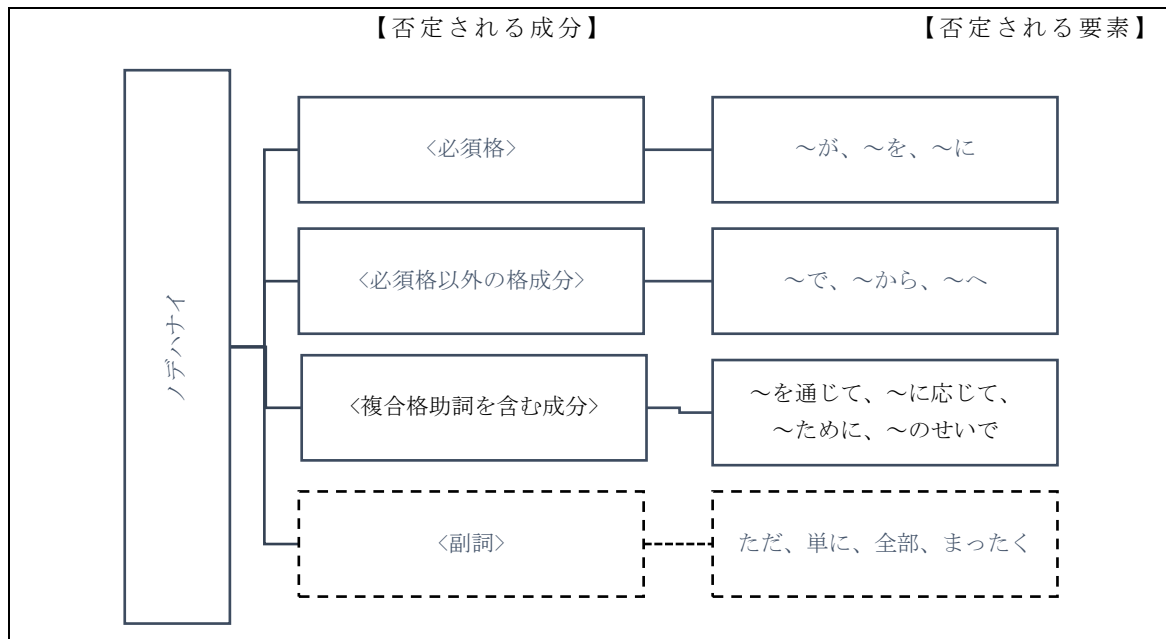


図1 「ノデハナイ」によって否定される要素

図1は「ノデハナイ」が何を否定しやすいのかを明示しており、学習者が部分否定を表す表現である「ノデハナイ」を理解する際の手がかりになるだろう。また、先行研究や文法概説書の説明と合わせて、具体的な情報を含むこの図を提示することが、教育現場により役立つ文法説明となると考える。

第6章 「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の使用環境をめぐって

本章は第3章と第4章で考察した「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」を類義表現として取り上げ、コーパスから抽出したデータに基づいて「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の前接語句の種類に着目して使用環境を調査し、その傾向を明らかにする。最後に、本章で明らかになった「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の使用環境を踏まえ、日本語学習者にとって分かりやすい指導法を提案する。

6.1 はじめに

本章では、第3章と第4章で考察した「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」を取り上げ、「使用環境」の言語内的要素の傾向のみを把握することにより、両表現の差異を記述する。言語外的要素を考察対象から外した理由として、「ワケデハナイ」は書き言葉と話し言葉で用いられるが、「トハカギラナイ」は主に書き言葉で用いられるため、同じコーパスでは比較ができないことが挙げられる。

さて、本研究の考察対象とする3つの表現「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」のうち、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」を選んで分析する理由は、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」が「部分否定」を表す表現として「未必」と中国語に訳され、第3章と第4章で考察した結果、共起しやすい表現が重なっていることが多いことが挙げられる。しかし、類義表現の文法記述がなされた研究は泉原(2007)、田中(2010)、友松・宮本・和栗(2010)など、まだ限定的であると言える。以上のことから、日本語学習者にとって使い分けの難しい「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」は、使用環境による使い分けが解明されるべき文法項目であると考えられる。

そのため、本研究はコーパスから抽出したデータに基づいて量的に「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の使用環境を調査し、その傾向を明らかにすることを目的とする。使用環境として、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の前接語句の選好傾向を考察し、分析する。以下、例文(1)と例文(2)に基づいて、なぜ「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の前接語句に注目する必要があるのかを述べる。

- (1) 仕事の話をしてもしもせいぜい「あいつはバカだ」というぐらいだ。バカは、正当な評価であって、愚痴ではない。このほか、仕事の話をする場合は、いかに楽しく、人をやっつけてきたか、について語る。かといって、私が、サラリーマンやビジネスマンとつき合わないというわけではない。大学時代の同級生は、ほとんどビジネスマンだし、知り合いにも多い。彼らと仲良くつき合っている。ただし、愚痴話は、おもしろくないので聞かないが…。

(LBn3_00027:図書館・書籍)

- (2) 母語の言語直感を意識化しなければ、母語を外国人に教えることができない、と前回お話ししました。原則的には正しいですが、必ずしもそうとは限りません。というのは、「お」つき丁寧語は、意識化するための言語研究が進んでいないか、進んでいても、その規則が複雑になり過ぎ「つく語」「つかない語」といちいち覚えていく方が、簡単な場合だってあるのです。ある程度習得すれば、自然に言語直感が身につきます。その後は、初めて聞いた語でも「お」がつく語か、つかない語かが、分かるようになります。ただし、どの程度覚えたら、直感が身につくかは不明です。

(PN1f_00005:出版・新聞)

例文(1)における「名詞/動詞/形容詞+という+ワケデハナイ」は「ワケデハナイ」に特徴的に見られる。一方、例文(2)における「そう+トハカギラナイ」は「トハカギラナイ」に特徴的に見られる。このように特徴的に見られる前接語句が、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」では異なるため、前接語句に注目し、それを特徴的表現とみなして抽出することとした。「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の前接語句の選好傾向を示すことができれば、両表現の意味の違いに過度に依存することなく学習者に違いを教えることができるのではないかと思われる。

また、前接語句による使用環境を考察した結果に基づき、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の前接語句はいずれも「動詞」が多いため、両表現の特徴を見出すには動詞の意味特徴を探る必要があると考える。よって、出現頻度が高い動詞を特徴的動詞とみなし、それらの意味特徴について分析を行う。

6.2 先行研究

「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」それぞれの意味用法を考察した先行研究として、泉原(2007)、田中(2010)、友松・宮本・和栗(2010)などがある。そのなかでも、泉原(2007)は「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の共通性と相違性を記述し、両表現の意味と機能について比較している。

まず、庵・高梨・中西・山田(2001)、泉原(2007)、友松・宮本・和栗(2010)で取り上げられている例文を以下に示す。

- (3) このケーキはまずいわけではない。
(庵・高梨・中西・山田 2001:302)
- (4) お金があるからといって幸せだとは限らない。
(庵・高梨・中西・山田 2001:302)
- (5) 表で大勢の人が並んでいる店があるが、必ずしも、おいしい+(という)わけではない/とは限らない+らしいよ。
(泉原 2007:1055)
- (6) たとえ胃を全部、切りとったからといって、再発する可能性はあるんだから、全治した+(という)わけではない/とは限らない+だろう。
(泉原 2007:1055)
- (7) 昔のことといっても、みんなが忘れた+わけではない/とは限らない。
(泉原 2007:1055)
- (8) 自動車立国だからといって、日本人がみんな車を持っているわけではない。
(友松・宮本・和栗 2010:418)
- (9) 天気予想がいつも当たるとはかぎらない。ときにははずれることもある。
(友松・宮本・和栗 2010:251)
- (10) 話題の映画だからといって、からならずもおもしろいとはかぎらない。
(友松・宮本・和栗 2010:251)

続いて、先行研究や文法解説書における意味記述を見ていく。まず、庵・高梨・中西・山田(2001)、泉原(2007)、友松・宮本・和栗(2010)における意味記述を表1にまとめる。

表1 先行研究と文法解説書における「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の意味記述

| 先行研究 | 意味記述 |
|---------------------------------|--|
| <p>庵・高梨・中西・山田(2001:303、305)</p> | <p>「ワケデハナイ」 述語を否定し他のものとは対比させるのに主に使われる。</p> <p>「トハカギラナイ」 「必ずしも～(では)ない」は「～」ということが常に正しいとは言えないということを表す。これとほぼ同じ意味を表す表現に「～とは限らない」がある。この場合、「～からといって」が使われることが多い。</p> |
| <p>泉原(2007:1056、1057)</p> | <p>「ワケデハナイ」 聞き手に「事情説明」をするだけなので、部分否定で一般論の例外を示しても、聞き手と議論するのではなく、むしろ聞き手を説得する場合に多く使われるし、一般論とは無関係に、話し手自身の考えを述べることもできる。</p> <p>A+X+わけではない: X=常識や経験に基づいた考え 「X+のではない/とは限らない」をかねる。 聞き手に事情説明をする</p> <p>「トハカギラナイ」 書き言葉や、話し言葉でも「議論」の場で多用されるが、社会通念や常識として一般的に認められていることに、どんなことにも存在する例外を設けて聞き手に反論するので、よくいえば、多数決で無視される「マイノリティ」の味方、人の気づかぬことに目を向けさせる機転のきく人、悪く言えば、聞き手の揚げ足をとって、議論の進行を妨害する邪魔者といったことになる。</p> <p>A+X+とは限らない: X=一般論 Xの一部分を否定して、実現可能な例外とする 未完文を含む文末にしかこない 一人称話し手の状況に使うことができない</p> |
| <p>友松・宮本・和栗(2010:251、418)</p> | <p>「ワケデハナイ」 【全部は～とは言えない/必ず～とは言えない】 「～わけではない」の形で、「～」の事柄を部分的に否定するときに使う言い方。 「～からといって」とともに使うことが多い。</p> <p>「トハカギラナイ」 【～ということがいつも本当だとは言えない】 「…ということが必ず、いつも本当であるとは言えない、ときには例外もある」と言いたいときの文型。いつも・全部・だれでも・必ずしも、などの副詞といっしょに使われることが多い。また、「～だからといって」などの言葉に導かれることが多い。</p> |

表1からもわかるように、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」は「～だからといって」の他に、「いつも・全部・だれでも・必ずしも」、などの副詞と一緒に使われることが多いことが指摘されている。これは第3章と第4章で明らかにした「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」と共起しやすい表現の一部と一致している。つまり、第3章と第4章において分類した個々の用法を踏まえると、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」に共通する用法があることによって、両表現が類義関係にあると言える。よって、本章では、このように類義的な用法において、両表現の前接語句に着目して使用環境を考察する。

6.3 使用コーパスと考察対象

本章で使用したデータは書き言葉コーパスの『現代日本語書き言葉均衡コーパス(データバージョン 1.1)』である。第7章とは異なり本章では書き言葉コーパスの『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のみを利用し、話し言葉コーパスの『名大会話コーパス』と『現日研・職場談話コーパス』を利用しない。その理由を以下に述べる。

「ワケデハナイ」の例文は上記の3つのコーパスいずれにも出現している。しかし、「トハカギラナイ」を話し言葉コーパスで検索したところ、『名大会話コーパス』では2例のみ抽出され、『現日研・職場談話コーパス』では該当例がなかった。この結果は使用環境についての1つの結果として「トハカギラナイ」は話し言葉ではほとんど使用されていないことを示していると考えられる。そのため、本章は「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の使用環境を分析する際に、書き言葉コーパスの『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のみを利用することとした。

続いて、本章における考察対象について述べる。まず、本章は第3章と第4章の考察内容を踏まえ、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」ともに共起しやすい表現に着目し、それらの使用傾向を明らかにすることが目的である。なお、「ワケデハナイ」の<不成立の可能性><逆接の条件><極端(全体・必然・高頻度)><打ち消しの強調><取り立て>といった用法、「トハカギラナイ」の<不成立の可能性><逆接の条件><取り立て(限定・条件)><極端(全体・必然・高頻度)>といった用法のうち、両表現に重なるのは<不成立の可能性><逆接の条件><極端(全体・必然・高頻度)>であることから、この3用法にのみ類義関係が成り立つと判断し、その3用法のみを考察対象とする。

ただし、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」は意味的に類似しているが、形式的には異なるため、調査のための検索も別の方法で行う必要が生じた。両表現それぞれの調査

方法については 6.3.1 と 6.3.2 で述べる。

6.3.1 「ワケデハナイ」の調査方法

コーパス検索アプリケーション「中納言」で、語彙素読み「ワケ」と指定した上で、71297 例を抽出した。また、調査に用いるキーワードは「デハ」「ジャ」とし、それぞれ「ワケデハナイ」は 10315 例、「ワケジャナイ」は 2523 例、計 12838 例を抽出した。

「ワケデハナイ」が文末に現れる場合には、「わけでは/じゃない(です)」「わけでは/じゃありません(でした)」「わけでは/じゃなかった(です)」などがある。そして、文中に現れる場合には、「わけでは/じゃないが…」「わけでは/じゃなく…」などがある。

まず RAND 関数でランダムに並べ替えることによって、12838 例の 5 分の 1 にあたる 2568 例を抽出した。2568 例のうち、〈不成立の可能性〉にあたる例文は 128 例、〈逆接の条件〉にあたる例文は 295 例、〈極端(全体・必然・高頻度)〉にあたる例文は 456 例(それぞれ 349 例、23 例、84 例)、計 879 例抽出された。つまり、2568 分の 879 にあたる 34.2% の例文が「トハカギラナイ」と類義関係にあることがわかる。さらに、ランダムで 300 例を抽出し、それらを考察対象とした。表 2 は本章で分析対象とした「ワケデハナイ」の内訳である。

表 2 分析した「ワケデハナイ」の内訳

| 共起する成分 | | 共起しやすい表現 | 用例数(%) | |
|---------|-----|-----------------------------|-----------|------------|
| 不成立の可能性 | | 必ずしも | 45(15%) | |
| 逆接の条件 | | だからといって、とは言っても、であっても(+必ずしも) | 98(32.7%) | |
| 極端 | 全体 | すべて、完全に | 114(38%) | 157(52.3%) |
| | 必然 | 必ず | 12(4%) | |
| | 高頻度 | いつも、常に | 31(10.3%) | |
| 合計 | | | 300(100%) | |

以下に挙げる例文(11)～例文(20)は、〈不成立の可能性〉、〈逆接の条件〉、〈極端(全体・必然・高頻度)〉にあたる。例文(11)、例文(13)、例文(15)、例文(17)、例文(19)が文末に現れる場合であり、例文(12)、例文(14)、例文(16)、例文(18)、例文(20)が文中に現れる場合である。本章では、このような例を考察対象とする。

<不成立の可能性>

【文末】

(11) 著名な文学者も、必ずしも文学者としてパリに赴いたわけではない。高村光太郎は彫刻研究のためパリに渡った。柳沢健はフランス大使館書記官として、日本関係の催しに尽力している。木下杢太郎は皮膚寄生病を研究するかたわら、ヨーロッパの日本キリシタン関係記録を調査した。彼らのパリ体験は、何よりもまず文化諸領域にまたがる多様なものだったのである。

(PB29_00602:出版・書籍)

【文中】

(12) 感染から検査で検出できるようになるまでの期間をウィンドウ期間と呼びます。この期間は必ずしも感染力があるわけではないですが、その可能性を考えて短くすることが重要です。

(LB04_00016:図書館・書籍)

<逆接の条件>

【文末】

(13) 家族、地域社会、恋愛関係、学校、職場、クラブ、組合、宗教、国家、そして世界。私たちはそれらの集団に属しながら生きているが、かといってそれらの集団のいずれかに決定的に帰属しているわけではない。もし私が自分の職場にのみ帰属意識をもち、他の集団にはその意識を与えないとしたなら、私は共同体を個に優先させる前近代の意識のあり方に逆戻りしているだろう。

(LB13_00140:図書館・書籍)

【文中】

(14) 数日後、日記の余白の新しい傘についてのメモの横に、ヴァージニアは「この本を『歳月』と呼ぼうと思う」と書いている。しかし題名が決まったからといって書くのが容易になったわけではなく、ロジャー・フライの伝記に取りかからなければという気持ちもあってなおのこと苦しんだ。

(PB19_00346:出版・書籍)

<極端(全体)>

【文末】

(15) 土地情報の公開がすべてプライバシーの侵害になるわけではありません。土地

基本法は、土地をめぐる「公共の福祉」の優先を定め、土地の情報は個人の権利利益の保護に配慮しながらも、国民に提供するよう努めることを行政機関に定めています。土地情報は、土地登記簿の閲覧制度や、路線価の公表制度などがあるように、基本的には、公開が原則なのです。

(LBn3_00171:図書館・書籍)

【文中】

- (16) こうした三層を組み合わせる「雇用ポートフォリオ」戦略は、終身雇用を適用する労働者層を大幅に縮小しようとするものである。これまででも、日本の全ての労働者に「終身雇用」が実態として存在していたわけではないが、定年まで雇用を保障することは当然だとする、雇用に関する規範として「終身雇用」は機能してきた。

(PB43_00422:出版・書籍)

<極端(必然)>

【文末】

- (17) 後続巻になるに従い、基本の六つの術が選択肢として与えられることは減りがちになる。術は魔法書ではある程度、有用度の順に並べられているが一必ずそうと決まっているわけではない。腕のいい魔術師なら、最初の冒険はさして苦勞せず完了できるだろうが、次の冒険、また次の冒険と、きつさは増していく。

(PB37_00062:出版・書籍)

【文中】

- (18) この他にも、お湯をいつまでもきれいなままで保つろ過装置や、浴そうのお湯を二十四時間わかし続けていつでも一定の温度に保つ機械なども発売されています。これらはみな、絶対不可欠なものというわけではありませんが、浴室をより便利に、より楽しいものにつくり替える手段のひとつだといえます。

(LBf5_00017:図書館・書籍)

<極端(高頻度)>

【文末】

- (19) スピーカーは、音を出す装置ですが、いつも決まった大きさの音を出すわけではない。ステレオのボリュームを調整することによって、スピーカーに流

れる電流の強さを変えて、音の大きさを変えることができます。大きな音を出すときには、強い電流が流れ、大きな電力が必要になります。

(OT22_00008:特定目的・教科書)

【文中】

(20) アリスのように私は、考えていることを話すことと、話すことを考えることとは同じではないと説明してもらう必要はなかった。私の場合はいつもそう出来たわけではないが、当時わが国の民衆は、考えていることを口にするのは危険であるということをよくわきまえていた。

(LBe2_00048:図書館・書籍)

6.3.2 「トハカギリナイ」の調査方法

「トハカギリナイ」の場合、キーワードを語彙素読み「カギル」と指定した上で、9115 例を抽出し、「ガカギリレル」や「ニカギリナイ」を含む例文 7368 例は考察対象外とし、それらを目視によって取り除いた。よって、1747 例を考察対象としている。

「トハカギリナイ」が文末に現れる場合には、「とは限らない(です)」「とは限らなかった(です)」「とは限りません(でした)」などがある。そして、文中に現れる場合には、「とは限らないので…」「とは限らず…」などがある。

1747 例のうち、〈不成立の可能性〉にあたる例文は 310 例、〈逆接の条件〉にあたる例文は 162 例、〈極端(全体・必然・高頻度)〉にあたる例文は 331 例(それぞれ 125 例、56 例、150 例)、計 803 例抽出された。つまり、1747 分の 803 にあたる 46%の例文が「ワケデハナイ」と類義関係にあることがわかる。さらに、ランダムで 300 例を抽出し、それらを考察対象とした。表 3 は本章で分析対象とした「ハカギリナイ」の内訳である。

表3 分析した「トハカギリナイ」の内訳

| 共起する成分 | | 共起しやすい表現 | 用例数(%) | |
|---------|-----|---------------------------------|-------------|-----------|
| 不成立の可能性 | | 必ずしも | 115 (38.3%) | |
| 逆接の条件 | | だからといって、とは言っても、であっても (+必ずしも) | 62 (20.7%) | |
| 極端 | 全体 | すべて、完全に | 56 (18.7%) | 123 (41%) |
| | 必然 | 必ず | 45 (15%) | |
| | 高頻度 | 常に、永遠に、いつでも | 22 (7.3%) | |
| 合計 | | | 300 (100%) | |

以下に挙げる例文(21)～例文(30)は、〈不成立の可能性〉、〈逆接の条件〉、〈極端(全体・必然・高頻度)〉にあたる。例文(21)、例文(23)、例文(25)、例文(27)、例文(29)が文末に現れる場合であり、例文(22)、例文(24)、例文(26)、例文(28)、例文(30)が文中に現れる場合である。本章では、このような例を考察対象とする。

〈不成立の可能性〉

【文末】

(21) つまりドイツ流の教育においては、よい技術をもったすぐれた医師をつくりだしたかもしれないが、それは必ずしもよい人間であるとは限らなかったのである。そこにドイツ流の実利的な教育の限界が存在していた、といわなければならない。

(OB0X_00005:特定目的・ベストセラー)

【文中】

(22) 彼らは必ずしも十分の教育研修を受けているとは限らないので、現場事故の発生にもつながりかねない。

(PB53_00455:出版・書籍)

〈逆接の条件〉

【文末】

(23) 部下の人数が多いからといって、仕事の質が上がるとはかぎらない。それどころか、部下に働きの悪い人間や能力のいちじるしく劣る人間が交じる可能性が高くなるぶん、他の部員の士気に悪影響を及ぼし、結果、生産性がガクンと落

ちることも考えられるのだ。

(PB13_00641:出版・書籍)

【文中】

(24) つまり、骨量を増やしたからといって軟骨の再生が進むとは限らず、関節症自体が完治は難しい病気だというのだ。治療には骨量増加と関節症改善の両方からアプローチが必要となる。それぞれに有効なサプリメントの取り方とは、どういったものなのだろう。

(PM51_00923:出版・雑誌)

<極端(全体)>

【文末】

(25) 王室の中の生活は、すべてが公表されるとは限らない。のぞけないとなると推測が生まれる。何を推測されても、何を書かれても、英王室は、まず我慢する。いちいち論評を加えない。

(LBa2_00009:図書館・書籍)

【文中】

(26) 共有結合では、各原子の価電子はすべて使われるとは限らず、塩素原子の場合のように結合に関係しない価電子もある。

(OT23_00049:特定目的・教科書)

<極端(必然)>

【文末】

(27) 麻薬取締官の職務は地を這うように地道な捜査だ。しかも、それが必ず報われるとは限らない。それでも足で稼ぐのが我々取締官。結果が出る出ないにかかわらず、全力投球し、1件でも多くの事件を挙げる一言わば、無名の戦士が麻薬取締官なのだ。

(PB44_00216:出版・書籍)

【文中】

(28) 犯罪歴については面接の際に必ず質問されるとは限らないことから、応募者としては進んでこれらの事柄につき申告しなければならないか、が争点になるからである。

(LBj3_00096:図書館・書籍)

<極端(高頻度)>

【文末】

(29) 確かに競走馬は、常に最高のパフォーマンス(指数)を出せるとは限らない。だが、タイム系の理論者は毎週その日の馬場差やトラックバイアスなどを計算し、指数の精度を高めている…

(PB47_00099:出版・書籍)

【文中】

(30) 患者の心理社会面へのインパクトがいつも明らかとは限らないので、その度合いをとくに聞き出す必要がある。

(PB34_00294:出版・書籍)

6.3.3 「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」に共通する用法からみる共通点と相違点

この項では、6.3.1と6.3.2で分析対象とした「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」に共通する3つの用法が、実際にどのぐらいの割合で使われているのかを考察する。以下、表2と表3に基づいて、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」による共起しやすい表現と用例数(%)の相関関係を表4に示す。表4では、網掛けの色がより濃いものが、用例数(割合)が多い表現であることを表している。例えば、〈不成立の可能性〉では、「トハカギラナイ」のほうが、用例数(割合)が多かったため、より濃い灰色で網掛けを施している。

表4 「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の共起しやすい表現と用例数からみる使用環境

| ワケデハナイ 用例数(300例中%) | 用法 | トハカギラナイ 用例数(300例中%) |
|-----------------------------|-------------|------------------------|
| 不成立の可能性 | | |
| 45 (15%) | | 115 (38.3%) |
| 必ずしも | | |
| 逆接の条件 | | |
| 98 (32.7%) | | 62 (20.7%) |
| だからといって、とは言っても、であっても(+必ずしも) | | |
| 極端 | | |
| 114 (38%) | 全体 | 56 (18.7%) |
| すべて、完全に | | すべて、完全に |
| 12 (4%) | 必然 | 45 (15%) |
| 必ず | | 必ず |
| 31 (10.3%) | 高頻度 | 22 (7.3%) |
| いつも、常に | | 常に、永遠に、いつでも |
| | 157 (52.3%) | 123 (41%) |
| | 300 (100%) | 300 (100%) |

まず、〈不成立の可能性〉を見る。表4からもわかるように、〈不成立の可能性〉に分類される「ワケデハナイ」の例文が45例の15%であるのに対し、「トハカギラナイ」の例文は115例の38.3%である。そのため、「トハカギラナイ」のほうが〈不成立の可能性〉に分類される「必ずしも」と結びつきやすいと言えるのではないかとと思われる。

続いて、〈逆接の条件〉を見る。〈逆接の条件〉に分類される「ワケデハナイ」の例文が98例の32.7%であるのに対し、「トハカギラナイ」の例文は62例の20.7%である。そのため、「ワケデハナイ」のほうが〈逆接の条件〉に分類される「だからといって、とは言っても、であっても(+必ずしも)」と結びつきやすいと言える。

最後に、〈極端(全体・必然・高頻度)〉を見る。「全体」と「高頻度」に分類される例文は「ワケデハナイ」のほうが多いが、「必然」に分類される例文は「トハカギラナイ」のほうが多い。また、〈極端(全体・必然・高頻度)〉を全体的割合で捉え直すと、「トハカギラナイ」における123例の41%より、「ワケデハナイ」における157例の52.3%のほうが多いことがわかる。以上のことから、同じ〈極端〉でも、「ワケデハナイ」と共起しやすいのか、それとも、「トハカギラナイ」と共起しやすいのかといった点については、〈全体〉、〈必然〉、〈高頻度〉によってばらつきが見られると言える。

6.4 本研究で用いる記述方法

本章では第7章と同じように、小西(2011)が提起する記述方法に倣い、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の差異について「使用環境²⁰」の観点から記述を行うが、異なる点もある。まず、第7章では、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」について、「使用環境」のうち、言語外的要素にあたるジャンルと言語内的要素に該当する出現位置、といった2つの視点から記述を行った。しかし、6.3でも述べた通り、本章は書き言葉コーパスの『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のみを用いて「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の使用環境を分析するため、言語外的要素にあたるジャンルを考察対象から外すこととした。また、本章では出現位置の他に、連続する言語形式や共起語なども言語内的要素として捉えて、両表現の「使用環境」について記述する。

小林・小西・砂川ほか(2016)と建石(2016)は、コーパスを活用した類義表現の分析であるが、「海外」と「国外」や「～たばかり」と「～たところ」などを取り上げ、名詞や動詞との結びつきに着目し、それぞれの使い分けについて考察している。よって、本章では「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」に類義関係が成り立つ3用法のみを考察対象とし、それぞれ前に来る名詞、動詞、または形容詞、といった語句との結びつきのあり方の分析を行うこととした。

なお、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の前接語句が、いずれも「動詞の類」が多いということは、6.1節で述べた通りである。そこで、以下では出現数が30例以上ある動詞を特徴的動詞とみなし、工藤(1995)と志波(2015)を参考に、それらの動詞の意味特徴について考察する。

6.5 前接語句からみる「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の使用環境

本節は「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」がどのような前接語句と結びつきやすいのかを調査する。まず、国立国語研究所が構築するシソーラス『分類語彙表-増補改訂版』²¹に基づいて「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の前接語句をその意味によって分類する。その際、東京外国語大学が開発した『東京外国語大学言語モジュール』における日本語

²⁰ 小西(2011)が定義した「使用環境」の詳細に関しては1.4「本研究の分析に援用する概念」で詳述した。

²¹ 『分類語彙表-増補改訂版』とは、「語を意味によって分類・整理したシソーラス(類義語集)」である。詳しくは<https://ccd.ninjal.ac.jp/goihyo.html>を参照されたい。

の語彙モジュールのうち、「分類語彙表検索」という検索ツールも参考にする。

6.5.1 「ワケデハナイ」が結びつく前接語句の種類

ランダムに抽出した300例の「ワケデハナイ」について、どのような前接語句が結びついているのかを調査した。ここでは、「ワケデハナイ」が結びつく前接語句の種類を明らかにするため、『分類語彙表-増補改訂版』の分類項目を用いて分類する。各中項目が5例以上のものに絞って示すと、表5のようになる。用例数が30例以上ある場合には、網掛けで表示する。

表5 「ワケデハナイ」が結びつく前接語句

| 類 ²² | 分類項目 | | 用例数(%) | 300例中(%) |
|-----------------|-------------|----------|------------|------------|
| | 部門 | 中項目 | | |
| Ⅱ用の類 | 2.1 抽象的關係 | 2.11 類 | 11(3.7%) | 206(68.7%) |
| | | 2.12 存在 | 40(13.3%) | |
| | | 2.13 様相 | 11(3.7%) | |
| | | 2.15 作用 | 64(21.3%) | |
| | 2.3 精神および行為 | 2.30 心 | 37(12.3%) | |
| | | 2.31 言語 | 5(1.7%) | |
| | | 2.34 行為 | 15(5%) | |
| | | 2.35 交わり | 11(3.7%) | |
| Ⅲ相の類 | 3.1 抽象的關係 | 3.10 真偽 | 6(2%) | 60(20%) |
| | | 3.31 言語 | 40(13.3%) | |
| | | 3.13 様相 | 8(2.7%) | |
| | 3.3 精神および行為 | 3.30 心 | 6(2%) | |
| 合計 | | | 266(88.7%) | |

表5に示されている「類」における「Ⅱ用の類」と「Ⅲ相の類」に分類される前接語句の割合を示すと、それぞれ68.7%と20%であり、全体の約9割を占めている。また、表5には示していないが、「Ⅰ体の類」に分類される名詞は5例あり、「Ⅳその他の類」の分類される語は1例もなかった。以上のことから、「ワケデハナイ」の前接語句は動詞と形容詞が多い

²² 「Ⅰ体の類」、「Ⅱ用の類」、「Ⅲ相の類」とは、それぞれ名詞の類、動詞の類、形容詞の類を表す。

と言える。

さらに、表 5 の「中項目」について見ると、「Ⅱ用の類」における「2.12 存在」、「2.15 作用」、「2.30 心」及び、「Ⅲ相の類」における「3.31 言語」に分類される動詞や形容詞はいずれも 30 例以上あるため、これらの前接語句は特徴的であると思われる。この 4 つの「中項目」に分類される動詞や形容詞は 181 例であり、全体の 60.3%を占めている。

以下、用例数が 30 例以上ある「2.12 存在」、「2.15 作用」、「2.30 心」、「3.31 言語」の実例を示す。

【2.12 存在】

- (31) すべての人に効果的な自己表現の方法があるわけではない。知らない人にでも積極的に話し掛けるのが好きな人もいれば、自分のことは人から尋ねられて初めて話すという人もいる。

(PN4g_00021:出版・新聞)

【2.15 作用】

- (32) ケン・ハートマンを見つけ出したからといって、頼子が戻ってくるわけではない。ケンが頼子の行方や、その手がかりを知っているとは思えない。だが、それでもケンに会って、いったい、あの夜に何があったのかを問いただしてみたい。そこに頼子を見つけ出すヒントがあるような気がしてならないのだ。

(LBr9_00098:図書館・書籍)

【2.30 心】

- (33) もちろん、そんな娘や息子にも反抗期は来る。特権階級意識を振り回す父親に反発することもあるだろう。でも、そこで本当に父親と決別して自分の足で人生を歩いていこうと思った人は、二世議員として親の地盤から選挙に出たりはしないだろう。だからといって、二世議員が自らの出馬を恥ずかしく思っているわけではない。親の地盤を継いだ自分が情けないと思うどころか、誇りに思っているように振る舞う。ここが、自己愛のなせるわざなのである。つまり、父親は偉大な政治家だったという演出をすることによって、その父親の政治理念や地盤をついだ自分を偉大な人間だと見せるのだ。

(PB33_00290:出版・書籍)

【3.31 言語】

- (34) 必ずしも理想どおりいってるわけではありませんけれども、やはり医師会病院というのは、グループ・プラクティスの輪を広げたものだろうと思いますね。例えば、産婦人科の医師は、このごろ、大抵数人のグループをつくって日常の診療をやっておりますね。しかし、そういう単科だけのグループじゃなくて、地域のいろんな医師全部に輪を広げたグループ・プラクティス。お互いに、紹介し合ったり、連絡してきてもらって自分の医院でやるのもグループ・プラクティスでしょうが、その医師が集まる場として医師会病院というものをもっているわけです。

(PB34_00094:出版・書籍)

6.5.2 「トハカギラナイ」が結びつく前接語句の種類

ランダムに抽出した300例の「トハカギラナイ」について、どのような前接語句が結びついているのかを調査した。前項と同様に、「トハカギラナイ」が結びつく前接語句を『分類語彙表-増補改訂版』の分類項目を用いて分類し、各中項目が5例以上のものに絞って示すと、表6のようになる。用例数が30例以上ある場合には、網掛けで表示する。

表6 「トハカギリナイ」が結びつく前接語句(%)

| 分類項目 | | | 用例数(%) | 300例中(%) |
|----------|----------------------|----------|-----------|----------|
| 類 | 部門 | 中項目 | | |
| I 体の類 | 1.1 抽象的關係 | 1.16 時間 | 6(2%) | 25(8.3%) |
| | 1.2 人間活動の主体 | 1.20 人間 | 6(2%) | |
| | 1.3 人間活動- 精神および行為 | 1.30 心 | 5(1.7%) | |
| | 1.4 生産物および用具 | 1.40 物品 | 8(2.7%) | |
| II 用の類 | 2.1 抽象的關係 | 2.11 類 | 20(6.7%) | 195(65%) |
| | | 2.12 存在 | 32(10.7%) | |
| | | 2.15 作用 | 41(13.7%) | |
| | 2.3 精神および行為 | 2.30 心 | 18(6%) | |
| | | 2.31 言語 | 10(3.3%) | |
| | | 2.34 行為 | 30(10%) | |
| | | 2.35 交わり | 12(4%) | |
| | | 2.36 待遇 | 9(3%) | |
| | | 2.37 経済 | 12(4%) | |
| 2.38 事業 | 11(3.7%) | | | |
| III 相の類 | 3.1 抽象的關係 | 3.13 様相 | 15(5%) | 26(8.7%) |
| | | 3.19 量 | 6(2%) | |
| | 3.3 精神および行為 | 3.30 心 | 5(1.7%) | |
| IV その他の類 | | 4.11 接続 | 9(3%) | 9(3%) |
| 合計 | | | 255(85%) | |

表6に示されている「類」を観察すると、「ワケデハナイ」とは違い、「トハカギリナイ」は「II用の類」と「III相の類」に分類される動詞と形容詞の他に、「I体の類」に分類される名詞と「IVその他の類」に分類される他の前接語句も見られることがわかる。しかし、「II用の類」と「III相の類」の割合を示すと、それぞれ65%と8.7%であり、全体の73.7%を占めているのに対し、「I体の類」に分類される名詞と「IVその他の類」に分類される他の前接語句の数は25例と9例前後であり、全体の10%以下に留まっている。以上のことから、「トハカギリナイ」の前接語句は「ワケデハナイ」と同じく、動詞と形容詞が多いと言える。その一方、全体の割合がそれほど高くないが、「ワケデハナイ」と比較してみた結果、名詞とその他の前接語句は特徴的であると思われる。

表6の「中項目」についてさらに見ると、「2.12 存在」、「2.15 作用」、「2.34 行為」に分類される動詞はいずれも30例以上あるため、これらの前接語句は特徴的であると思われる。

この3つの「中項目」に分類される動詞は103例であり、全体の34.3%を占めている。

以下、用例数が30例以上ある「2.12 存在」、「2.15 作用」、「2.34 行為」の実例を示す。

【2.12 存在】

(35) 前述のように、文化行政の“文化の振興と普及”という対象領域では、給付行政が主体となっている。すなわち、文化芸術団体に対する支援行政、文化施設の設置・管理行政が中心であり、これらは、必ずしも法令に根拠があるとは限らず、行政指導によって執行される。その意味で、これらは、主として助成的行政指導としての性格を持つ。そして、このような助成的行政指導にあっては、「要綱」の定められることが多い。

(PB57_00037:出版・書籍)

【2.15 作用】

(36) 部下の人数が多いからといって、仕事の質が上がるとはかぎらない。それどころか、部下に働きの悪い人間や能力のいちじるしく劣る人間が交じる可能性が高くなるぶん、他の部員の士気に悪影響を及ぼし、結果、生産性がガクンと落ちることも考えられるのだ。少数にしていると、自然に精鋭になる。

(PB13_00641:出版・書籍)

【2.34 行為】

(37) 神の名をたたえる政治家のすべてが神の意志を行なっているとは限らない。クロムウェルのように正道から外れ、神の意志を行なうかのようなポーズをとりながら、アイルランドのドロゲダにおけるような、まったく非人道的な殺獄を行なうような人間もいるからである。イランのホメイニ師もまた神の名をたたえることが多かったが、彼は自分の意に沿わなかった人間に対しては実に冷酷であった。最も危険なことは、狂信的な人間が自分の意志を神の意志と同一視することである。

(LBh3_00112:図書館・書籍)

6.5.3 「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」が結びつく前接語句の比較

続いて、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」が結びつきやすい前接語句の特徴について分析を行う。以下の表7は、表5と表6に基づいて「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」が結びつきやすい前接語句を比較するために構成し直したものである。用例数に差がある場合には、数の高い方を網掛けで表示する。

表7 「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の特徴的前接語句の比較

| ワケデハナイ | | 分類項目 | トハカギラナイ | | |
|-----------------|-----------|----------------------|---------|------------|------------|
| 300例(%) | 用例数(%) | | 用例数(%) | 300例中(%) | |
| I 体の類 | | | | | |
| 2(0.7%) | 0(0%) | 1.1 抽象的關係 | 1.16 時間 | 6(2%) | 25(8.3%) |
| | 2(0.7%) | 1.2 人間活動の主体 | 1.20 人間 | 6(2%) | |
| | 0(0%) | 1.3 人間活動- 精神および行為 | 1.30 心 | 5(1.7%) | |
| | 0(0%) | 1.4 生産物および用具 | 1.40 物品 | 8(2.7%) | |
| II 用の類 | | | | | |
| 156(52%) | 40(13.3%) | 2.1 抽象的關係 | 2.12 存在 | 32(10.7%) | 121(40.3%) |
| | 64(21.3%) | | 2.15 作用 | 41(13.7%) | |
| | 37(12.3%) | 2.3 精神および行為 | 2.30 心 | 18(6%) | |
| | 15(5%) | | 2.34 行為 | 30(10%) | |
| III 相の類 | | | | | |
| 40(13.3%) | 40(13.3%) | 3.1 精神および行為 | 3.31 言語 | 0(0%) | 0(0%) |
| IV その他の類 | | | | | |
| 0(0%) | 0(0%) | 4.11 接続 | 4.11 接続 | 9(3%) | 9(3%) |
| 198(66%) | | | | 155(51.7%) | |

表7を踏まえて、前接語句のうち、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」それぞれに結びつきやすい動詞についてどのような特徴があるのかを検討する。

まず、「I 体の類」を見る。表7からもわかるように、「中項目」の割合を示すと、「I 体の類」における「中項目」に分類される名詞と結びつく「ワケデハナイ」のうち、1%以上ある「中項目」は1つもなかった。一方、「トハカギラナイ」では、「中項目」における「1.16 時間」は2%、「1.20 人間」は2%、「1.30 心」は1.7%、「1.40 物品」は2.7%であり、数はそれほど高くないが、前接語句が名詞の場合、「ワケデハナイ」のほうが結びつきやすいと言えるのではないと思われる。

続いて、「Ⅱ用の類」を見る。「Ⅱ用の類」は他の3つの類に比べると、「中項目」の種類や全体的な用例数は「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」のいずれも数が多く、50%前後と40%前後を占めている。「Ⅱ用の類」を表す動詞の類として4つの中項目を捉え直すと、「2.12 存在」、「2.15 作用」、「2.30 心」に分類される動詞は、「ワケデハナイ」のほうが結びつきやすいことがわかる。一方で、「2.34 行為」に分類される動詞は、「トハカギラナイ」のほうが結びつきやすいことがわかる。

また、動詞の類を表す「Ⅱ用の類」の占める割合は「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」それぞれおよそ40%~50%に達している。そのため、両表現の前に来る動詞がどのような特徴を持っているのかをより詳細に明らかにするため、「2.12 存在」、「2.15 作用」、「2.30 心」、「2.34 行為」といった中項目に分類される動詞の意味特徴について考察する。ここでは、工藤(1995)と志波(2015)を参考に、各中項目に分類される動詞を分析し、その分析結果を表8にまとめる。用例数に差がある場合には、数の高い方を網掛けで表示する。

表8 意味特徴を行った「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の前接動詞

| ワケデハナイ 用例数(300例中%) | 意味特徴 | トハカギラナイ 用例数(300例中%) |
|-------------------------------|-------------|------------------------|
| 26(8.7%) | 存在 | 24(8%) |
| ある、いる | | |
| 36(12%) | 状態変化 | 29(9.7%) |
| なる、出す、発生する、減少する、変わる、消える | | |
| 21(7%) | 位置変化 | 8(2.7%) |
| 行く、来る、走る、進む、出る | | |
| 29(9.7%) | 認識 | 4(1.3%) |
| 見る、知る、わかる、理解する、把握する、確認する、解明する | | |
| 7(2.3%) | 催行 | 11(3.7%) |
| 行う、始める、実行する | | |
| 119(39.7%) | | 76(25.3%) |

表8に示されている動詞の意味特徴を観察すると、「ワケデハナイ」は状態変化や位置変化などの変化を表す動詞、認識を表す動詞と結びつきやすい。また、「ワケデハナイ」は存在を表す動詞、「トハカギラナイ」は催行を表す動詞と結びつきやすい傾向が見られるが、用例数や全体における割合から考えれば、それほど大差がない。以下、「ワケデハナイ」の前接語句が「存在」、「状態変化」、「位置変化」、「認識」、「催行」の意味特徴を持つ例

文(38)、例文(40)、例文(42)、例文(44)、例文(46)、「トハカギリナイ」の前接語句が「存在」、「状態変化」、「位置変化」、「認識」、「催行」の意味特徴を持つ例文(39)、例文(41)、例文(43)、例文(45)、例文(47)を示す。

【存在】

「ワケデハナイ」

(38) 世界最初のアンドロイドであるヒトミ・イチローも、このテレビを見入っていた。といっても彼自身は、月面下百メートルのシティの居住エリアにいたわけではない。彼は、シティから百キロほど隔たった大きなクレーターの中心部にある宇宙船発着地で金星のヴィーナスバーグ市に向かうコンテナ・ロケット船の発進を見届け、八輪駆動の月面車でシティに戻る途中だった。

(PB29_00612:出版・書籍)

「トハカギリナイ」

(39) ここではプログラミング言語にかかわらず、一般的に特に注意を要するトラブルとその対策について説明します。プログラムの実行で問題が発生したときには、必ずプログラムに原因があるとは限りません。Windows は複雑で大規模なシステムですから、データ、デバイスやネットワークの接続先など、プログラムの外部の要因が問題の原因であることもあります。

(PB10_00092:出版・書籍)

【状態変化】

「ワケデハナイ」

(40) 彼女たちの夢はふくらむ。私には、そんな彼女たちの気持ちが手にとるように伝わってくる。現実問題、いまの日本企業社会では、いくら男女雇用機会均等法ができたからといっても、女性の未来が明るくなっていない。だから会社に見切りをつけて留学し、新しいキャリアにチャレンジしたい、という女心はとてもよく理解できる。

(LBe1_00023:図書館・書籍)

「トハカギリナイ」

(41) この標準化のプロセスでは、必ずしも優れている技術が標準になるとは限らない。コスト、接続の容易さなども重要になる。また、どこまでは標準化し、ど

こからは自由にするという線引きも難しい。どのようなアプリケーションを想定するかで考え方も異なるからだ。

(OY14_27802:特定目的・ブログ)

【位置変化】

「ワケデハナイ」

(42) 武満さんの企画構成になる「Music Today」は千九百七十三年から、九十三年まで二十回続きました。毎年五日間ぐらい、アーティストが日替わりで加わって、コンサートがある。その五日間の全部に行っただけではありませんが、ぼくはそのどれかには必ず行っている。つまり、ぼくは二十年間、「Music Today」に皆勤でした。

(LBs7_00060:図書館・書籍)

「トハカギラナイ」

(43) 得意先の締切りに間に合わなければ、その得意先からは、二度と仕事はこなくなるでしょう。仕事というものは、いつもコンスタントにくるとは限りません。忙しい時に限って急な仕事が入るものです。また、人を採用して順調に仕事が回ってきたと思ったら従業員が退職し、すべての仕事が自分にのしかかってしまうこともあります。

(LBm3_00025:図書館・書籍)

【認識】

「ワケデハナイ」

(44) 「すべてがわかったわけではありませんし、わたしは大梁にいたわけでもありませんので、くわしくは申せません。が、こういうことです」と、話しはじめた。やはり事件であった。その事件の発端は、ひとりの齊人が大梁をおとずれ、鄭両の家に逗留したことにあった。

(LBm9_00167:図書館・書籍)

「トハカギラナイ」

(45) 患者が病状を理解するには医師の説明は最も重要なことです。しかし、病状の詳細をまくしたてるように説明してもかならずしも理解されるとは限りません。専門用語まじりの難しい話が続けると患者はしろうとにはわからないことから医者任せにしておくしかないという気分になりがちです。しかし、自分の抱

いている疑問に答えてくれるような説明なら理解しやすく納得のいくものとなります。

(LBm4_00027: 図書館・書籍)

【催行】

「ワケデハナイ」

(46) 第七章 戦端を開く戦端を開く

布石が煮詰まってくると、石の接触戦が始まります。接触戦は周囲の石数の多い方が有利。「優勢な場所で戦え」といわれるのはそのことです。しかし、いつでも理想通りの戦いを始められるわけではありません。そのときはどうするか。この章では戦いを仕掛けるとき、戦いを仕掛けられたときの考え方を勉強します。小勢で大勢を破る戦い方もあるのです。

(PB37_00141: 出版・書籍)

「トハカギラナイ」

(47) 必ずしも今日彼女らが実行するとは限らないが九十九パーセント、多分今日彼女らはやるだろう。それは、君たち二人が昨夜、スナック『思い出娘』に入ったことによって決定した。

(OB3X_00105: 特定目的・ベストセラー)

続いて、表 7 に戻って「Ⅲ相の類」を見る。「ワケデハナイ」は 40 例すべてが「名詞/動詞/形容詞+という+ワケデハナイ」によって表示できる例である。以上のことから、「ワケデハナイ」の場合、「名詞/動詞/形容詞+という+ワケデハナイ」を 1 つの特徴的表現としてみなすことができると思われる。以下に実例を示す。

【名詞/動詞/形容詞+という+ワケデハナイ】

「ワケデハナイ」

(48) 最近の遺伝子組み換え食品をめぐる騒ぎを見ている、その議論の水準のあまりの低さに驚くばかりである。反対意見の全てが水準が低いというわけではないが、大半は無知蒙昧まるだしのレベルで、またそれを報道する記者のレベルが低いから、誤った見解が拡大再生産されるという悪循環がつづいている。

(LBo4_00043: 図書館・書籍)

最後に、また表 7 に基づいて「IVその他の類」を見る。「IVその他の類」に関して、「ワケデハナイ」は1例もないのに対して、「トハカギリナイ」は9例見られた。全体のわずか3%に過ぎないが、9例中の8例が「必ずしも+そうとは限らない」、1例は「いつも+そうとは限らない」である。用例数はそれほど多くはないが、「そう+トハカギリナイ」は特徴的であると考えられる。以下に実例を示す。

【そう+トハカギリナイ】

「トハカギリナイ」

(49) ちなみに、中山さんがAさん夫婦と結んだホームロイヤールの報酬は夫婦二人で月額一万円です。弁護士と任意後見契約を結ぶ人はよほど経済的に余裕があるのではと考えがちですが、必ずしもそうとはかぎりません。「預金が少なかったとしても年金と介護保険があれば、有料老人ホームで暮らせる時代です。ご自宅があるかたは売却して資金を得られますから、ごく普通のサラリーマンでも任意後見制度を利用なさるかたはいらっしゃいますよ」と中山さん。

(PM11_00279: 出版・雑誌)

6.6 本章のまとめ

本章では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で抽出した例文に基づいて、『分類語彙表-増補改訂版』を用いて前接語句から「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」を考察し、分析した。その結果、「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」はいずれも動詞と共起しやすいことが明らかになった。そのうえで、工藤(1995)と志波(2015)を参考に、これらの動詞の意味特徴について考察した。結果は以下のようにまとめられる。

- ①『分類語彙表-増補改訂版』の類分布から見ると、「ワケデハナイ」については「I体の類」を表す名詞や「IVその他の類」を表す接続詞や感動詞などに後接することはあまりなく、「II用の類」を表す動詞と「III相の類」を表す形容詞に後接して使われる傾向が見られた。一方で、「トハカギリナイ」では「III相の類」を表す形容詞に後接することはあまりなく、「I体の類」を表す名詞、「II用の類」を表す動詞と「IVその他の類」を表す接続詞や感動詞などに後接して使われる傾向が見られた。

- ②『分類語彙表-増補改訂版』の中項目分布から見ると、「ワケデハナイ」については「Ⅱ用の類」を表す動詞である「2.12 存在」、「2.15 作用」、「2.30 心」、そして、「Ⅲ相の類」を表す形容詞である「3.31 言語」に分類される用例が多かった。一方で、「トハカギラナイ」については「Ⅱ用の類」を表す動詞である「2.12 存在」、「2.15 作用」、「2.34 行為」に分類される用例が多かった。よって、中項目分布を観察した結果、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の前接語句として両表現とも動詞と結びつきやすいことがわかった。
- ③動詞の意味特徴について、工藤(1995)と志波(2015)を参考にすると、「ワケデハナイ」は状態変化や位置変化などの変化を表す動詞、認識を表す動詞と結びつきやすいことがわかった。また、「トハカギラナイ」は催行を表す動詞と結びつきやすいが、「ワケデハナイ」との間にそれほど差はなかった。また、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」はいずれも存在を表す動詞と結びつきやすいことがわかった。
- ④「ワケデハナイ」は「名詞/動詞/形容詞+という+ワケデハナイ」という形式が使われる傾向が見られて、「トハカギラナイ」は「そう+トハカギラナイ」という形式が使われる傾向が見られた。

本章で明らかになった「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の使用環境を踏まえ、日本語学習者にとって分かりやすい指導法を提案する。まず、図1に示すように《どんな品詞を使う》では「名詞」、「動詞」、「形容詞」、「その他」として提示し、《特徴的表現》では結びつきやすい「動詞」、「形容詞:という+ワケデハナイ」、「その他:そう+トハカギラナイ」として提示する。また、《どんな品詞を使う》と《特徴的表現》を踏まえて、《どちらを使えばいい》では、どちらの表現を使うべきかを明示する。《特徴的表現》では、「動詞の意味特徴」を網掛けで示す。また、「動詞」、「形容詞」、「その他」の具体例を破線で囲む。《どちらを使えばいい》では、各品詞や特徴的表現において結びつきやすい表現を網掛けで示す一方、多用されない表現を破線で囲む。

次に、本章で明らかになった「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の使用環境を踏まえ、日本語学習者にとって分かりやすい指導法を提案する。まず、図1に示した《どんな品詞を使う》と《どちらを使えばいい》の内容を連動させて、「名詞+トハカギラナイ」、「形容詞+ワケデハナイ」、「その他+トハカギラナイ」を提示する。そのうち、それぞれの《特徴的表現》として、「形容詞+ワケデハナイ」では「…という(+ワケデハナイ)」を、「そ

の他+トハカギリナイ」では「…そう(+トハカギリナイ)」を提示する。

また、「どんな品詞を使う」における「動詞」については、「存在」を表す動詞と「催行」を表す動詞が「ワケデハナイ」でも「トハカギリナイ」でも共起しやすいことを明示する。一方、「状態変化」を表す動詞、「位置変化」を表す動詞、「認識」を表す動詞が「ワケデハナイ」と共起しやすいことを明示する。

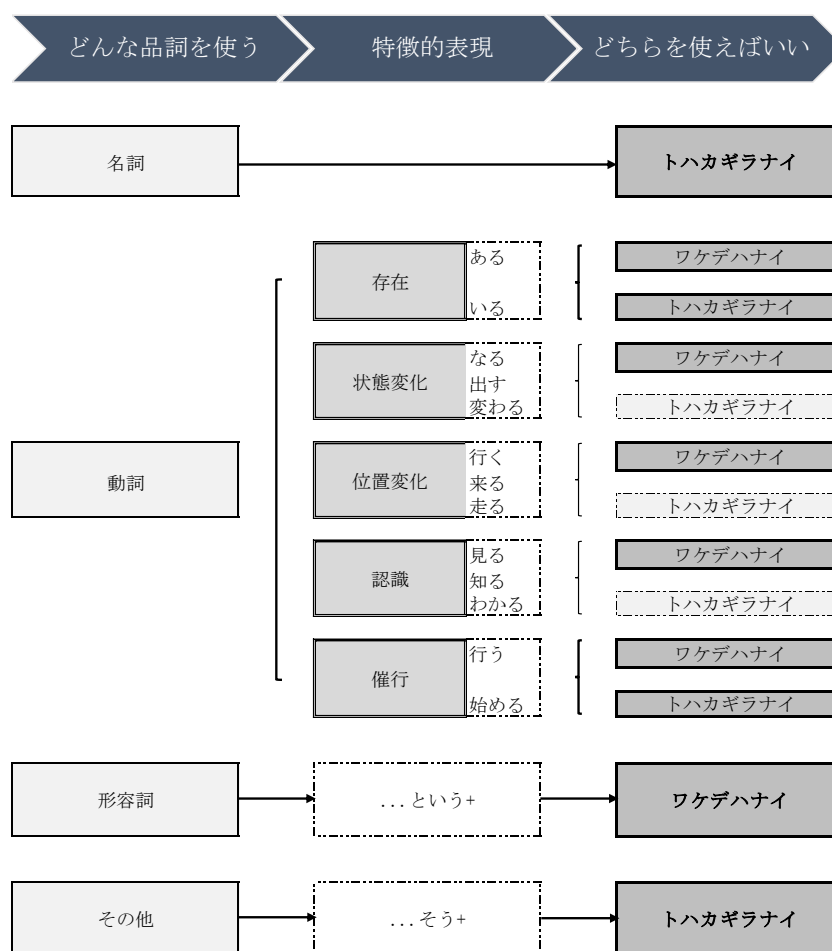


図1 前接語句からみる「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」の使い分け

最後に、第3章と第4章の分析において、先行研究や文法解説書の意味記述を援用した理由について述べる。第3章と第4章で分析を行うにあたっては、先行研究や文法解説書における意味記述を各章における分析の土台として、「+α」という観点からより具体的な情報を加える形として、第3章と第4章ではでは共起しやすい表現と機能を考察した。「+α」という観点のメリットとしては、日本語教育の現場で長年にわたり使われてきた「ワ

ケデハナイ」と「トハカギリナイ」の意味記述を覆すというのではなく、より具体性を持たせる共起しやすい表現や機能を提示することができれば、「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」を実際の運用に効率的につながるのではないかとと思われる。

また、「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」のような類義表現の理解と産出を促進するためには、個別分析とは異なる観点から考察する必要があると思われる。そこで、本研究がたどり着いたのは、「使用環境」を考察することである。「使用環境」から選好傾向を記述することにより、類義関係にある「ワケデハナイ」と「トハカギリナイ」による意味の違いに過度に依存することなく学習者に違いを教えることができるのではないかとと思われる。

第7章 「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境をめぐって

本章は第3章と第5章で考察した「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を類義表現として取り上げ、コーパスから抽出したデータに基づいて「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」のジャンルと出現位置に着目して使用環境を調査し、その傾向を明らかにする。最後に、本章で明らかになった「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境を踏まえ、日本語学習者にとって分かりやすい指導法を提案する。

7.1 はじめに

本章では、第3章と第5章で考察した「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を取り上げ、「使用環境」の言語外的要素、言語内的要素の傾向を把握することにより、両表現の差異を記述する。第2章で述べたように、小西(2011)は学習者の類義表現の理解と産出を促進するためには、実態調査に基づいた傾向を把握し、「使用環境」から選好傾向を記述することが重要であると指摘している。つまり、文法的にはいずれを用いてもよいが、ある使用環境では一方がよく使われ、別のある使用状況ではもう一方がよく使われる、といったことである。ただし、選好傾向の記述は従来の文法記述とは方向性が異なり、正誤の判断を行うことができない。なぜなら、一方が使用されやすい環境で他方を使用しても意味的には通じるからである²³。

本研究の考察対象とする3つの表現「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」のうち、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を選んで分析する理由は、「わけだ」「のだ」が説明表現の代表的な言語形式であり、多くの学習者が中級の段階でその差異を把握することが挙げられる。また、庵(2015b)²⁴の日本語学の知見から新たに検討されたレベル別の文法項目の中では、その否定形式にあたる「わけで(は/も)ない」と「のではない」は、同じ中級レベルに属する文法項目として分類されており、両表現はいずれもよく使われている文法項目であると考えられる。このことも、本研究で「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を選んで分析する理由の1つである。

²³ 小西(2011)が「から」と「ので」を類義表現として分析する際の考え方を本章では考察対象とする両表現の議論に援用する。

²⁴ 庵(2015b)は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス(書籍・コア)』、『新書コーパス』、『新聞コーパス』と『名大会話コーパス』計4つのコーパスを用いて、出現頻度とそれぞれのコーパスにおける特徴項目をもとに、新たに中上級レベルの文法項目を定めている。

なお、本研究では「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を類義表現として取り上げるが、母語話者の内省を用いた主観的な意味記述が多いため、本章ではコーパスから抽出したデータに基づいて量的に「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境を調査し、その傾向を明らかにすることを目的とする。使用環境として、ジャンル別に「書き言葉と話し言葉」「主節と従属節」の選好傾向を考察し、分析する。また、量的に調査を行った上で、使用環境からみた選好傾向と意味との関連についても考察する。

7.2 先行研究

「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を類義表現と捉えて、それぞれの意味用法を考察したものとして、工藤(1997)、庵・高梨・中西・山田(2001)、泉原(2007)などがある。そのなかでも、工藤(1997)は「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の共通性と相違性を記述し、両表現の意味と機能について比較している。工藤(1997)は「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」には、それぞれ2つのバリエーションがあると指摘しており、前者には「結論の否定」と「程度否定」があり、後者には「説明の否定」と「言葉づかいの否定」があるとまとめている。これらのバリエーションの意味は以下のように定義されている。

- ・「ワケデハナイ」

- 〈結論の否定〉: 現実世界の事態の存在の有無を、推論を介して間接的に否定する

- 〈程度否定〉: 事態の存在の有無そのものの量的側面を部分的に否定する

- ・「ノデハナイ」

- 〈説明の否定〉: 先行文の内容の側面に言及する

- 〈言葉づかいの否定〉: 言語形式の側面に言及する

(工藤 1997:78、83)

また、工藤(1997)では「結論の否定」用法にあたる「ワケデハナイ」と「説明の否定」用法にあたる「ノデハナイ」については相互に言い換えができる場合が多いが、「程度否定」用法にあたる「ワケデハナイ」と「言葉づかいの否定」用法にあたる「ノデハナイ」については基本的に相互に言い換えが不可能であると述べている。この点に関して、工藤(1997)で取り上げられている例文を以下に示す。これらの例文のうち、例文(1)と例文(2)は「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を相互に言い換えることができる用例であり、例文(3)と例文

(4)は言い換えることができない用例である。

(1) <結論の否定>

「どうした？」と広岡は声をかけた。「君を責めるつもりでここへ呼んだわけじゃないんだ。……」

(工藤 1997:92)

(2) <説明の否定>

「お父さんたら、早起きをするため早起きをするんじゃないのよ。あたしたちに小言をいうため、早起きをするんだわ。」

(工藤 1997:92)

(3) <程度否定>

会話は沈黙がちであった。だが決して気まずいわけではない。

(工藤 1997:84)

(4) <言葉づかひの否定>

「月に帰りなさい、君」と言って僕のガールフレンドは去っていった。いや、去っていったんじゃない。戻っていったのだ。

(工藤 1997:81)

また、庵・高梨・中西・山田(2001)では例文(5)と例文(6)、泉原(2007)では例文(7)と例文(8)が取り上げられている。

(5) 私はこのカメラを新宿で{○買ったのではない/×買わなかった}。秋葉原で買ったのだ。

(庵・高梨・中西・山田 2001:302)

(6) このケーキはまずい{○わけではない/#のではない}。

(庵・高梨・中西・山田 2001:302)

(7) 胃を全部、切りとったからといって、再発する可能性はあるんだから、全治したんじゃないだろう。

(泉原 2007:1056)

(8) 表で大勢の人が並んでいる店があるが、必ずしも、おいしいわけではないらしいよ。

(泉原 2007:1056)

続いて、先行研究や文法解説書における意味記述を見ていく。まず、工藤(1997)、庵・高梨・中西・山田(2001)、泉原(2007)における意味記述を表1にまとめる。

表1 先行研究と文法解説書における「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の意味記述

| 先行研究 | 意味記述 |
|--------------------------|--|
| 工藤(1997) | <p>「ワケデハナイ」</p> <p><結論の否定>: 現実世界の事態の存在の有無を、推論を介して間接的に否定する。</p> <p><程度否定>: 事態の存在の有無そのものの量的側面を部分的に否定する</p> <p>「ノデハナイ」</p> <p><説明の否定>: 先行文の内容の側面に言及する。</p> <p><言葉づかいの否定>: 言語形式の側面に言及する。</p> |
| 庵・高梨・中西・山田(2001:302-304) | <p>「ワケデハナイ」</p> <p>(話しことばでは「では」が「じゃ」になる)も「～のではない」と同じく部分否定を表すが、「～のではない」が補語を否定し他のものと対比させるのに主に使われるのに対し、「～わけではない」は述語を否定し他のものと対比させるのに主に使われる。</p> <p>「ノデハナイ」</p> <p>(話しことばでは「～んじゃない」)は、文全体が正しくないというのではなく、文の一部が正しくないということを示すときに使われる。</p> |
| 泉原(2007:1056-1057) | <p>「ワケデハナイ」</p> <p>X=常識や経験に基づいた考え</p> <p>「X+のではない/とは限らない」をかねる</p> <p>聞き手に事情説明をする</p> <p>「ノデハナイ」</p> <p>A+X+のではない</p> <p>X=話し手が引用した他者の言葉や考え</p> <p>Aを否定するが、Xは肯定する</p> <p>Xを否定すると、全部否定を表す</p> <p>Xを部分否定する「必ずしも」とは呼応しない</p> <p>文中にも使うことができる</p> <p>Xの状況を表すのに人称制限はない</p> |

本章は「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境の調査を目的とするため、工藤(1997)の研究の蓄積を土台として、第3章と第5章の記述に加筆する形で、それぞれの表現の記述をより充実させる。

7.3 使用コーパスと考察対象

本章で使用したデータは書き言葉コーパスの『現代日本語書き言葉均衡コーパス(データバージョン 1.1)』及び、話し言葉コーパスの『名大会話コーパス』と『現日研・職場談話コーパス』である。先行研究においては「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」に意味的な異なりがあるとしているが、書き言葉と話し言葉との違いといった部分においては調査の蓄積がない。そのため、媒体の差による両表現の使用実態や差異を記述するため、分析には書き言葉と話し言葉の両方を用いた。また、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境を明らかにするためには、複数のコーパスを比較する必要がある。そのため、書き言葉コーパスとして多数のジャンルが揃っている『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を、話し言葉コーパスとして『名大会話コーパス』と『現日研・職場談話コーパス』を選択した。

分析対象の抽出は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』、『名大会話コーパス』と『現日研・職場談話コーパス』の全データを対象にして、コーパス検索アプリケーション「中納言」を用いて検索を行った。検索に際しては、書き言葉と話し言葉の特徴を考慮し、調査に用いるキーワードは「デハナ」「ジャナ」とした。その上で、例文(9)における「…のではないかと+と+思う/…んじゃないかと+と+思う」と例文(10)のような、クエスチョンマーク「？」が附加する「…のではない？/…んじゃない？」は本章の考察対象とする「ノデハナイ」とは形式的、意味的に異なるため、このような例文は考察対象外とし、目視で取り除いた。以下、考察対象外とした例文の一部を示す。

- (9) ひょっとして自分はいちばん肝心な部分の記憶を失ってしまっているんじゃないかとふと思うからだ。

(0B3X_00276:特定目的・ベストセラー)

- (10) 古都と言うより洛北貴船になりますが、暑い夏の日を静寂の神社へ出掛けるのもいいでしょう。たまには静かに自分自身と向き合うこともいいのではないのでしょうか?今日みたいな暑い日には最高でしょう。今日は猛暑より酷暑になり

そうです。市内では祇園祭の山鉾巡行の日ですごい人出になることでしょう。現代は色々な意味でスピードが速いから自分自身を見つめ直すことが困難かもしれないませんが、静かに自問自答してみることも大切な気がします……

(0Y13_01589:特定目的・ブログ)

例文を検索した結果、考察対象とする例文として『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から、「ノデハナイ」7925 例、「ワケデハナイ」12608 例を抽出した。また、『名大会話コーパス』から、「ノデハナイ」433 例、「ワケデハナイ」264 例を抽出した。また、『現日研・職場談話コーパス』から、「ノデハナイ」150 例、「ワケデハナイ」26 例を抽出した。7.5 節では「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の出現数および割合を示し、ジャンル別(書き言葉と話し言葉)と出現位置(主節と従属節)の相関関係を可視化するためのクロス集計を「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」それぞれに対して行う。

7.4 本章で援用する概念

第2章で述べた通り、小西(2011)では、言語の差異を第二言語としての日本語教育の観点から記述する場合、「形」「意味」「使用環境」という三点を常に連動させる必要があると述べている。また、類義表現が差異を生み出す最も重要な要因は「使用環境」であると主張している。類義表現による差異の記述は、「形」「意味」「使用環境」を伴って記述されることで初めて意味を持つと指摘していることから、本章は小西(2011)が提起する記述方法に倣い、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の差異について特に「使用環境²⁵」の観点から記述を行う。

7.5 コーパスからみる「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境

7.5.1 ジャンル別の調査結果と考察

本項では、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」のジャンル別の出現頻度調査の結果を示す。ジャンルは、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の「使用環境」のうち、言語外的要素にあたる。表2は、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の出現数とジャンル別の使用傾向との関連を示したものである。また、ジャンル別の出現数について100万語あたりの調整頻度も示

²⁵ 小西(2011)が定義した「使用環境」の詳細に関しては1.4「本研究の分析に援用する概念」で詳述した。

す。

なお、小西(2011)を参考にし、抽出された例文を『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の「レジスター」にあたる「ジャンル」で分類する。『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における「出版・書籍」「図書館・書籍」「ベストセラー」は日本十進分類法(NDC)で統合した上で、「文学」と「文学以外」に分ける。しかし、「分類なし」²⁶に該当する用例数がそれぞれ「ノデハナイ」155例と「ワケデハナイ」230例あった。分析の便宜上、それらの例文を考察対象外とした。以下、表2は「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」によるジャンル別の出現数について100万語単位の調整頻度を比較し、少ない方を「1」とした場合の出現比率を()に記したものである。また、出現比率に差がある場合には、比率の高い方を網掛けで表示する。

表2 ジャンル別に見た「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の出現数と比率

| 媒体 ジャンル | 総語数 | ワケデハナイ | 100万語単位 | | ノデハナイ | |
|------------------|-----------|----------|---------|------------|------------|------|
| | | | ワケデハナイ | ノデハナイ | | |
| 書 き 言 葉 | 新聞 | 1370233 | 66 | 48.2(1.7) | 29.2(1) | 41 |
| | 雑誌 | 4444492 | 411 | 92.5(1.4) | 64.8(1) | 288 |
| | 文学 | 20139268 | 3611 | 179.3(2) | 90.7(1) | 1826 |
| | 文学 以外 | 42533142 | 5283 | 124.2(1.3) | 98.7(1) | 4199 |
| | 白書 | 4882812 | 70 | 14.3(1.4) | 10.2(1) | 50 |
| | 知恵袋 | 10256877 | 1527 | 148.9(2.1) | 69.9(1) | 717 |
| | ブログ | 10194143 | 868 | 85.1(2) | 43(1) | 438 |
| | 法律 | 1079146 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 広報誌 | 3755161 | 24 | 6.4(1) | 12.5(2) | 47 |
| | 教科書 | 928448 | 34 | 36.6(1) | 57.1(1.6) | 53 |
| | 韻文 | 225273 | 5 | 22.2(1) | 31.1(1.4) | 7 |
| 話 し 言 葉 | 国会 会議録 | 4497761 | 709 | 157.6(2.7) | 57.6(1) | 259 |
| | 雑談 | 2005675 | 264 | 131.6(1) | 215.9(1.6) | 433 |
| | 職場 | 402742 | 26 | 64.6(1) | 372.4(5.8) | 150 |

²⁶ 加藤・森山・浅原(2019)が指摘した「分類なし」とは、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』構築当時に、日本十進分類法(NDC)が付与されていなかったサンプルのことである。

²⁷ 使用した話し言葉コーパスのうち、「雑談」と「職場」はそれぞれ日本語母語話者同士の雑談を文字化した『名大会話コーパス』と調査研究『女性のことば・職場編』『男性のことば・職場編』で得た談話の文字化テキストを元に作成された『現日研・職場談話コーパス』、といっ

「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の出現総数と 100 万語の出現数を比較すると、ジャンル別の使用傾向は以下のようにまとめられる。

・ジャンル別の使用傾向

「ワケデハナイ」>「ノデハナイ」

書き言葉:「新聞」「雑誌」「文学」「文学以外」「白書」「知恵袋」「ブログ」

話し言葉:「国会会議録」

「ワケデハナイ」<「ノデハナイ」

書き言葉:「広報誌」「教科書」「韻文」

話し言葉:「雑談」「職場」

まず、書き言葉を見ると、「広報誌」「教科書」「韻文」以外のジャンルにおいては、「ワケデハナイ」が優勢である。そして、「広報誌」「教科書」「韻文」においては「ノデハナイ」が優勢である。一方、話し言葉では、「国会会議録」で「ワケデハナイ」が優勢で、「雑談」「職場」で「ノデハナイ」が優勢である。

次に、「ノデハナイ」より「ワケデハナイ」が選好されやすいジャンルとしては、「新聞」「雑誌」「文学」「文学以外」「白書」「知恵袋」「ブログ」がある。ジャンルとしての特徴から考えると、「知恵袋」と「ブログ」を除く 5 ジャンルに、類似性が見られる。これら 5 つのジャンルの共通する特徴として、①発信者が単独であること、②不特定多数の受信者が閲覧すること、また、③発信者と受信者との相互作用性がないこと、が挙げられる。

一方で、「ノデハナイ」が選好されやすいジャンルに関して、その特徴を分析する。書き言葉において「ノデハナイ」が選好されるのは、「広報誌」「教科書」「韻文」であった。「広報誌」では「ノデハナイ」が「ワケデハナイ」の 2 倍近くあるが、「教科書」と「韻文」ではそれぞれ 1.6 倍と 1.4 倍である。一方、話し言葉においては、「雑談」で「ノデハナイ」が「ワケデハナイ」の 1.6 倍であり、「職場」では 5.8 倍と「ノデハナイ」の比率が非常に高い。

た 2 つのコーパスを指す。記述の便宜上、『名大会話コーパス』と『現日研・職場談話コーパス』を「雑談」と「職場」と称する。

小西(2011:113-115)が規定した各コーパスにおけるジャンルの特徴²⁸を踏まえると、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のジャンルとしての特徴は、①単独の発信者、②単独、もしくは複数の受信者、③発信者と受信者の一対一性、もしくは一対多性による相互作用性の高さ、④様々な共有知識、が挙げられる。そのような特徴を有する話し言葉のジャンルにおいては、基本的に「ノデハナイ」が用いられると予想される。しかし、同じ話し言葉であっても、「国会会議録」では「ワケデハナイ」が「ノデハナイ」の2.7倍である。これは質疑応答において改まった言葉づかいをするために、「ワケデハナイ」の使用が選好されやすいためではないかと考えられる。

7.5.2 出現位置の調査結果と考察

本項では、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を出現位置という観点から分析する。出現位置を主節と従属節に分けて分析する理由は、以下に述べる。田中(2010:427、428)は「ノデハナイ」について、その修正や言い替えの用法は、主に言い切りの文末形式として現れると指摘している。しかし、「ノデハナイ」が媒体やジャンルによって、主節と従属節による出現位置の傾向が変わってくるのが本稿の分析を通して明らかになった。そのため、類義関係にある「ワケデハナイ」を含め、田中(2010)による「ノデハナイ」の指摘を再検討する姿勢で、両表現の出現位置を明らかにする。

出現位置は、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の「使用環境」のうち、言語内的要素に該当する。コーパスから抽出したデータから「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を考察すると、両表現とも主節と従属節の両方に現れている。そこで、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を、主節に現れやすいか、それとも従属節に現れやすいか、という傾向の違いによって特徴づけたい。主節の場合は、それぞれ「わけではないんですよ」「わけではなさそう」と「のではない」「んじゃない」といった形で現れている。一方、従属節の場合は、それぞれ「わけではないし」「わけではないが」と「のではなくて」「のではないという」といった形で現れている。以下、表3は「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の出現数および割合を示し、ジャンル別と出現位置でクロス集計したものである。また、出現比率に差が見られる場

²⁸ 小西(2011)ではこれまでの先行研究を踏まえて、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』、『日本語話し言葉コーパス』、『現日研・職場談話コーパス』と『名大会話コーパス』について、(ア)参加者、(イ)参加者の関係、(ウ)チャンネル、(エ)産出と理解の状況、(オ)場面、(カ)伝達の目的、(キ)話題、(ク)文体、といった8つの要素から各コーパスにおけるジャンルに特徴づけを行っている。

合には、比率の高い方を網掛けで示す。

表3 ジャンル別に見た「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の出現位置

| 媒体 ジャンル | | 主節 | | 従属節 | |
|------------|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | | ワケデハナイ | ノデハナイ | ワケデハナイ | ノデハナイ |
| 書き言葉 | 新聞 | 38 (57.6%) | 14 (34.1%) | 28 (42.4%) | 27 (65.9%) |
| | 雑誌 | 207 (50.4%) | 57 (19.8%) | 204 (49.6%) | 231 (80.2%) |
| | 文学 | 2043 (56.6%) | 1046 (57.3%) | 1568 (43.4%) | 780 (42.7%) |
| | 文学以外 | 3099 (58.7%) | 1040 (24.8%) | 2184 (41.3%) | 3159 (75.2%) |
| | 白書 | 35 (50%) | 5 (10%) | 35 (50%) | 45 (90%) |
| | 知恵袋 | 539 (35.3%) | 179 (25%) | 988 (64.7%) | 538 (75%) |
| | ブログ | 289 (33.3%) | 121 (27.6%) | 579 (66.7%) | 317 (72.4%) |
| | 法律 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 広報誌 | 11 (45.8%) | 1 (2.1%) | 13 (54.2%) | 46 (97.9%) |
| | 教科書 | 25 (73.5%) | 14 (26.4%) | 9 (26.5%) | 39 (73.6%) |
| | 韻文 | 4 (80%) | 5 (71.4%) | 1 (20%) | 2 (28.6%) |
| 話し言葉 | 国会会議録 | 215 (30.3%) | 38 (14.7%) | 494 (69.7%) | 221 (85.3%) |
| | 雑談 | 115 (43.6%) | 273 (63%) | 149 (56.4%) | 160 (37%) |
| | 職場 | 13 (50%) | 120 (80%) | 13 (50%) | 30 (20%) |

表3から、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の出現位置に相補分布的な傾向があることがわかる。書き言葉においては、「ワケデハナイ」が主節に多く現れるのに対し、「ノデハナイ」が従属節に多く現れている。一方、書き言葉に比べて話し言葉においては、「ワケデハナイ」が従属節に多く現れるのに対し、「ノデハナイ」が主節に多く現れている。加えて、「国会会議録」は話し言葉であるが、両表現の出現位置は書き言葉に見られる傾向と一致するといった興味深い結果が示されている。

以上、これまで抽象的な意味記述がなされてきた「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」だが、今回の考察を通して具体的にどのようなジャンルで使われやすいかが明らかになった。学習者に「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の用法を提示する際には、このような「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の書き言葉と話し言葉で見られる出現位置の傾向を念頭に置いて導入することが望ましいと思われる。

7.6 「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境について-工藤(1997)に基づく検証

本節では、特に「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の相互に言い換えられる用法にあたる「結論の否定」と「説明の否定」に注目する。それらの抽出数からみる傾向と7.5節で検討してきた「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境からみる選好傾向との一致性を検証する。

まず、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を量的に調査した結果、両表現の使用は書き言葉と話し言葉によるジャンルと出現位置に異なる傾向があることがわかった。本節では定量的な手法の限界を踏まえつつ、定性的な調査として、この傾向と意味の間の関連性を明らかにする。考察対象とする例文を書き言葉コーパスから300例、話し言葉コーパスから100例を無作為に抽出し、それらを分析した。考察する例文については、媒体と出現位置に分けた上で、工藤(1997)を参照し、意味用法の分類を行う。以下、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」による媒体と出現位置の出現状況と意味用法の相関関係を表4に示す。なお、表4における網掛けの箇所は表全体を見やすく提示するために施したものである。

表4 「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の抽出数および割合からみる使用環境

| 考察対象 | 媒体 | 出現位置 | 意味用法 | 抽出数 | 割合(%) |
|--------|------|------|----------|-----|-------|
| ワケデハナイ | 書き言葉 | 主節 | 結論の否定 | 94 | 31.3 |
| | | | 程度否定 | 62 | 20.6 |
| | | 従属節 | 結論の否定 | 85 | 28.3 |
| | | | 程度否定 | 59 | 19.7 |
| | 話し言葉 | 主節 | 結論の否定 | 33 | 33 |
| | | | 程度否定 | 12 | 12 |
| | | 従属節 | 結論の否定 | 41 | 41 |
| | | | 程度否定 | 14 | 14 |
| ノデハナイ | 書き言葉 | 主節 | 説明の否定 | 84 | 28 |
| | | | 言葉づかいの否定 | 33 | 11 |
| | | 従属節 | 説明の否定 | 111 | 37 |
| | | | 言葉づかいの否定 | 72 | 24 |
| | 話し言葉 | 主節 | 説明の否定 | 64 | 64 |
| | | | 言葉づかいの否定 | 11 | 11 |
| | | 従属節 | 説明の否定 | 13 | 13 |
| | | | 言葉づかいの否定 | 12 | 12 |

表 4 からわかるように、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を、工藤(1997)が指摘する「結論の否定」「程度否定」および「説明の否定」「言葉づかいの否定」を用いて検討した結果、いずれの媒体においても、相互に言い換えることができる「結論の否定」と「説明の否定」と出現率が高く、言い換えが不可能とされる「程度否定」と「言葉づかいの否定」の出現率は低いことがわかった。

なお、表 4 をもとにして相互に言い換えられる用法である「結論の否定」と「説明の否定」にしぼり、7.5.1 と 7.5.2 で検討したジャンル別にあたる「書き言葉」と「話し言葉」と、出現位置にあたる「主節」と「従属節」との相関関係を表 5 に示す。なお、表 5 における網掛けの箇所は表全体を見やすく提示するために施したものである。

表 5 「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の言い換えられる用法からみる使用環境

| 考察対象 | 媒体 | 出現位置 | 意味用法 | 抽出数 | | 割合(%) | | 番号 ²⁹ |
|--------|------|------|-------|-----|-----|-------|------|------------------|
| | | | | | | | | |
| ワケデハナイ | 書き言葉 | 主節 | 結論の否定 | 94 | 179 | 31.3 | 59.6 | ① |
| | | 従属節 | 結論の否定 | 85 | | 28.3 | | ② |
| | 話し言葉 | 主節 | 結論の否定 | 33 | 74 | 33 | 74 | ③ |
| | | 従属節 | 結論の否定 | 41 | | 41 | | ④ |
| ノデハナイ | 書き言葉 | 主節 | 説明の否定 | 84 | 195 | 28 | 65 | ⑤ |
| | | 従属節 | 説明の否定 | 111 | | 37 | | ⑥ |
| | 話し言葉 | 主節 | 説明の否定 | 64 | 77 | 64 | 77 | ⑦ |
| | | 従属節 | 説明の否定 | 13 | | 13 | | ⑧ |

両表現の言い換えられる用法という面から、まず、それぞれの媒体による違いについて検討した。その結果、表 5 からわかるように、書き言葉コーパスでは、「ワケデハナイ」は 59.6%であり、「ノデハナイ」は 65%であるのに対して、話し言葉コーパスでは、「ワケデハナイ」は 74%であり、「ノデハナイ」は 77%であった。つまり、媒体の差による特徴は得られなかった。

次に、7.5 節で明らかになった「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の媒体と出現位置による選好されやすい使用環境について、表 5 に対応する割合と番号をそれぞれ付け加えたものを以下に示す。

²⁹ 便宜上の分類番号である。

- ・「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」による選好されやすい使用環境の比較

「ワケデハナイ」>「ノデハナイ」

書き言葉-主節:①31.3%>⑤28%

話し言葉-従属節:④41%>⑧13%

「ワケデハナイ」<「ノデハナイ」

書き言葉-従属節:②28.3%<⑥37%

話し言葉-主節:③33%<⑦64%

前述の表 5 に示したように、媒体による大きな特徴は得られなかった。そのため、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」による選好されやすい使用環境を比較するために、媒体を含め、主節と従属節による出現位置を加えて考察した。その結果、上述のように、書き言葉における「ワケデハナイ」は主節に現れやすく、「ノデハナイ」は従属節に現れやすいということが明らかになった。その一方、話し言葉における「ワケデハナイ」は従属節に出現する傾向があり、「ノデハナイ」は主節に出現する傾向があると言える。

また、工藤(1997)に基づいた意味分類を行った結果、相互に言い換え可能な両表現の用法が、言い換えが可能ではない用法よりも多く出現している。また、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の選好されやすい使用環境と相互に言い換えられる用法からみた使用環境の選好傾向が一致する。そのため、両表現が言い換え可能な用法について日本語教育現場で説明する際に、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の選好されやすい使用環境を示すことが有効であると言える。

以下の例文(11)～例文(18)は、表 5 にまとめた番号①～⑧にあたるものである。

①「ワケデハナイ」-書き言葉-主節-結論の否定

- (11) そもそもユウに張りついたのは、あんただろ。頼まれたわけじゃない、好奇心からやってのけたことだろ。俺はただ、それを続けろと言っているだけだ。

(LBo9_00204:図書館・書籍)

②「ワケデハナイ」-書き言葉-従属節-結論の否定

- (12) ネットスカイはワーム型ウイルスで、感染した人の PC からメールアドレスを抽出し自分自身をばらまきます。その際送信者のアドレスは詐称されますので、本当の送信者ではありません。あなたがこれまでに引きつけた誰かがウイル

スに感染して、そこから届いています。詐称された送信者も共通の取り引き相手です。故意に送ってる訳ではないので誤解しないように注意してください。

(OC02_00307:特定目的・知恵袋)

③「ワケデハナイ」-話し言葉-主節-結論の否定

- (13) うんうんあーあーいやいや。なんかー、先生とかよ、その、うちの指導教官の先生じゃないんだけど、お前は社会学やってる人たちみたいに、データが使えるわけではない、社会学をやってるやつらにはなくて、お前にはあるもの、それは文章力と感性だあ、とか言って、な、なんかそれってはったりくさいとか思いながら。

(『名大会話』 data127)

④「ワケデハナイ」-話し言葉-従属節-結論の否定

- (14) 40、45分のが、6回ぐらいあるんじゃない。うんうんうんだから240くらい、はあるわね。うんうんうん、うんあのね、ま、わたしもちゃんと見たわけじゃないけども、見てておもしろいなと思ったのは、マップなんてのは、ま、フォーマルな話で、お話を聞くっていうのがそもそもの原則けども、ま、一応対話じゃない。うんうんうんうんうんうん対話って、別の意味の、あの一、質問と答え。

(『名大会話』 data009)

⑤「ノデハナイ」-書き言葉-主節-説明の否定

- (15) 「まアー、ご自分の言いたいことばかりおっしゃって！！私そんな心算で言ったんじゃないわ。私…言いたいけど、どうせあなたの御機嫌を悪くするんだから、もう言いません。この前のはごめんなさい。あなたのお気持ちよくわかってますから私を見捨てないで！！」

(PB29_00414:出版・書籍)

⑥「ノデハナイ」-書き言葉-従属節-説明の否定

- (16) 人形や紙芝居を通じて空想力をいただくのではなく、身近な自分を苦しめる事実を追われて空想を描くのだから、この空想力には現実感を生み出す力があるように思える。

(LBr3_00014:図書館・書籍)

⑦「ノデハナイ」-話し言葉-主節-説明の否定

(17) うんうんうんうんうんうんうん、だから私はあんまり蹴れなかったんじゃない、足が下向いているから。あー頭は動いてたけど。

(『名大会話』 data057)

⑧「ノデハナイ」-話し言葉-従属節-説明の否定

(18) だってねー、一、一度一、陰性って出たのに一、そのあと陽性になったりするんだよ。うんうん何が？身体が？その検査で、検査で。違う、牛が。その牛が？狂牛病に感染してたって。へえー、すごいね。え、それはそのあと感染したんじゃなくて？違ーう。最初は陰性って出たのに、そのあと陽性になるとかって。ふーんへーうん。も1回検査したら、なったとかって？うんうん。へーそうそうそう。

(『名大会話』 data092)

7.7 本章のまとめ

本章では書き言葉のコーパス『現代日本語書き言葉均衡コーパス』および、話し言葉のコーパス『名大会話コーパス』と『現日研・職場談話コーパス』で抽出した例文に基づいて、ジャンル別、出現位置と意味との関連から「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を考察し、分析した。結果は以下のようにまとめられる。

- ①書き言葉においては「ワケデハナイ」が使われる傾向がある一方、話し言葉においては「ノデハナイ」が多用される。
- ②出現位置を主節と従属節に分けて考察したところ、書き言葉における「ワケデハナイ」は主節に現れやすく、「ノデハナイ」は従属節に現れやすいことが確認された。その一方、話し言葉における「ワケデハナイ」は従属節に出現する傾向があり、「ノデハナイ」は主節に出現する傾向がある。
- ③「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を工藤(1997)が指摘する「結論の否定」「程度否定」および「説明の否定」「言葉づかひの否定」を用いて検討した結果、いずれの媒体においても、相互に言い換えることができる「結論の否定」と「説明の否定」の出現率が高く、言い換えが不可能とされる「程度否定」と「言葉づかひの否定」の出現率は低かった。また、意味の面からも検討したものの、媒体の差による特徴は得られなかった。

前述の 1)と 2)を踏まえて、学習者に両表現の用法を提示する際に、書き言葉と話し言葉に見られる傾向をそれぞれ作文や読解、および会話や聴解の授業に導入することが望ましいと思われる。また、日本語教育で導入する際には、3)の使用実態に即して、相互に言い換えられない例を提示し、「程度否定」による「ワケデハナイ」の用法と「言葉づかいの否定」による「ノデハナイ」の用法の説明に工夫を凝らす必要がある。その上で、相互に言い換えられる「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の用法を使用されやすい環境で使い分けられればよいのではないかと考える。

次に、本章で明らかになった「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使用環境を踏まえ、日本語学習者にとって分かりやすい指導法を提案する。まず、図 1 に示すように《どんなときに使う》では、言語外的要素にあたるジャンル(書き言葉と話し言葉)を 4 技能(読む、書く、聞く、話す)として提示し、《どこで使う》では、言語内的要素にあたる出現位置(主節と従属節)を「文末」と「文中」として提示する。また、《どんなときに使う》と《どこで使う》を踏まえて、《どちらを使えばいい》では、どちらの表現を使うべきかを明示する。

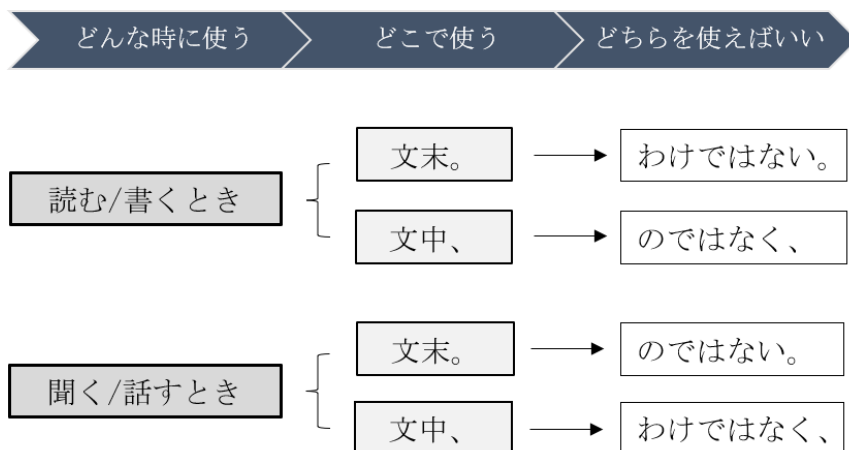


図 1 4 技能と使用位置からみる「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の使い分け

最後に、第 3 章と第 5 章の分析において、先行研究や文法解説書の意味記述を援用した理由について述べる。第 3 章と第 5 章で分析を行うにあたっては、先行研究や文法解説書における意味記述を各章における分析の土台とした。それにより具体的な情報を加える形として、第 3 章「ワケデハナイ」では共起しやすい表現と機能を、第 5 章「ノデハナイ」では否定されやすい要素を考察した。なぜ先行研究や文法解説書における意味記述を覆さ

ずに、そのまま適切な記述に従って分析するかというと、日本語教育の現場にとって、このような抽象的な記述は馴染みがあるものであるからである。そのため、本研究は「+ α 」を目指して、否定される要素や共起しやすい表現と機能を明らかにするため、馴染みのある抽象的な記述により具体性を持たせることができるのである。

また、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」のような類義表現の理解と産出を促進するためには、個別的な分析とは異なる観点から考察する必要があると思われる。そこで、本研究がたどり着いたのは、「使用環境」を考察することである。「使用環境」から選好傾向を記述することにより、類義関係にある「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」による意味の違いに過度に依存することなく学習者に違いを教えることができるのではないかと思われる。

第8章 結論

8.1 本研究のまとめ

本研究は日本語教育文法の観点から、部分否定表現「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」について、否定される要素や共起しやすい表現に着目して個別に分析し、さらにそれぞれの使用環境の観点から類義関係にある表現の分析を行った。

各章の概要は、次の通りである。

まず、第1章では、従来の先行研究や文法解説書における抽象的な意味記述と学習者による誤用例との関係に言及し、学習者の実際の運用に繋げるためには、具体的な情報として可視化された言語情報を記述する必要があることについて論じた。本研究では、各文法解説書において頻繁に取り上げられている部分否定表現「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」を考察の対象として選出した。これらを分析し可視化した言語情報は日本語教育の現場に十分に還元することができるものであると思われる。最後に、考察に用いたコーパスを概観し、本論文の構成について述べた。

第2章では、日本語教育文法と部分否定表現に関する研究の現状を概観した上で、日本語教育文法の観点から部分否定表現を考察する必要性について論じた。また、本研究の理論的枠組みである「共起」、「運用力につながる文法記述のための分析方法」、「日本語教育のための『形』『意味』『使用環境』を連動させた選好傾向の記述」について概観した。

第3章から第5章までは書き言葉コーパスの『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から抽出したデータに基づいて、「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」と共起しやすい表現、「ノデハナイ」によって否定されやすい要素を分類し、個別に分析を行った。第3章から第5章までの考察結果は以下の通りである。

第3章では、先行研究と文法解説書における「ワケデハナイ」についての記述を概観し、それらの問題点を挙げた。具体的には、先行研究や文法解説書における意味記述では、説明しにくい例文がある、共起しやすい表現について言及していない、という問題点を指摘した。そして、それらの問題点を踏まえて、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から抽出したデータに基づいて、「ワケデハナイ」と共起しやすい表現を分類し、各表現について【実在事態と推論事態の関係】と【機能】との関係を分析した。考察の結果は以下の通りである。

不成立の可能性

【共起しやすい表現】必ずしも

【実在事態と推論事態の関係】

推論事態に反する何らかの実在事態が存在する

【機能】話し手が推論事態についてそれが絶対だと言えないことを示唆することで、想定される推論を否定する

逆接の条件

【共起しやすい表現】だからといって、とは言っても、であつても(+必ずしも)

【実在事態と推論事態の関係】現実世界で推論事態が存在しない

【機能】話し手が推論事態に対してそうとは言い切れないことを示唆することで、想定される推論を否定する

極端(全体・必然・高頻度)

【共起しやすい表現】すべて、完全に、必ず、いつも、常に

【実在事態と推論事態の関係】現実世界で推論事態が存在しない

【機能】話し手が現実では対立的関係にある2つの実在事態が存在することを示唆することで、想定される推論を否定する

打ち消しの強調

【共起しやすい表現】まったく、全然

【実在事態と推論事態の関係】現実世界で推論事態が存在しない

【機能】話し手が現実世界の状況を根拠として、推論事態は存在しないことを示唆することで、想定される推論を否定する

取り立て

【共起しやすい表現】特に、別に

【実在事態と推論事態の関係】

推論事態に反する何らかの実在事態が存在する

【機能】話し手が推論事態は実在事態から区別されるような状態にないことや、特に取り立てていうことはないことを示唆することで、想定される推論を否定する

第4章では、先行研究と文法解説書における「トハカギラナイ」についての記述を概観し、それらの問題点を取り上げた。具体的には、先行研究や文法解説書における意味記述では、説明しにくい例文がある、共起しやすい表現について言及していない、という問題点を指摘した。そして、それらの問題点を踏まえて、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から抽出したデータに基づいて、「トハカギラナイ」と共起しやすい表現を分類し、各表現について【一般論と可能性の関係】と【機能】との関係を分析した。考察の結果は以下の通りである。

不成立の可能性

【共起しやすい表現】必ずしも

【一般論と可能性の関係】

一般論と反する事態が存在する可能性がある

【機能】話し手が一般論と反する事態が存在する可能性もあることを示唆する

逆接の条件

【共起しやすい表現】だからといって、とは言っても、であっても(+必ずしも)

【一般論と可能性の関係】

一般論と反する事態が存在する可能性がある

【機能】話し手が一般論に対してそうとは言い切れないことを示唆する

取り立て(限定・条件)

【共起しやすい表現】さえ、だけ、ばかり、ば、～場合

【一般論と可能性の関係】

一般論と反する事態が存在する可能性がある

【機能】話し手が一般論に対してそれと異なる自分の主張を持ち出す

極端(全体・必然・高頻度)

【共起しやすい表現】すべて、完全に、必ず、常に、永遠に、いつでも

【一般論と可能性の関係】一般論の一部が正しくない

【機能】話し手が一般論の一部の不適切さを示唆する

第5章では、先行研究と文法解説書における「ノデハナイ」についての記述を概観し、それらの問題点を取り上げた。具体的には、先行研究や文法解説書における意味記述では、先行文のあり方が明らかにされていない、「ノデハナイ」によって否定される要素への言及が不十分、という問題点を指摘した。そして、それらの問題点を踏まえて、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から抽出したデータに基づいて、否定されやすい要素に着目して「ノデハナイ」を分類し、各要素について分析を行った。考察の結果は以下の通りである。

必須格

「が」、「を」、「に」

必須格以外の格成分

「で」、「から」、「へ」

複合格助詞を含む成分

「を通じて」、「に応じて」、「ために」、「のせいで」

副詞

「ただ」、「単に」、「全部」、「まったく」

第6章と第7章は書き言葉コーパスの『現代日本語書き言葉均衡コーパス』及び、話し言葉コーパスの『名大会話コーパス』と『現日研・職場談話コーパス』から抽出したデータに基づいて、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」について、それぞれの使用環境から類義表現の分析を行った。これらの使用環境を踏まえ、日本語学習者にとって分かりやすい指導法を提案した。

第6章は、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の使用環境を調査した。第3章と第4章の分析から、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」における用法のうち、〈不成立の可能性×逆接の条件×極端(全体・必然・高頻度)〉について類義関係が成り立つことが明らかとなった。これら3用法のみを考察対象とし、言語内的要素にあたる「前接語句」の種類を調査することによって、その傾向を明らかにした。考察の結果は次の通りである。

- ①『分類語彙表-増補改訂版』の類分布から見ると、「ワケデハナイ」については「Ⅰ体の類」を表す名詞や「Ⅳその他の類」を表す接続詞や感動詞などに後接することはあまりなく、「Ⅱ用の類」を表す動詞と「Ⅲ相の類」を表す形容詞に後接して使われる傾向が見られた。一方で、「トハカギラナイ」では「Ⅲ相の類」を表す形容詞に後接することはあまりなく、「Ⅰ体の類」を表す名詞、「Ⅱ用の類」を表す動詞と「Ⅳその他の類」を表す接続詞や感動詞などに後接して使われる傾向が見られた。
- ②『分類語彙表-増補改訂版』の中項目分布から見ると、「ワケデハナイ」については「Ⅱ用の類」を表す動詞である「2. 12 存在」、「2. 15 作用」、「2. 30 心」、そして、「Ⅲ相の類」を表す形容詞である「3. 31 言語」に分類される用例が多かった。一方で、「トハカギラナイ」については「Ⅱ用の類」を表す動詞である「2. 12 存在」、「2. 15 作用」、「2. 34 行為」に分類される用例が多かった。よって、中項目分布を観察した結果、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」の前接語句として両表現とも動詞と結びつきやすいことがわかった。
- ③動詞の意味特徴について、工藤(1995)と志波(2015)を参考にすると、「ワケデハナイ」は状態変化や位置変化などの変化を表す動詞、認識を表す動詞と結びつきやすいことがわかった。また、「トハカギラナイ」は催行を表す動詞と結びつきやすいが、「ワケデハナイ」との間にそれほど差はなかった。また、「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」はいずれも存在を表す動詞と結びつきやすいことがわかった。
- ④「ワケデハナイ」は「名詞/動詞/形容詞+という+ワケデハナイ」という形式が使われる傾向が見られて、「トハカギラナイ」は「そう+トハカギラナイ」という形式が使われる傾向が見られた。

第7章では工藤(1997)を踏まえて、類義関係にある「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」の言語外的要素にあたる「ジャンル」と、言語内的要素にあたる「出現位置」に着目して使用環境を調査し、その傾向を明らかにした。考察の結果は次の通りである。

- ①書き言葉においては「ワケデハナイ」が使われる傾向がある一方、話し言葉においては「ノデハナイ」が多用される。
- ②出現位置を主節と従属節に分けて考察したところ、書き言葉における「ワケデハナイ」は主節に現れやすく、「ノデハナイ」は従属節に現れやすいことが確認された。その一方、話し言葉における「ワケデハナイ」は従属節に出現する傾向があり、「ノデハナイ」は主節に出現する傾向がある。
- ③「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」を工藤(1997)が指摘する「結論の否定」「程度否定」および「説明の否定」「言葉づかひの否定」を用いて検討した結果、いずれの媒体においても、相互に言い換えることができる「結論の否定」と「説明の否定」の出現率が高く、言い換えが不可能とされる「程度否定」と「言葉づかひの否定」の出現率は低かった。また、意味の面からも検討したものの、媒体の差による特徴は得られなかった。

8.2 今後の課題

本研究に残された課題として次の3点が挙げられる。

1つ目として、第3章から第5章にかけて行った「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」の記述が、学習者にとって言語学習過程に役に立つのかについては、今後も検証を続けていく必要がある。

2つ目は、第3章から第7章にかけて行った「ワケデハナイ」「トハカギラナイ」「ノデハナイ」についての考察の結果をまとめた分類図を日本語教育の現場にどのように活かすのか、についてである。本研究は、学習者がそれぞれの表現を適切に用いるために具体的な言語情報を提示する形で分析を行った。この分析を活かしてもらえよう、今後の日本語教育現場における実践的カリキュラムのさらなる充実を図る必要がある。

そして最後に、第6章と第7章で行った「ワケデハナイ」と「トハカギラナイ」及び、「ワケデハナイ」と「ノデハナイ」に関して、相互に置き換えられる場合、それらの表現はどのような違いがあるのかについては、更に明確な記述を深めていきたい。

参考文献

- 庵功雄(2010)「「100%を目指す文法」から「80%を目指す文法」へ」『2010世界日本語教育大会
論文集DVD』台湾日本語教育学会・台湾日本語文学会.
- 庵功雄(2011a)「日本語記述文法と日本語教育文法」森篤嗣・庵功雄(編)『日本語教育文法
のための多様なアプローチ』pp. 1-12. ひつじ書房
- 庵功雄(2011b)「100%を目指さない文法の重要性」森篤嗣・庵功雄(編)『日本語教育文法の
ための多様なアプローチ』pp. 79-100. ひつじ書房
- 庵功雄(2012)「日本語教育文法の現状と課題」『一橋日本語教育研究』1, pp. 1-12. 一橋日
本語教育研究会
- 庵功雄(2013)「日本語教育における「文法」を問い直す」『Romazi no Nippon』663, pp. 1-7.
日本のローマ字社
- 庵功雄(2014)「これからの日本語教育において求められること」『ことばと文字』
1, pp. 86-94. くろしお出版
- 庵功雄(2015a)「「産出のための文法」に関する一考察—「100%を目指さない文法」再考—」阿
部二郎・庵功雄・佐藤琢三(編)『文法・談話研究と日本語教育の接点』pp. 19-32. く
ろしお出版
- 庵功雄(2015b)「日本語学的知見から見た中上級シラバス」庵功雄・山内博之(編)『データ
に基づく文法シラバス』pp. 15-46. くろしお出版
- 庵功雄・杉村泰・建石始・中俣尚己・劉志偉編(2017)『中国語話者のための日本語教育
文法を求めて』日中言語文化出版社
- 王世和(2018)「文脈重視の日本語教育文法の研究—テイルの用法を例に一」『台湾日語教
育學報』30, pp. 113-136
- 太田陽子(2005)「文脈から見たハズダの機能」『日本語教育』126, pp. 114-123
- 太田陽子(2014)『文脈をえがく:運用力につながる文法記述の理念と方法』ココ出版
- 加藤祥・森山奈々美・浅原正幸(2019)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』書籍サンプ
ルのNDC情報増補」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』4, pp. 155-160. 国立国
語研究所
- 楠本徹也(2007)「「コミュニケーションのための日本語教育文法」という幻想」『東京外
国語大学論集』74, pp. 1-18. 東京外国語大学

- 工藤浩(1982)「叙法副詞の意味と機能—その記述方法をもとめて」『研究報告集』
3, pp. 45-92. 国立国語研究所
- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひ
つじ書房
- 工藤真由美(1996)「「～ノデハナイ」の意味と機能」『横浜国立大学人文紀要 第二類 語学・
文学』43, pp. 1-19. 横浜国立大学
- 工藤真由美(1997)「否定文とディスコース—「～ノデハナイ」と「～ワケデハナイ」—」言語学
研究会(編)『ことの科学』8, pp. 66-102. むぎ書房
- 久野暲(1983)『新日本語文法研究』大修館書店
- 久保圭(2014)「類義語を共起関係から紐解く:コーパス分析を用いた指導の有用性」『大阪
大学日本語日本文化教育センター授業研究』12, pp. 23-31. 大阪大学日本語日本文化
教育センター
- 小井亜津子(2017)『「わけ」の機能に関する研究』拓殖大学大学院言語教育研究科博士論
文
- 小西円(2008a)「実態調査からみた「義務の表現」のバリエーションとその出現傾向」『日
本語教育』138, pp. 73-82. 日本語教育学会
- 小西円(2008b)「文章・談話のタイプに関する考察の試み—「(の)ではないか」類の出
現形と使用環境の関連について—」『早稲田日本語研究』17, pp. 35-46. 早稲田大学日
本語学会
- 小西円(2011)『日本語教育のための「形」「意味」「使用環境」を連動させた選好傾向の記述—
初級の類義表現を事例として—』早稲田大学大学院日本語教育研究科博士論文
- 小林ミナ(2002)「日本語教育における教育文法」『日本語文法』2(1), pp. 153-170.
- 小林ミナ(2013)「日本語教育文法の研究動向(特集 日本語教育文法の今)」『日本語学』
32(7), pp. 4-17. 明治書院
- 小林ミナ・小西円・砂川有里子・清水由貴子・奥川育子(2016)「第3章 類義表現分析の可
能性」前川喜久雄(監修)・砂川有里子(編)『コーパスと日本語教育』pp. 65-106. 朝倉
書店
- 志波彩子(2015)『現代日本語の受身構文タイプとテキストジャンル』和泉書院
- 謝冬(2014)『中国語を母語とする日本語学習者向けの複合格助詞に関する教材開発:日本
語教育文法からの一提案』広島大学大学院国際協力研究科博士論文

- 白川博之(2002)「記述的研究と日本語教育-「語学的研究」の必要性と可能性-」『日本語文法』2(2), pp. 62-80. 日本語文法学会
- 白川博之(2005)「日本語学的文法から独立した日本語教育文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』pp. 43-62. くろしお出版
- 副島健作(2003)「現代日本語の後置詞について」『琉球大学欧米文化論集』47, pp. 53-72. 琉球大学
- 建石始(2016)「コーパスに基づいた類義表現の分析-「～たばかりだ」と「～たところだ」を例に-」『神戸女学院大学論集』63(1), pp. 113-128.
- 田中寛(2010)『複合辞からみた日本語文法の研究』ひつじ書房
- 田野村忠温(2002)『現代日本語の文法Ⅰ「のだ」の意味と用法』和泉書院
- 寺村秀夫(1979)「ムードの形式と否定」寺村秀夫(1992)『寺村秀夫論文集Ⅰ-日本語文法編』くろしお出版
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 田昊(2017)『日本語教育文法における「言いさし」の研究』一橋大学大学院言語社会研究科博士論文
- 中石ゆうこ(2013)「中間言語から見た日本語教育文法-「わかる」と「できる」の区別を通して-」『日本語学』32(7), pp. 30-39
- 中右実(編)・廣瀬幸生・加賀信広(著)(1997)『指示と照応と否定』研究社出版
- 日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編(2007)『現代日本語文法3 第5部アスペクト・第6部テンス・第7部肯否』くろしお出版
- 野田尚史(2001)「日本語学の解体と再生」『日本語言語学会第122回大会予稿集』pp. 29-34. 日本言語学会
- 野田尚史(2005a)「コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図」野田尚史(編)『コミュニケーションのための日本語教育文法』pp. 1-20. くろしお出版
- 野田尚史(編)(2005b)『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版
- 野田尚史(2010)「日本語教育と日本語研究の新しい関係を目指して」トムソン木下千尋・牧野成一(編)『日本語教育と日本研究の連携-内容重視型外国語教育に向けて』pp. 127-143. ココ出版

- 野田尚史 (2011)「新日本語研究者列伝 寺村秀夫」『日本語学』30(10), pp. 84-93.
- 野田尚史(編) (2012)『日本語教育のためのコミュニケーション研究』くろしお出版
- 馬場俊臣 (2016)「接続詞「だから」をめぐる:「しかしだから」「だからこそ」「だからか」「だからといって」」『北海道教育大学紀要』 pp. 1-14.
- 廣瀬幸生・加賀信広(著)・中右実(編) (1997)『指示と照応と否定』研究社出版
- 彭広陸(2011)「日本語文法教育及び日本語教育文法をめぐる諸問題」『日中言語研究と日本語教育』4, pp. 1-12. 日中言語研究と日本語教育研究会
- 三好裕子 (2011)「共起表現による日本語中級動詞の指導方法の検討:一動詞と共起する語のカテゴリー化を促す指導の有効性とその検証一」『日本語教育』150, pp. 101-115. 日本語教育学会
- 光信仁美 (2005)「語の共起関係」日本語教育学会(編)『新版日本語教育事典』 pp. 281-282. 大修館書店
- 森篤嗣(2011)「日本語教育文法のための研究手法」森篤嗣・庵功雄(編)『日本語教育文法のための多様なアプローチ』 pp. 13-55. ひつじ書房
- 森篤嗣・庵功雄(編) (2011)『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房
- 山内博之 (2009)『プロフィシェンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房
- 李在鎬(2011)「大規模テストの読解問題作成過程へのコーパス利用の可能性」『日本語教育』148, pp. 84-98. 日本語教育学会

辞書類と文法解説書

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(著)・松岡弘(監修) (2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(著)・白川博之(監修) (2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 泉原省二 (2007)『日本語類義表現使い分け辞典』研究社
- グループ・ジャマシイ (1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 友松悦子・宮本淳・和栗雅子 (2010)『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』アルク
- 森田良行・松木正恵 (1989)『日本語表現文型-用例中心・複合辞の意味と用法』アルク

使用コーパス

母語話者コーパス

『現代日本語書き言葉均衡コーパス(データバージョン 1.1)』

『現日研・職場談話コーパス』

『名大会話コーパス』

学習者コーパス

『オンライン日本語誤用辞典(公開版 Ver. 1.1)』

『学習者作文コーパス「なたね」』

検索ツール

コーパス検索アプリケーション『中納言』

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj--nt/searchnt/search>

国立国会図書館サーチ(NDL Search)

<https://iss.ndl.go.jp/>

『東京外国語大学言語モジュール』

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/>

『分類語彙表-増補改訂版』

考察教科書

『できる日本語 中級 本冊』(2013)アルク

『テーマ別 中級から学ぶ日本語 三訂版』(2014)研究社

『まるごと 日本のことばと文化 中級2 B1』(2017)国際交流基金

『みんなの日本語 中級Ⅱ 本冊』(2012)スリーエーネットワーク

『みんなの日本語 中級Ⅱ 教え方の手引き 第2版』(2016)スリーエーネットワーク

『みんなの日本語 中級Ⅱ 翻訳・文法解説 中国語版』(2012)スリーエーネットワーク

謝辞

本研究の執筆にあたり、ご指導とご支援を頂いた数多くの方々に御礼申し上げます。

指導教員である鷺見幸美准教授には、論文の構想から完成に至るまで、また、表現の細部まで丁寧にご指導、ご助言を頂きました。心より感謝申し上げます。

本論文の審査においては、名古屋大学大学院の杉村泰教授、林誠教授、志波彩子准教授に今後の研究において非常に貴重なものとなるご指摘、ご助言を賜りました。深く感謝申し上げます。

2013年4月に公益財団法人日本台湾交流協会日本奨学金留学生として来日し、6年間公益財団法人日本台湾交流協会の奨学金のご支援を頂き、研究に専念することができました。深謝申し上げます。

そして、元研究室の先輩と後輩の梶原彩子氏、細井駿吾氏、水谷友美氏、名古屋学院大学の内山喜代成氏とは、様々な思いを共有し、博士論文執筆中、ご意見や励ましの言葉を頂きました。感謝致します。

最後に、常に私を支えてくれた家族と友人に深く感謝します。